

令和7年度 国語科 精選国語

1 科目について

単位数	3 単位	学科・学年	3 年次
教科書	論理国語(大修館) 文学国語(数研出版)	副教材等	新訂 国語図説〔六訂版〕(京都書房) 未来をひらく常用漢字漢字検定5級～2級(桐原書店) 読み解くための現代文単語(文栄堂)【B組のみ】

2 科目の目標

言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	【観点の到達目標】 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	【観点の到達目標】 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ①国語教養について 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	【イチカシ学カスタンダード】 ①グループワークについて さまざまなグループワークを経験し、課題解決に向けて最適な手法を選択できる力を養う。 ②プレゼンテーションについて 感情的にならず、自分とは異なる考えであっても、享受し、多角的視野を持つことの大切さを養う。	【イチカシ学カスタンダード】 ①「深く学びたい」という気持ちにする動機づけ 一つの事物に対し、国語という教科を起点にして、人文・自然科学といった分野の境界を越え、多方向から見つめることで、生徒たちの探究心を育てていく。
【評価の方法】 漢字テスト 定期試験 発問評価 グループワーク プレゼンテーション	【評価の方法】 定期試験 発問評価 指名音読 グループワーク プレゼンテーション	【評価の方法】 授業態度 指名音読 ノート グループワーク プレゼンテーション

4 3観点を組み合わせた評価の方法

「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	単元名	【知・技】 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするため必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 文章の種類を踏まえていて、内容や構成、論理の展開についての確にとらえている。 【主】 学習課題に沿って、本文中の語句の定義を押さえ、粘り強く筆者の主張を読み取ろうとしている。	授業態度 発問評価 指名音読 ノート グループワーク プレゼンテーション
5	『ひよこの眼』	【知・技】 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 【主】 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って説明しようとしている。	
6	ポスト真実時代のジャーナリズムの役割	【知・技】 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするため必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 「読むこと」において、関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 【主】 学習課題に沿って、実際の社会状況を意識しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	授業態度 発問評価 指名音読 ノート グループワーク プレゼンテーション
7			
9	『舞姫』	【知・技】 明治時代の考え方や思想を理解し、作品を理解している。 【思・判・表】 豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎の望んでいた生き方をまとめる。 エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。 【主】 学習課題に沿って、本文中の語句を理解し、粘り強く作品を読もうとしている。	授業態度 発問評価 指名音読 ノート グループワーク プレゼンテーション
10			
11			
12			
1	多数決を疑う	【知・技】 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするため必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にししながら要旨を把握している。 【主】 学習課題に沿って、筆者の問題意識を把握しつつ、粘り強く筆者の主張を読み取ろうとしている。	授業態度 発問評価 指名音読 ノート グループワーク プレゼンテーション

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

「現代文」では様々な学習活動を行い、1年間の学習を通して学習到達目標を達成します。担当者からの指示や説明などをよく聞いて、積極的かつ意欲的に授業に参加してください。現代文で扱う教材は、読んでいて「分からない」と思う文章ばかりです。「分からない」から思考を止めるのではなく、「分からない」からこそ考え続けてください。

また、毎時間辞書を必ず用意しておいてください。

評価については、上で説明したように様々な観点から行います。普段の授業の1時間1時間を大切にしてください。なお、国語の力を向上させるには授業だけではなく、読書の習慣をつけることが大切です。積極的に読書に取り組み、できる限り多くの文章に触れるようにしましょう。

令和7年度 国語科 古典探究

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次
教科書	古典探究(文英堂)	副教材等	トータルサポート新国語便覧 (大修館書店) 新精選古典文法三訂版 (東京書籍)

2 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるようになるとともに、我が国の言語文化に関する次の事項を身に付ける。	【観点の到達目標】 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色にして味わうとともに、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。	【観点の到達目標】 古典の作品や文章を読み、その内容や形式などに関して興味をもったことや疑問に感じたことを主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ①国語教養について 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	【イチカシ学カスタンダード】 ①グループワークについて さまざまなグループワークを経験し、課題解決に向けて最適な手法を選択できる力を養う。 ②プレゼンテーションについて 感情的にならず、自分とは異なる考えであっても、享受し、多角的視野を持つことの大切さを知る力を養う。	【イチカシ学カスタンダード】 ①「深く学びたい」という気持ちにする動機づけ一つの事物に対し、国語という教科を起点にして、人文・自然科学といった分野の境界を越え、多方向から見つめることで、生徒たちの探究心を育てていく。
【評価の方法】 ・授業振り返りシート ・作文 ・授業ノート	【評価の方法】 ・授業振り返りシート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・作文 ・授業ノート	【評価の方法】 ・授業振り返りシート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・作文 ・授業ノート

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 5	『史記』 四面楚歌	【知】『史記』の内容について理解している。 【思】史記の舞台となった背景や経緯を理解している。 【思】人物の行動をもとに人間の生き方について理解を深めている。 【主】教材を通してわが国特有の文化について、主体的に追究しようとしている。	・振り返りシート ・グループワーク ・作文 ・授業ノート
6 7	『大鏡』 南院の競射	【知】『大鏡』の内容について理解している。 【思】他の作品との関係を踏まえて、登場人物の言動や心情を読み取っている。 【思】作品をもとに自分の意見を表現している。 【主】教材を通してわが国特有の文化について、主体的に追究しようとしている。	・振り返りシート ・グループワーク ・作文 ・授業ノート
9 10	『和泉式部日記』 薫る香に	【知】『和泉式部日記』の表現の特徴を理解している。 【思】『和泉式部日記』作者の心情を理解し、その表現の特徴を評価する。 【思】他者の発表に学び、表現力を高めている。 【主】教材を通してわが国特有の文化について、主体的に追究しようとしている。	・振り返りシート ・グループワーク ・作文 ・授業ノート
11 12	『漢詩』 涼州詞・月夜	【知】『漢詩』の内容と作者について理解している。 【思】作品の構成を理解している。 【思】先哲の作品をもとに自ら詩を創作している。 【主】教材を通してわが国特有の文化について、主体的に追究しようとしている。	・振り返りシート ・グループワーク ・作文 ・授業ノート
12 1	『更級日記』 あづま路の道の果て	【知】『更級日記』の内容と作者について理解している。 【思】作者の心情を読み取っている。 【思】現代と関連付けることで、読みを深めている。 【主】教材を通してわが国特有の文化について、主体的に追究しようとしている。	・振り返りシート ・グループワーク ・作文 ・授業ノート

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

知識を得るだけではなく、「得た知識を違う分野に生かすためにはどうすればよいか」という観点を持ちながら授業に臨んでほしい。自分の意見を持つことはもちろん大切であるが、他所の意見にも耳を傾け、物事のとらえ方・考え方は一つではないということにも気づいてほしい。「授業を受ける」のではなく「授業をクラス全員で作ります」ものだとならえ、積極的に参加してください。

令和7年度 国語科 古典研究

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次
教科書	古典探求(文英堂)	副教材等	新訂国語図説六訂版 (啓隆社)

2 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	【観点の到達目標】 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	【観点の到達目標】 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
【イチカシ学カスタンダード】 ◇国語教養について 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	【イチカシ学カスタンダード】 ◇グループワークについて さまざまなグループワークを経験し、課題解決に向けて最適な手法を選択できる力を養う。 ◇プレゼンテーションについて 自分とは異なる考えであっても、享受し、多角的視野を持つことの大切さを知る力を養う。	【イチカシ学カスタンダード】 ◇「深く学びたい」という気持ちにする動機づけ 国語という教科を起点にして、人文・自然科学といった分野の境界を越え、物事を多方面から捉えられるようにする。
【評価の方法】 ○小テスト ○課題レポート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・授業ノート	【評価の方法】 ○小テスト ○課題レポート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・授業ノート ・授業振り返りシート	【評価の方法】 ○小テスト ○課題レポート ○授業振り返りシート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・授業ノート

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 7	源氏物語 百人一首	【知・技】『源氏物語』という作品について基礎的な知識を持っている。 『源氏物語』の登場人物の関係を理解している。 【思・判・表】話の展開を把握している。 登場人物の思いを読み取っている。 自分の考えを持ち、発表できる。 【主】教材に興味を持って取り組んでいる。 他者の考えを知り、自分の考えを深めようとしている。	○小テスト ○レポート ○課題レポート ・プレゼンテーション ・振り返りシート ・グループワーク ・授業ノート (演習含む)
9 12	源氏物語 百人一首	【知・技】『源氏物語』という作品について基礎的な知識を持っている。 『源氏物語』の登場人物の関係を理解している。 【思・判・表】話の展開を把握している。 登場人物の思いを読み取っている。 自分の考えを持ち、発表できる。 【主】教材に興味を持って取り組んでいる。 他者の考えを知り、自分の考えを深めようとしている。	
1 3	課題研究 問題演習	【知・技】読解のために必要な古文単語や文法について理解を深めている。 【思・判・表】話の展開を把握している。 作中人物の心の動きや行動等の丁寧な読み取りができています。 【主】教材に興味を持って取り組んでいる。 自身の教材への考えを深めようとしている。	

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

知識を得るだけではなく、「得た知識を違う分野に生かすためにはどうすればよいか」という観点を持ちながら授業に臨んでほしい。

自分の意見を持つことはもちろん大切であるが、他所の意見にも耳を傾け、物事のとらえ方・考え方は一つではないということにも気づいてほしい。「授業を受ける」のではなく「授業をクラス全員で作ridす」ものだととらえ、積極的な取り組みを期待する。

令和 7 年度 国語科 言語活動国語

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次
教科書	国語表現(東京書籍)	副教材等	国語表現ワークブック(東京書籍)

2 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	【観点の到達目標】 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	【観点の到達目標】 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ① 国語教養について 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	【イチカシ学カスタンダード】 ①グループワークについて さまざまなグループワークを経験し、課題解決に向けて最適な手法を選択できる力を養う。 ②プレゼンテーションについて 感情的にならず、自分とは異なる考えであっても、享受し、多角的視野を持つことの大切さを知る力を養う。	【イチカシ学カスタンダード】 ①「深く学びたい」という気持ちにする動機づけ 一つの事物に対し、国語という教科を起点にして、人文・自然科学といった分野の境界を越え、多方向から見つめることで、生徒たちの探究心を育てていく。
【評価の方法】 ・授業振り返りシート ・ワークブック ・ワークシート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・作文 ・はがき	【評価の方法】 ・授業振り返りシート ・ワークブック ・ワークシート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・作文 ・はがき	【評価の方法】 ・授業振り返りシート ・ワークブック ・ワークシート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・作文 ・はがき

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 7	分かりやすく説明しよう 論理的な文章を書こう	【知・技】・話し言葉と書き言葉の特徴や役割, 表現の特色について理解を深め, 伝え合う目的や場面, 相手, 手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し, 使い分けている。 ・実用的な文章などの種類や特徴, 構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 【思・判・表】・「話すこと・聞くこと」において, 自分の思いや考えが伝わるよう, 具体例を効果的に配置するなど, 話の構成や展開を工夫している。 ・「書くこと」において, 自分の思いや考えを明確にし, 事象を的確に描写したり説明したりするなど, 表現の仕方を工夫している。 【主】・分かりやすい説明に必要なことを粘り強く理解しようとし, 学習課題に沿って, 言葉選びや言葉遣い, 情報の整理などの観点から, 説明の仕方を改善しようとしている。 【知・技】・実用的な文章などの種類や特徴, 構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 【思・判・表】・「書くこと」において, 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して, 文章全体を整えたり, 読み手からの助言などを踏まえて, 自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 【主】小論文を書く活動を通じて, 設問に応じて主張を組み立て, 根拠を明確にしながらか論じることが粘り強く理解し, 学習の見通しをもって自らの文章を改善しようとしている。	・振り返りシート ・ワークブック ・ワークシート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・作文
9 12	「自分」を表現しよう 話し合う力をつけよう	【知・技】・話し言葉と書き言葉の特徴や役割, 表現の特色について理解を深め, 伝え合う目的や場面, 相手, 手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し, 使い分けている。 【思・判・表】・「話すこと・聞くこと」において, 自分の思いや考えが伝わるよう, 具体例を効果的に配置するなど, 話の構成や展開を工夫している。 ・「書くこと」において, 自分の考えを明確にし, 根拠となる情報を基に的確に説明するなど, 表現の仕方を工夫している。 【主】自分を表現する活動を通じて, 相手に共感をもって聞いたり読んだりしてもらうために必要なことを粘り強く理解し, 今までの学習を生かして表現を改善しようとしている。 【知・技】・話し言葉と書き言葉の特徴や役割, 表現の特色について理解を深め, 伝え合う目的や場面, 相手, 手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し, 使い分けている。 【思・判・表】・「話すこと・聞くこと」において, 自分の主張の合理性が伝わるよう, 適切な根拠を効果的に用いるとともに, 相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど, 話の展開や構成を工夫している。 【主】・ファシリテーションの意義や技法を粘り強く理解し, 学習の見通しをもって話し合いの中で積極的に実践しようとしている。	・振り返りシート ・ワークブック ・ワークシート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・作文
1 3	手紙の書き方	【知・技】・実用的な文章などの種類や特徴, 構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 【思・判・表】・「書くこと」において, 自分の思いや考えを明確にし, 事象を的確に描写したり説明したりするなど, 表現の仕方を工夫している。 【主】・自身の経験を振り返り, 読み手を意識しながら粘り強く表現の仕方を工夫して, 自分の思いを的確な言葉で表現しようとしている	・振り返りシート ・ワークブック ・ワークシート ・はがき

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

我々が自分の考えを表現するには、その内容を的確に相手に伝えるために、さまざまな技法が必要になってきます。音声で伝える場合と文章で伝える場合は当然違いがあります。それぞれについて適切な事柄を修得して下さい。また、コミュニケーションの際には相手の話を聞く態度も非常に重要になります。相手を思いやることも身に付けて下さい。良い小論文や作文を書くためには自分の考えをしっかりと持たなければなりません。そのためにはいろいろなことに興味を持ち、小さなことにも疑問を持って生活する姿勢が大切です。さらに国語力を高めるには読書が必要不可欠です。積極的に読書に親しみましょう。

国語辞典を使うことが多くなると思います。用意しておきましょう。

令和7年度 地理歴史科 日本史基礎

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次選択者
教科書	詳説 日本史(山川出版社)	副教材等	最新 日本史図表(第一学習社)

2 科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 学習の到達目標および評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・基礎的・基本的事項を身に付ける ・資料の収集、読み取り、活用する力を身につける。	【イチカシ学カスタンダード】 ・歴史の変化を多面的・多角的に思考・判断できる力を身につける ・自分の考えを相手に効果的に説明したり、表現したりする力を身につける。	【イチカシ学カスタンダード】 ・課題やグループワークを通じて歴史の事象の課題を主体的に追究する力 ・様々な事象を通じて多面的。多角的な主体性を育む
【評価材料等】 ・提出課題 ・定期考査・小テスト ・授業での制作物 など	【評価材料等】 ・提出課題 ・グループワーク、発表 ・定期考査 など	【評価材料等】 ・授業内の発表、提出物 ・グループワーク ・振り返りシート など

学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	第11章 近世から近代へ 1. 開国と幕末の動乱 2. 幕府の滅亡と新政府の発足	【知・技】欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から定説に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。 【思・判・表】日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】日本の開国にかかわる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追求しようとしている。 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。	・ペーパーテスト ・グループワーク ・発表 ・製作物
5 7	第12章 近代国家の成立 1. 明治維新と富国強兵 2. 立憲国家の成立 第13章 近代国家の展開 1. 日清・日露戦争と国際関係 2. 第一次世界大戦と日本 3. ワシントン体制	【知・技】明治政府による中央集権化の諸政策と士族の反乱の終焉、諸外国との対外関係について理解している。 自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。 条約改正の完成、東アジアへの勢力拡張などについて読み取り、この時期の戦争の背景や、日本の国際的地位の変化を理解している。 ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経緯や民族運動の高揚に着目し、国大での社会運動がおこった背景と政党政治の成立について理解している。 【思・判・表】諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 国内体制を欧米の水準に合わせるものが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 議会在戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて考察し、根拠を明らかにして表現している。 【主】明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追求しようとしている。 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追求しようとしている。 対外的な戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学	・ペーパーテスト ・グループワーク ・発表 ・製作物

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
		習へのつながりを見出そうとしている。	
9 12	第14章 近代の産業と生活 1.近代産業の発展 2.近代文化の発展 3.市民生活の変容と大衆文化 第15章 教皇と第二次世界大戦 1.恐慌の時代 2.軍部の台頭 3.第二次世界	【知・技】産業の発展の背景に影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。 政治・経済体制の変化に着目して、満州事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。 戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 【思・判・表】地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。 ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。 当時の社会が抱えた矛盾と満州事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 【主】産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的に追求しようとしている。 当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追求しようとしている。 満州事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追求しようとしている。 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追求しようとしている。	・ペーパーテスト ・グループワーク ・発表 ・製作物
1	第16章 占領下の日本 1.占領と改革 2.冷戦の開始と講話	【知・技】第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。 【思・判・表】戦後の諸改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果について根拠を明確にして表現している。 【主】現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果を課題について、主体的に追求しようとしている 連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追求しようとしている。	・ペーパーテスト ・グループワーク ・発表 ・製作物
	テーマ史① 「食と日本人」	【知・技】食生活の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、時代の背景や生活の様子などを理解している。 【思・判・表】時代ごとの民衆の生活における諸課題を踏まえ、食生活の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】日本の食生活にかかわる諸事象を当時の社会情勢を踏まえて考察し、食生活の変化について主体的に追求しようとしている。	・ペーパーテスト ・グループワーク ・発表 ・製作物

担当者からのメッセージ(学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

日本史基礎では、近現代の歴史を世界と日本を通じて様々な角度から学習していきます。社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に活躍できる人になることを期待しています。

歴史に触れることは当時の人々がどのようなことを考え生活していたか、またどのような判断を下していたのか知ることができます。考え方の違いに触れ、受け入れることは、多様性を生きる皆さんにとって非常に大切な事となります。

時代を追っていく学習のほかに、テーマ史で日本の歴史を学習することもあります。時代ごとの特徴や変化を感じ、まとめ、表現しましょう。

自ら学習課題を設定し、探究し、表現することを重視しています。積極的に授業に取り組むことを期待しています。

令和 7 年度 公民科 政治・経済

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次
教科書	高等学校 政治・経済(第一学習社)	副教材等	政治経済 2025(とうほう)

2 科目の目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	【観点の到達目標】 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	【観点の到達目標】 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。
【イチカシ学カスタンダード】 ・基礎的事項を習得し、日常生活の中で使用できる。 ・資料を読み取るだけでなく、自ら資料をまとめ、他者に説明できる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・グループワークを通して課題を構想し、自分なりの解決方法を説明することができる。	【イチカシ学カスタンダード】 他者の意見も尊重しながら聞くことができ、自らの意見を形成することができる。
【評価の方法】 ・期末考査 ・授業での製作物	【評価の方法】 ・期末考査 ・単元レベルでのレポート等	【評価の方法】 ・考査やレポートにおける記述

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	日本国憲法と現代政治のあり方	【知・技】政治・法・人権について理解している。 【思・判・表】法の意義・人権の保障・民主政治のあり方について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題
5	望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方	【知・技】地方自治と政党の役割について理解している。 【思・判・表】住民の権利・選挙の課題・主権者としての政治参加のあり方について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題
6	市場経済の機能と限界	【知・技】資本主義経済・貨幣の働き・消費者問題について理解している。 【思・判・表】市場・企業・消費者について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「市場経済の機能と限界」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
7	持続可能な財政および租税のあり方	【知・技】財政・租税について理解している。 【思・判・表】経済活動について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「持続可能な財政および租税のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題
9	金融を通じた経済活動の活性化	【知・技】金融の働きと金融政策について理解している。 【思・判・表】財政における国と地方の役割分担・持続可能な財政について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「金融を通じた経済活動の活性化」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題
10	経済活動と福祉の向上	【知・技】産業構造・労働法・社会保障制度について理解している。 【思・判・表】中小企業・農業経営者・労働問題などの課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「経済活動と福祉の向上」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題
11	国際法の果たす役割	【知・技】国際法・国際紛争・国際連合について理解している。 【思・判・表】領土問題・国際連合・核兵器廃絶について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「国際法の果たす役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題
12	国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割	【知・技】日本の安全保障について理解している。 【思・判・表】国際社会において日本がこれから果たすべき役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
1	相互依存関係が深まる国際経済の特質 国際経済において求められる日本の役割	【知・技】国際分業・国際収支統計・為替相場について理解している。 【思・判・表】日本の対外経済取引・地域経済統合について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】「相互依存関係が深まる国際経済の特質」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

1年間の学習を通して、ニュースなどの基本が理解でき、政治や経済の動向が分かるようになります。また、政治や経済についての見方が広がり、考え方も深まります。授業への積極的な取組みを期待します。特に、今の世の中に興味・関心を持つことが大切で日常からニュース、新聞のみならず身の回りで起きていることに注意しておくことが必要となります。

令和7年度 地理歴史科 世界史探究

1 科目について

単位数	4 単位	学科・学年	3年次
教科書	世界史探究(山川出版)	副教材等	特になし

2 科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	【観点の到達目標】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。	【観点の到達目標】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
【イチカシ学カスタンダード】 ・必要な資料を選択して有効に活用し、社会的事象を一面的に捉えるのではなく、様々な角度から捉える力を身につける	【イチカシ学カスタンダード】 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 ・概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力	【イチカシ学カスタンダード】 ・多面的・多角的な考察や深い理解 ・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う ・日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さを深める
【評価の方法】 ・期末考査	【評価の方法】 ・期末考査	【評価の方法】 ・リアクションペーパー ・プレゼンテーション等

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	单元名 ・文明の成立と古代文明の特質 ・中央ユーラシアと東アジア世界	【知・技】 世界各地で多様な支配観念(王権)が形成されたことを理解している。 古代オリエント文明とその周辺でおこなわれた神権政治の多様性を理解している。 中国の古代文明における神権政治の多様な展開とその現代的影響を理解している。 【思・判・表】 貧富の差の拡大や仕事の分業化などの社会的関係を多面的・多角的に考察し、支配観念の形成について表現している。 中国の古代文明における神権政治について、その推移や多様な展開の比較、現代的影響に着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】 神権政治にもとづく専制的な政治が、人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合い、より良い社会形成のための政治のあり方を主体的に追究しようとしている。 諸地域世界の学習を振り返り、生業、身分、階級、王権、宗教、文化・思想などの学習の視点や方法について確認し、他の諸地域世界について、学習の視点や方法などのつながりを見出している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
5	・南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・西アジアと地中海周辺の国家形成	【知・技】 南アジアの人々が解脱などの内面的な信仰だけでなく、政治的文化的な働きを求めていることを理解している。 ギリシア民主政と現代の政治制度との違いを理解している。 【思・判・表】 南アジアの王や宗教家、一般の人々が仏教に求めた働きを比較して、宗教に求められた働きについて多面的・多角的に考察し、表現している。 元首政、専制君主政、東西分割と柔軟に対応したことや、共和政の伝統を尊重・維持してきたこと、帝国の強大さの表象など長期に繁栄した要因を理解している。 【主】 仏教やヒンドゥー教が、人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合い、より良い社会形成のための宗教のあり方を主体的に追究しようとしている。 あらたにイスラーム世界に組み込まれた地域の社会の変化が、人々の生活にどのような変化をもたらしたのか、また人々の生活を安定させ豊かにするものであったか話し合い、より良い社会形成のための政治のあり方を主体的に追究しようとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
6	・イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム教の伝播と西アジアの動向	【知・技】 イスラーム教が西アジア、北アフリカへの領域拡大と並行して伝播した経緯と、各地域の政治、文化の変容について理解している。 【思・判・表】 イスラーム教が西アジア・北アフリカを変容させていく状況を多面的・多角的に考察し、再定義している。 キリスト教を軸とするヨーロッパ世界の特徴を多面的・多角的に考察し、改めて定義している。 【主】 イスラーム世界の拡大が、伝播した地域にどのような影響を与えたか、また、人々の生活に安定や豊かさをもたらすものであったのか話し合い、イスラーム教の拡大の持つ意味を主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
7	・ヨーロッパ世界の変容と展開	【知・技】 教皇権の伸長、西ヨーロッパの拡大運動と商業の発達、中世都市の誕生など、西ヨーロッパ中世の枠組みや体制が形成されたことを理解している。 中世西ヨーロッパの特徴である、封建制、王権の弱体状況を理解するとともに、それらが崩れて近代国家形成へ向かう状況を理解している。 【思・判・表】 西ヨーロッパの封建社会の中で展開した、教会制度・拡大運動・商業の発達の状況を、具体的に考察し定義している。 中世西ヨーロッパの文化のあり方を、ビザンツ帝国やイスラーム圏との関連を多面的・多角的に考察し、定義している。 【主】 中世ヨーロッパ世界が、地域ごとにどのような特徴を持つのか、また、人々の生活に安定や豊かさをもたらすものであったのか話し合い、中世ヨーロッパ世界の特徴や意義を主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
9	・東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・大交易・大交流の時代 ・アジアの諸帝国の繁栄	【知・技】 唐から宋にかけて、支配者層が入れ替わり、周辺所民族の侵入が中国社会に与えた影響を多面的に理解している。 ポルトガルやスペインの海外進出の本格化が、「世界の一体化」の端緒となり、のちの本格的な世界の結びつきへとつながってゆくことを理解している。 【思・判・表】 唐から宋にかけての支配者層の入れ替わりや、周辺所民族との関りが中国社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し、定義している。 ヨーロッパがしきりに海外進出を進めた16世紀の東南アジア、東アジアの社会の特色や多様性を理解している。 【主】 モンゴル帝国の拡大が交易に与えた影響や、人々の生活に安定や豊かさをもたらすものであ	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出

		ったのか話し合い、モンゴル帝国の領域の拡大の持つ意味を主体的に追究しようとしている。	
10	・近世ヨーロッパ世界の動向 ・産業革命と環大西洋革命	【知・技】 ルネサンス運動の多様性と、後のヨーロッパ社会や現代に与えた影響を理解している。 主権国家体制の成立の意義と三十年戦争の与えた影響を理解している。 フランス革命とナポレオンの支配の特色や多様性について理解している。 【思・判・表】 ルネサンス運動を多面的・多角的に考察し、改めてルネサンス運動を定義している。 ヨーロッパ各地でおこなわれた宗教改革とカトリック改革や宗教対立がヨーロッパ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し、宗教改革を定義している。 フランス革命とナポレオンの支配について多面的・多角的に考察し、改めてフランス革命と発展について定義している。 【主】 主権国家体制の形成と地球規模の交易が、いかに人々の生活を豊かにし安定させるものであったのかを話し合い、現代の社会において、よりよい社会や国際関係のあり方を主体的に探究している。	定期考査 小テスト 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
11	・イギリスの優位と欧米国民国家の形成	【知・技】 ウィーン体制のもとで構築されたヨーロッパの国際秩序の特質と、その崩壊の過程を理解している。 領土の拡大にともなう、奴隷制をめぐる南北の対立を背景に勃発した南北戦争の経過と、19世紀後半のアメリカ合衆国の発展について理解している。 【思・判・表】 ウィーン体制の形成とその特質、ウィーン体制が19世紀のヨーロッパに及ぼした影響を多面的・多角的に考察し、その歴史的意義を表現している。 クリミア戦争後のヨーロッパ各国の情勢や、ビスマルクが再構築した列強体制、国際運動やヨーロッパの拡大について多角的・多面的に考察し、ヨーロッパの国際情勢の変化について表現している。 【主】 欧米諸国が形成した国民国家は、欧米諸国の人々の暮らしを安定させ、豊かな社会を築いたかを話し合い、より良い社会を形成するために何が必要であるかを主体的に追求しようとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
12	・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動	【知・技】 オスマン帝国の弱体化と東方問題、列強の経済的支配と帝国が取り組んだ近代化をめざす諸改革、ロシアとイギリスの勢力争いに巻き込まれたイラン、アフガニスタンの状況を理解している。 【思・判・表】 ヨーロッパ諸国の進出と反乱のなかで近代化にとりくんだ清、近代化とともに海外進出を進めた日本、日中両国が勢力を争った朝鮮について、多角的・多面的に考察し、表現している。 【主】 19世紀のヨーロッパ諸国の干渉や植民地政策がアジアの諸地域に及ぼした影響と、アジア諸地域の対応について話し合い、これからの世界がより良い社会を形成するために何が必要であるかを主体的に追求しようとしている。	定期考査 小テスト 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
1	・第一次世界大戦と世界の変容 ・第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 ・冷戦と第三世界の台頭 ・冷戦の終結と今日の世界	【知・技】 第一次世界大戦が起こった背景とその結果、ロシアで社会主義政権が成立した過程とその影響を理解している。 植民地支配を維持しようとする列強の進出に抵抗する、第一次世界大戦後のアジア・アフリカ諸地域の民族運動を理解している。 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊などをもとに、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 【思・判・表】 第二次世界大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなど諸地域の変容を構造的に理解している。 【主】 19世紀末から20世紀初めの国際関係と、それを背景として起こった第一次世界大戦とロシア革命を多角的・多面的に考察し、表現している。 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊について多面的・多角的に考察し、国際関係の緊張と対立を構造的に理解し、改めて世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊を定義している。 第二次世界大戦について多面的・多角的に考察し、改めて第二次世界大戦を定義している。 【主】 第一次世界大戦とロシア革命による世界最初の社会主義国の成立は、人々の生活にどのような影響を及ぼしたのかを話し合い、これからの世界がより良い社会を形成するために何が必要であるかを主体的に追求しようとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

世界史探究では、古代から現代までを扱います。二次次に受けた「歴史総合」の応用です。世界の歴史を広く浅く触れていこうと思っています。
この世界史探究の授業をうけて、他国の文化を尊重する大切さを学んでいってください。

令和7年度 地理歴史科 世界史基礎

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次選択者
教科書	世界史探究(山川出版)	副教材等	特になし

2 科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	【観点の到達目標】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。	【観点の到達目標】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
【イチカシ学カスタンダード】 ・必要な資料を選択して有効に活用し、社会的事象を一面的に捉えるのではなく、様々な角度から捉える力を身につける	【イチカシ学カスタンダード】 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 ・概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力	【イチカシ学カスタンダード】 ・多面的・多角的な考察や深い理解 ・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う ・日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さを深める
【評価の方法】 ・期末考査	【評価の方法】 ・期末考査	【評価の方法】 ・リアクションペーパー等 ・プレゼンテーション

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	単元名 ・大交易・大交流の時代	【知・技】 ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。 【思・判・表】 ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主】 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
5	・アジアの諸帝国の繁栄	【知・技】 オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 【思・判・表】 オスマン帝国とサファヴィー朝を比較したうえで、それぞれの特徴や両者の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 【主】 オスマン帝国とサファヴィー朝について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
6	・近世ヨーロッパ世界の動向	【知・技】 ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。 【思・判・表】 美術作品の図像などの資料をもとに、ルネサンスの新しさと古さを多面的・多角的に考察し表現している。 「九十五カ条の論題」や『キリスト者の自由』などの資料をもとに、宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。 【主】 ルネサンスについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
7	・産業革命と環大西洋革命	【知・技】 産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。 フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。 【思・判・表】 当時の工場の様子を描いた図像資料や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 「旧体制」の風刺画などの図像資料や人権宣言などの資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。 【主】 イギリス産業革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
9	・イギリスの優位と欧米国民国家の形成	【知・技】 19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。 【思・判・表】 ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 鉄道距離の推移を示す統計やイタリアとドイツの統一を示す地図などをもとに、19世紀後半に 【主】 ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 アメリカ合衆国の発展について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出

10	・アジア諸地域の動揺	【知・技】 オスマン帝国・イラン・アフガニスタンにおける動揺や改革の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて理解している。 【思・判・表】 マムルークの一掃を表した図像資料やオスマン帝国憲法などの資料をもとに、この時期のアジア各地での変化や改革について多面的・多角的に考察し表現している。多面的・多角的に考察し、改めてフランス革命と発展について定義している。 【主】 西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
11	・帝国主義とアジアの民族運動	【知・技】 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。 アジア各地における改革や民族運動がどのように展開し、いかなる結果をもたらしたのかを理解している。 【思・判・表】 国際情勢を風刺した図像資料や「白人の責務」などの資料をもとに、欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現している。 列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主】 列強の世界分割について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
12	・第一次世界大戦と世界の変容	【知・技】 第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦のもたらした結果などとあわせて理解している。 第一次世界大戦がアジア・アフリカの各地に与えた影響を理解する。 【思・判・表】 塹壕戦やさまざまな新兵器、軍需工場で働く女性の図などの第一次世界大戦に関する図像資料および「平和に関する布告」などの資料をもとに、第一次世界大戦とロシア革命が世界にもたらした変容を多面的・多角的に考察し表現している。 【主】 第一次世界大戦とロシア革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出
1	・第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	【知・技】 世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動きについて理解する。 第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。 【思・判・表】 政治的なポスターなどの図像資料や経済的な変化を示す統計資料をもとに世界恐慌下の各国における変容を、またナチ党の全国党大会の図像資料や・介石「盧溝橋事件に関する廬山談話」の文字資料などをもとにファシズム諸国や日本の動きについて、多面的・多角的に考察し表現している。 【主】 世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 第二次世界大戦について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

世界史探究では、近現代を扱います。二年次に受けた「歴史総合」の応用です。世界の歴史を広く浅く触れていこうと思っています。この世界史探究の授業をうけて、他国の文化を尊重する大切さを学んでいってください。

令和6年度 地理歴史科 日本史探究

1 科目について

単位数	4 単位	学科・学年	3 年 選択者
教科書	詳説 日本史(山川出版社)	副教材等	最新 日本史図表(第一学習社)

2 科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	【観点の到達目標】 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	【観点の到達目標】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
【イチカシ学カスタンダード】 ・基礎的・基本的事項の習得 ・資料の収集、読み取り、活用、まとめを確実に行える力	【イチカシ学カスタンダード】 ・歴史的なものの見方、考え方の習得 ・物事を多面的、多角的に考察し課題を把握する力 ・自分の考えを相手に効果的に説明したり、議論したりする力	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学習に取り組む ・主体的な課題の発見、解決
【評価の方法】 ・定期考査・小テスト ・授業プリント ・授業での制作物 など	【評価の方法】 ・定期考査 ・授業プリント、発表 など	【評価の方法】 ・授業内の発表、提出物 ・課題への取り組み ・振り返りシート など

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の3観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	日本史を学ぶ前に必要なこと 日本文化のあけぼの	【知・技】 日本史の学習に必要な「時代区分」と各時代の大まかな特色、や日本地図の見方について、基本的な知識を理解している。 【思・判・表】 時間や空間を相手に分かるように表現できる。 【主】 自らの学習を調整しながら、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が身に付くよう粘り強く取り組もうとしている。 【知・技】 縄文時代と弥生時代にどのような特色があり、社会の仕組みや文化を生み出し行き、現代との違いや同一性、現代に与えた影響を理解している。 【思・判・表】 遺跡や遺物などの資料をもとに各時代の特徴をまとめ、自分の意見として表現することができる。 【主】 自らの学習を調整しながら、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が身に付くよう粘り強く取り組もうとしている。	定期考査・小テスト 授業プリント・課題・発表

5	古墳とヤマト政権	【知・技】東アジア世界の影響を受けて日本において、国家形成がどのようになされていったのかを理解している。 【思・判・表】 周辺諸国との関係や影響に着目して日本において古代国家の形成の過程について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 【主】 自らの学習を調整しながら、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が身に付くよう粘り強く取り組もうとしている。	定期考査・小テスト 授業プリント・課題・発表
6 7	律令国家の形成	【知・技】 律令体制の成立過程・貴族政治の展開、諸文化の特色、地方支配の変化や武士の出現など古代の社会と文化の変容を理解している。 【思・判・表】 古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 【主】 自らの学習を調整しながら、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が身に付くよう粘り強く取り組もうとしている。	定期考査・小テスト 授業プリント・課題・発表
9 10	武家政権	【知・技】 土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。 【思・判・表】 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【主】 自らの学習を調整しながら、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が身に付くよう粘り強く取り組もうとしている。	定期考査・小テスト 授業プリント・課題・発表
11 12	近世	【知・技】 中世から近世への時代の転換を理解している。 【思・判・表】 時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することができる。 【主】 自らの学習を調整しながら、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が身に付くよう粘り強く取り組もうとしている。	定期考査・小テスト 授業プリント・課題・発表
1	近代・現代	【知・技】 近代から現代への時代の転換および歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を理解している。 【思・判・表】 歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現することができる。 【主】 自らの学習を調整しながら、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が身に付くよう粘り強く取り組もうとしている。	定期考査・小テスト 授業プリント・課題・発表

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

「日本史探究」で学ぶことは現代に生きる私たち自身の姿を学ぶことでもあります。歴史に関する知識を基にして、現代の日本および世界の動向に興味・関心をもち、広い視野で物事を認識できるよう希望します。指示がなくとも自分で調べてみる主体的な学習習慣を身に付けましょう。調べたことをまとめ相手に誤解のないように伝える能力は社会に出てからも必要となります。

プリントや課題など提出物の期限は厳守してください。

令和 7 年度 数学科 数学研究β

1 科目について

単位数	4単位	学科・学年	普通科 3年次 理系選択
教科書	なし	副教材等	チェックノート 数学Ⅰ+A、数学Ⅱ+B

2 科目の目標

数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し、表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学の良さを認識し、それらを活用し、数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 数と式、図形と計量、2 次関数 図形の性質、場合の数と確率 及びデータの分析についての 基本的な概念や原理・法則を 体系的に理解するとともに、事 象を数値化したり、数学的に 解釈したり、数学的に表現・処 理したりする技能を身に付け る。	【観点の到達目標】 命題の条件や結論、図形の構成要素間に着目し、数や 式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりす る力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質 や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係 に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グ ラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象など から設定した問題について、データの散らばりや変量 間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を 行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的 に考察し判断したりする力を養う。	【観点の到達目標】 数学のよさを認識し数学を活用 しようとする態度、粘り強く考え 数学的論拠に基づいて判断しよ うとする態度、問題解決の過程 を振り返って考察を深めたり、評 価・改善したりしようとする態度 や創造性の基礎を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ・数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける 基本的な概念や原理、法則 を理解できる。 ・基本的な概念や原理、法 則にしたがって基本的な計 算ができる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・問題を数学的に考察し解法の見通しをもてる。 ・解法の見通しにしたがって答えを求められる。 ・求めた答えが問題の答えとして適切であるかを 振り返り判断できる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・積極的に授業に取り組む姿 勢や粘り強く問題に立ち向か う姿勢が身につく。
【評価の方法】 定期考査	【評価の方法】 定期考査	【評価の方法】 ・定期考査 ・演習ノートの取り組み内容 ・発表の発言内容 ・科目に取り組む姿勢 ・授業内小テスト ・ポートフォリオ など

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	～数学Ⅰ～ 数と式 二次関数 図形と軽量	【知・技】 ・整式の加法・減法・乗法、および因数分解について理解を深め、公式などを利用して整式の展開や因数分解を能率よく計算できるよ。 ・平方根を含む計算の基本的な考え方について理解を深める。1次不等式の解法に習熟させ、大小に関する身近な問題の解決に活用できる。 ・2次関数のグラフの概形を平行移動の考え方を利用して描ける。 ・与えられた放物線のグラフからその2次関数を定められるようにする。 ・2次関数のグラフを利用して2次関数や2次不等式の解について理解を深め、2次不等式の解法を習熟させる。 【思・判・表】 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用する。 ・2次関数の最大・最小について理解を深め、最大値や最小値を求める具体的な問題の解決に活用できる。 ・2次方程式の解法に習熟させ、解の公式や実数解の個数について理解を深め、身近な事象の問題の解決に活用できる。 ・三角比を平面図形や空間図形の考察に活用する。 ・散布図及び相関係数の意味を理解させるとともに、それらを利用してデータの相関を的確にとらえ説明できる。 【主】 ・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
5			
6	～数学 A～ 場合の数と確率	【知・技】 ・順列の意味を理解させ、その総数を求められる。 ・組み合わせの意味を理解させ、その総数を求められる。 ・Cの意味を理解させ、公式が活用できる。 ・試行や事象の考え方を明確にして、確率の基本的な法則をまとめ、いろいろな事象の確率について理解する。 ・集合の考え方とその要素の数え方を適切に活用し、同様に確からしい事象の確率が求められる。 【思・判・表】 ・独立な試行について、具体例を通してその意味を理解させる。それをもとに、反復試行の確率が求められる。 ・条件つき確率の意味を理解させ、簡単な場合について条件つき確率を求め、それを事象の考察に活用できる。 ・約数と倍数、素因数分解、最大公約数、最小公倍数、ユークリッドの互除法、方程式の整数解、循環小数、2進法などを理解させ、整数の性質の活用ができる。 【主】 ・確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
7	～数学Ⅱ～ 式と証明	【知・技】 ・整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できる。 【思・判・表】 ・等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 ・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 【主】 ・高次方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
9	～数学Ⅱ～ 図形と方程式 三角関数 指数関数	【知・技】 ・点や直線の基本的な性質や関係を座標や式を用いて考察し、2点間の距離、分点の座標、直線の方程式などについて理解できる。 ・座標や式を用いて、円の基本的な性質を考察し、円の方程式、円と直線の位置関係、円の接線の方程式などについて理解できる。 ・角の概念を拡張し、一般角の三角関数を定義し、三角関数の間の関係、グラフ、方程式、不等式、加法定理などについて理解できる。 ・指数を正の整数から有理数まで拡張し、数関数を定義し、その基本的な性質、グラフ、方程式、不等式などについて理解できる。 【思・判・表】 ・x, yの不等式と領域の関係を学び、その応用について活用できる。 ・対数を定義し、その基本的な性質、対数の値、簡単な式の計算、常用対数などについて学	3の【評価の方法】に準ずる

		び、対数関数を定義し、そのグラフを活用できる。 【主】 ・指数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
10	～数学Ⅱ～ 微分法と積分法	【知・技】 ・具体的な事象の考察を通して、微分係数や導関数、接線などの微分の考えを理解できる。 ・微分の考えに関連して積分の考えについて理解し、関数の不定積分、定積分の計算ができる。 【思・判・表】 ・関数の増加・減少、極値を調べ、そのグラフの概形を描くことや接線をもちいた活用ができる。 ・積分の考えを用いて、直線や放物線で囲まれた面積を求め、図形に応用することができる。 【主】 ・微分積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
11 12	～数学B～ 数列	【知・技】 ・等差数列、等比数列など、簡単な数列について一般項や第 n 項までの和について理解できる。 【思・判・表】 ・数列を用いて事象を数学的に考察し、 Σ と階差数列について理解させ、それらを用いて事象を数学的に考察できる。 ・漸化式、数学的帰納法について理解させ、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。 【主】 ・数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
1	～数学A～ 図形の性質	【知・技】 ・外角の場合も含めた角の二等分線と辺の比の関係、重心、内心、外心などの性質を扱い、これらの図形の性質を図形の考察に活用できる。 ・チェバやメネラウスの定理を理解できる。 ・円に内接する四角形の性質、円の接線と弦のつくる角の性質について理解できる。 ・方べきの定理を扱い、これらを図形の考察に活用できる。 【思・判・表】 ・空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。 ・多面体などに関する基本的な性質について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【主】 ・図形における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・数学の授業は、1時間ごとの積み重ねで進んでいきます。
欠席や欠けで出席できなかった授業は、自分で学習し、わからないときは、すぐに先生に質問し理解するようにしてください。
- ・数学で最も重要なことは、計算することではなく考えることです。数学を通して、論理的な考え方やその表現方法を学ぶことができます。
多くの問題を解き、自分で考える力を身につけてください。
- ・ノートは板書を単に写すだけではなく、例題の解法等において、手順やそこで必要な公式等の確認事項などが十分に理解できるように作成することが大切です。
- ・図やグラフは単にきれいにかくのではなく、ポイントをうまく表現できるようにかくことも理解を深めることになります。
- ・例題を参考に積極的に練習問題等に取り組み、繰り返しのなかで理解を深めることが大切です。・欠席をした場合は、その授業について十分に学習し、理解しておくことが大切です。

令和7年度 数学科 数学研究α

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	普通科・スポーツ科学科 3年次 自由選択
教科書	なし	副教材等	パラレルノート 数学Ⅰ+A（数研出版）

2 科目の目標

数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し、表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学の良さを認識し、それらを活用し、数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ○数学Ⅰについて 数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 ○数学 A について 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	【観点の到達目標】 ○数学Ⅰについて 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ○数学 A について 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	【観点の到達目標】 ○数学Ⅰについて 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ○数学 A について 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ・数学Ⅰ・A における基本的な概念や原理、法則を理解できる。 ・基本的な概念や原理、法則にしたがって基本的な計算ができる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・問題を数学的に考察し解法の見通しをもてる。 ・解法の見通しにしたがって答えを求められる。 ・求めた答えが問題の答えとして適切であるかを振り返り判断できる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・積極的に授業に取り組む姿勢や粘り強く問題に立ち向かう姿勢が身につく。
【評価の方法】 定期考査	【評価の方法】 定期考査	【評価の方法】 ・演習ノートの取り組み内容 ・発表の発言内容 ・科目に取り組む姿勢 ・授業内小テスト ・ポートフォリオ など

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	～数学Ⅰ～ 第1章 数と式	【知・技】 ・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができる。 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 ・二次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、一次不等式の解を求めることができる。 【思・判・表】 ・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・一次方程式を解く方法や不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。 【主】 ・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
5			
6	第3章 二次関数	【知・技】 ・二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 ・二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。 【思・判・表】 ・二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 ・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主】 ・事象を二次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
7	第4章 図形と計量	【知・技】 ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 ・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思・判・表】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
9	第5章 データの分析	【知・技】 ・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 ・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 【思・判・表】 ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。	3の【評価の方法】に準ずる

		【主】 ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
10	～数学 A～ 第1章 場合の数と確率	【知・技】 ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【思・判・表】 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 【主】 ・事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
11	第2章 図形の性質	【知・技】 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 ・空間図形に関する基本的な性質について理解している。 【思・判・表】 ・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【主】 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる
12			
1	第3章 数学と人間の活動	【知・技】 ・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 ・数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについて理解している。 【思・判・表】 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ・パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 【主】 ・人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	3の【評価の方法】に準ずる

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・数学の授業は、1時間ごとの積み重ねで進んでいきます。
欠席や公欠で出席できなかった授業は、自分で学習し、わからないときは、すぐに先生に質問し理解するようにしてください。
- ・数学で最も重要なことは、計算することではなく考えることです。数学を通して、論理的な考え方やその表現方法を学ぶことができます。
多くの問題を解き、自分で考える力を身につけてください。
- ・授業では、説明、例題、演習のくり返しです。
説明、例題でしっかりと理解し、そして演習では、何も見ずに解けるようになるまで練習してください。
- ・ノートは板書を単に写すだけではなく、例題の解法等において、手順やそこで必要な公式等の確認事項などが十分に理解できるように作成することが大切です。
- ・図やグラフは単にきれいにかくのではなく、ポイントをうまく表現できるようにかくことも理解を深めることになります。
- ・例題を参考に積極的に練習問題等に取り組み、繰り返しのなかで理解を深めることが大切です。
- ・授業の開始のチャイムが鳴るまでに、授業に必要な道具を準備して各自着席を完了し、授業がすぐ始められるようにしてください。
- ・欠席をした場合は、その授業について十分に学習し、理解しておくことが大切です。必要であれば補習の申し出をすること。

令和7年度 数学科 数学 C

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次 総合進学理系 3年次 一般理系 3年次 一般文系選択
教科書	新編 数学 C (数研出版)	副教材等	3TRIAL (数研出版)

2 科目の目標

ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数式化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	【観点の到達目標】 大きさや向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	【観点の到達目標】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ・数学 C における基本的な概念を体系的に理解できる。 ・基本的な計算処理能力や数学的な表現方法を身につけることができる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について，数学的な表現の工夫についての認識を深めることができる。 ・既習事項との内容とも関連が深く，それらの内容とのつながりで学びを広げることができる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・積極的に問題演習に取り組む姿勢や粘り強く問題に立ち向かい考え抜く姿勢が身につく。
【評価の方法】 定期考査	【評価の方法】 定期考査	【評価の方法】 ・演習問題への取り組み内容 ・課題への取り組み ・授業に取り組む姿勢 ・授業ノート など

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能，思考力・判断力・表現力，主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い，総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 5	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	【知・技】 ・有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ・ベクトルの和・差・実数倍の定義を理解し、それを図示できる。 ・有向線分で表されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。 ・ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができる。 ・ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 ・成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。 ・ベクトルの垂直条件を理解し、成分を定めることができる。 【思・判・表】 ・ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 ・ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し、成分を定めることができる。 ・点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。 ・ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ・内積の性質を用いて、等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 【主】 ・日常の量で、向きと大きさをもつものがあることに興味をもち、それをベクトルで表現しようとする。 ・ベクトルの演算に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。	・定期考査 ・課題への取り組み ・演習問題への取り組み ・授業に取り組む姿勢
6	第2節 ベクトルと平面図形	【知・技】 ・点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ・ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。 ・内分点、外分点、三角形の重心の位置ベクトルを求めることができる。 ・直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。 【思・判・表】 ・位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。 ・位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。 ・位置ベクトルの一意性を活用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 ・点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。 【主】 ・様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ・直線や円のベクトル方程式を積極的に活用しようとする。	・定期考査 ・課題への取り組み ・演習問題への取り組み ・授業に取り組む姿勢
7 9	第2章 空間のベクトル	【知・技】 ・空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ・空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。 ・空間図形において、ベクトルの和や差を考えることができる。 ・成分表示された空間のベクトルの演算ができる。 ・空間のベクトルの内積や、成分表示された2つのベクトルのなす角を求めることができる。 ・位置ベクトルの一意性を活用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 ・座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。 【思・判・表】 ・空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について、平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。 【主】 ・空間のベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。 ・3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。	・定期考査 ・課題への取り組み ・演習問題への取り組み ・授業に取り組む姿勢

10	第3章 複素数平面	【知・技】 ・1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。 ・複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。 ・複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ・複素数の積、商の絶対値、偏角の性質を理解し、それらを求めることができる。 ・複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。 【思・判・表】 ・複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解し、説明できる。 ・複素数の和、差、実数倍の、複素数平面における図形的意味を理解し、説明できる。 【主】 複素数が $a+bi$ とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。	・定期考査 ・課題への取り組み ・演習問題への取り組み ・授業に取り組む姿勢
11		【知・技】 ・ド・モアブルの定理を理解し、複素数の n 乗を求めることができる。 ・線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。 ・原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 ・複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し、利用することができる。 【思・判・表】 ・複素数の n 乗根がちょうど n 個存在することを、極形式を用いて考察できる。 ・点 z と連動して動く点 w が描く図形について、その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。 【主】 図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。	
12 1	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示 と極座標	【知・技】 ・放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ・楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 ・双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ・媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。 ・点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 【思・判・表】 ・軌跡の考え方をを用いて、放物線・楕円・双曲線の方程式を導くことができる。 ・条件から点の座標を1つの文字で表し、それを曲線の媒介変数表示と捉えることで、その点が描く曲線を求めることができる。 【主】 既知の円や放物線などの曲線を、条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。	・定期考査 ・課題への取り組み ・演習問題への取り組み ・授業に取り組む姿勢 ・レポート

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・「数学C」では、大学での学びにつながるような内容を学びます。
- ・基本的な概念の理解と技能の習得に努めましょう。そのためには、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しましょう。
- ・数学的な解釈や表現方法、計算を行う技能を身につけることが大切です。
- ・数学的な問題を論理的に考察し、解決する力を身につけましょう。そのためには、問題解決の過程を振り返り、改善する姿勢を持ちましょう。
- ・黒板の答えを写すだけではなく、自ら積極的に問題演習に取り組み、自身の解答を振り返ることで数学的な思考力を身につけましょう。

令和 7 年度 数学科 数学 B

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次
教科書	新編数学 B (数研出版)	副教材等	3TRIAL (数研出版)

2 科目の目標

数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、具体的な事象を数学的に考察し処理するための能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・数列、統計的な推測についての概念や原理・法則を体系的に理解している ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技術を身に付けている。	【観点の到達目標】 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	【観点の到達目標】 ・数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・数学 B における基本的な概念や原理、法則を理解できる。 ・基本的な概念や原理、法則にしたがって基本的な計算ができる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・問題を数学的に考察し解法の見通しをもてる。 ・解法の見通しにしたがって答えを求められる。 ・求めた答えが問題の答えとして適切であるかを振り返り判断できる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・積極的に授業に取り組む姿勢や粘り強く問題に立ち向かう姿勢が身につく。
【評価の方法】 ・定期考査 ・小テスト	【評価の方法】 ・定期考査 ・小テスト	【評価の方法】 ・問題集用ノート提出 ・授業内発表 ・授業態度

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 5 6 7	第1章 数列	【知・技】数列の基礎的な概念と知識を理解している。等差数列、等比数列など、簡単な数列について一般項や第n項までの和について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できる。 【思・判・表】記号Σ、階差数列やいろいろな数列、漸化式、数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できる 【主】数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	・定期考査 ・小テスト ・提出物 ・授業内発表など
9 10 11 12 1	第2章 統計的な推測	【知・技】確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。 【思・判・表】確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 【主】確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差の公式について、確率分布の定義から導こうとする。現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。	・定期考査 ・小テスト ・提出物 ・授業内発表など

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・授業中はその内容を理解することに集中してください。もしもわからないことが出てきた場合には、そのままにせず、すぐに自分で教科書を読んだり、人に聞いたりすることで解決してください。1つわからないことがあると、それが原因で多くの内容がわからなくなってしまう。
- ・授業だけでは問題を解く時間を十分にとれないことがあります。そのため、家庭での予習と復習によって問題を解く時間を十分にしてください。
- ・授業開始時には、教科書・プリントファイル・問題集を準備し着席完了しておいてください。
- ・欠席した場合は、その分のノートを級友から借りるなどして次の時間までに学習しておいてください。
- ・授業で学習した内容について副教材(問題集)を積極的に利用し、演習を重ねておくことが大切です。
- ・提出物等の期限は厳守をお願いします。内容もしっかり行ってください。

令和7年度 数学科 数学Ⅲ

1 科目について

単位数	4 単位	学科・学年	3 年次
教科書	新編数学Ⅲ (数研出版)	副教材等	3TRIAL (数研出版)

2 科目の目標

関数, 極限, 微分法, 積分法について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 具体的な事象を数学的に考察し処理するための能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・極限, 微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している ・事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることに関する技術を身に付けている。	【観点の到達目標】 ・数列や関数の値の変化に着目し, 極限について考察したり, 関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し, 数学的に考察したりする力, いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	【観点の到達目標】 ・数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・数学Ⅲにおける基本的な問題が解ける。 ・微分・積分の計算や極限を求めることができる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・求められているものを様々な定理, 法則を用いて数学的に考察することができる。 ・さまざまな曲線をグラフで書き表すことができる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・積極的に授業に取り組む姿勢や粘り強く問題に立ち向かう姿勢が身につく。
【評価の方法】 ・定期考査 ・小テスト	【評価の方法】 ・定期考査 ・小テスト	【評価の方法】 ・問題集用ノート提出 ・授業内発表 ・授業態度

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 5	第1章 関数 第2章 極限	【知・技】分数関数や無理関数の特徴を理解している。合成関数や逆関数の意味を理解している。 【思・判・表】分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できる。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できる。 【主】関数のグラフと直線について、共有点の座標の意味を考え、その求め方を考察しようとする。 【知・技】簡単な数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。簡単な関数の極限を求めることができる。 【思・判・表】数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められる。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できる。 【主】不定形の関数の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。	・定期考査 ・小テスト ・提出物 ・授業内発表など
6 7	第3章 微分法	【知・技】導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。 【思・判・表】微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できる。 【主】様々な導関数の性質や計算方法に興味をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	・定期考査 ・小テスト ・提出物 ・授業内発表など
9 10	第4章 微分法の応用	【知・技】導関数を、接線、関数の増減、グラフなどに活用できる 【思・判・表】第2次導関数の符号と導関数の増減の関係を理解している。 【主】関数のグラフの様々な形に興味をもち、様々な方法でそれを調べようとする。	・定期考査 ・小テスト ・提出物 ・授業内発表など
11 12 1	第5章 積分法の応用	【知・技】様々な関数の不定積分やその計算法則を、導関数をもとにして考え、それをもとに不定積分を求められる 【思・判・表】様々な関数の定積分を求められる。また、定積分を面積や体積として捉え、様々な事象の考察に活用できる。 【主】不定積分の公式が適用できるように式変形を工夫しようとする。	・定期考査 ・小テスト ・提出物 ・授業内発表など

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

・この科目は、将来数学が必要な専門分野に進もうとする生徒や、数学に強い興味関心をもって更に深く学習しようとする生徒が「数学Ⅱ・数学B」を履修した後に履修する科目です。ですから「数学Ⅱ・数学B」の内容を発展、充実させた内容になっています。 ・極限では、数学Ⅱで学習した記号や用語、$\lim$や極限值を使い、微分法・積分法の基礎として極限の概念を学習し、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにします。 ・微分法では、数学Ⅱで三次までの整関数について導関数を扱い、関数値の増減を調べたり、関数のグラフをかいたりしましたが、ここでは、これまでに学習した様々な関数についての微分法を学習します。そして微分法の有用性を認識し、速度や加速度などの考察に活用できるようにします。 ・積分法では、微分法と同様に、扱う関数の範囲を広げ、積分の基本的な性質や置換積分法や部分積分法などを理解して、積分法の有用性を認識し、図形の求積などに活用できるようにします。 ・数学Ⅲで学習した内容は、微分方程式や解析学など学問の基礎になります。将来、専門分野で活用してください。 ・授業開始時には、教科書・プリントファイル・問題集を準備し着席完了しておいてください。 ・欠席した場合は、その分のノートを級友から借りるなどして次の時間までに学習しておいてください。 ・授業で学習した内容について副教材(問題集)を積極的に利用し、演習を重ねておくことが大切です。 ・提出物等の期限は厳守してください。内容もしっかり行ってください。
--

令和 7 年度 理科 物理

1 科目について

単位数	4 単位	学科・学年	3 年次
教科書	高等学校 物理（第一学習社）	副教材等	新課程版スタディノート物理

2 科目の目標

物理的な事物・現象に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り身に付ける。

(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けるようにする。

(2) 観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。

(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を養う。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けるようにする。	【観点の到達目標】 自然の事物・現象の中に問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を身に付けている。	【観点の到達目標】 自然の事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
【イチカシ学カスタンダード】 物理基礎の知識をもとに、以下の分野の基本法則を知識として身に付ける。 ・運動とエネルギー ・波動 ・電気と磁気	【イチカシ学カスタンダード】 発展的な問題を解くことができる。また、授業での発言や実験・観察レポートにて自分の考えを表現できる。	【イチカシ学カスタンダード】 観察、実験、レポート、ノート作成を通して、知識を整理する。 疑問に思ったことは質問するなど、演習を反復することで理解を深める。
【評価の方法】 各種テスト レポート 課題 授業ノート 授業態度	【評価の方法】 各種テスト レポート 課題 授業ノート 授業態度	【評価の方法】 各種テスト レポート 課題 授業ノート 授業態度

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	第 I 章 運動とエネルギー 第 1 節 平面運動と放物運動 ①平面運動 ②放物運動	【知】【思】変位や速度、加速度などについての基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 【知】速度の合成・分解や相対速度に関する現象を観察し、それぞれを式で表すことができる。 【知】水平投射、斜方投射の運動の特徴を踏まえ、運動のようすを表す式を導くことができる。 【思】水平投射、または斜方投射された物体の速度を分解して、それぞれの運動の特徴を説明することができる。 【思】空気抵抗を受けて落下する物体について、運動方程式から終端速度と質量との関係を考えることができる。 【主】平面運動での位置や変位、速度、加速度などを表すベクトルについて、「物理基礎」で学習したベクトルの内容と関連させながら意欲的に理解しようとする。 【主】「物理基礎」で学習した等速直線運動や落下運動の式をもとに、水平投射と斜方投射について、定量的に考えようとする。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
5	第 2 節 剛体のつりあい ①剛体にはたらく力とその合力 ②剛体の重心とつりあい	【知】力のモーメントの大きさは、力の大きさとうでの長さに関係することを理解する。 【知】力が剛体におよぼすはたらきを考え、力のモーメントを用いて表すことができる。 【知】剛体がつりあうときの力、力のモーメントの関係をそれぞれ確認し、剛体の重心を求めることができる。 【思】剛体がつりあう条件について、式を用いて考えることができる。 【思】力のつりあいを用いて、さまざまな形状の剛体の重心を考えることができる。 【思】物体を傾けたときに転倒する条件について、力のモーメントのつりあいから調べることができる。 【主】剛体がつりあいの状態にあるときの条件を予想し、主体的に実験に取り組んでいる。 【主】質点と剛体の違いを踏まえ、剛体にはたらく力のはたらきについて意欲的に考察しようとする。 【主】重心を表す式を利用して、さまざまな形状の剛体で重心の位置を調べようとする。 【主】日常での経験と照らし合わせて力のモーメントを考え、物理学的に理解しようとする。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
	第 3 節 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数 探究 1 反発係数の測定	【知】運動量と力積の物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 【知】運動量保存の法則と反発係数の式を用いて、さまざまな衝突における速度や運動量などを計算することができる。 【知】反発係数の値に応じて、衝突による力学的エネルギーの変化を計算することができる。 【知】テニスのボールやピンポン球などを用いて、はね上がった高さを測定することで、床との間の反発係数を求めることができる。 【思】運動量がベクトルであることを理解し、運動量の変化と力積との関係について説明することができる。 【思】作用・反作用の法則を用いて、物体が衝突や分裂をしたときの運動量保存の法則を考えることができる。 【思】連結した 2 台の台車を分裂させたときの運動のようすから、運動量が保存されることを考察することができる。 【思】反発係数を理解し、衝突における力学的エネルギーの変化を考えることができる。 【主】運動量の変化と力積との関係を用いて、さまざまな条件でおこる衝突について、運動量保存の法則を意欲的に導出しようとする。 【主】力学台車を用いた実験に主体的に取り組む、運動量保存の法則の式を用いて、物体の合体や分裂について、考察しようとする。 【主】ボールが跳ね返るときのようにすに関心をもち、その現象を物理的に考えようとする。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
6	第 4 節 円運動と単振動 ①円運動 探究 2 等速円運動の角速度 ②慣性力と遠心力 ③単振動 ④万有引力による運動 探究 3 天体からの脱出速度	【知】等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力などの定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 【知】単振動する物体にはたらく力を把握し、復元力の式を求めることができる。 【知】人工衛星などの物体の円運動について運動方程式を立て、各物理量を計算で求めることができる。 【知】万有引力による位置エネルギーを求め、物体の力学的エネルギーを求めることができる。 【思】向心力の意味を理解し、等速円運動する物体にはたらく力を的確に図示することができる。 【思】観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。 【思】等速円運動と比較することによって、単振動の変位や速度などの式を導くことができる。 【思】単振動する物体のようすを、グラフを用いて説明することができる。 【思】ケプラーの法則を用いて、万有引力の法則を導いた過程について理解し、重力との関係を式で表すことができる。 【主】角速度、周期、回転数などの関係式を、自ら進んで導出しようとする。 【主】等速円運動をしている物体の、向心力と角速度との関係を主体的に調べようとしている。 【主】遠心力などの慣性力について、身近な例と結びつけて意欲的に考えようとする。 【主】単振動における変位、速度などの式を意欲的に導出しようとする。 【主】ケプラーの法則、万有引力の法則について学習し、万有引力と重力の関係を自ら進んで考えようとする。 【主】万有引力を受けて運動する物体の力学的エネルギーについて、意欲的に考えようとする。 【主】計算機を用いた、ケプラーの第 3 法則の確認実験に積極的に取り組んでいる。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度

7	第 5 節 気体の性質と分子の運動 ①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事 探究 4 熱機関の製作	【知】ボイルの法則、シャルルの法則を用いて、ボイル・シャルルの法則を導くことができる。 【知】気体に関する法則や気体の状態方程式を用いて、計算することができる。 【知】分子の運動をもとにして、気体の圧力を導出する。 【知】気体の状態変化に熱力学の第 1 法則を適用し、エネルギーの出入りを考えることができる。 【思】気体の圧力が生じる原因を把握し、気体に関する各法則を考えることができる。 【思】気体の状態方程式を用いて、さまざまな条件における気体の状態を考えることができる。 【思】運動量と力積の関係を用いて、気体分子の運動をもとに、気体の圧力を導くことができる。 【思】気体の状態変化について、p-V グラフからの確に読み取ることができる。 【思】気体の状態変化について、その変化の違いを熱力学の第 1 法則を用いて説明することができる。 【思】熱力学の第 1 法則や、気体の状態方程式を用いて、定積モル比熱や定圧モル比熱を考えることができる。 【思】熱機関のしくみを理解し、熱効率を考えることができる。 【主】ボイル・シャルルの法則を利用して、気体の状態方程式を導出する過程を理解しようとする。 【主】日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積、温度の関係を考え、物理学的に理解しようとしている。 【主】圧縮発火器の原理について、気体の状態変化におけるエネルギーの出入りと結びつけ、意欲的に考察しようとしている。 【主】気体の状態変化での熱効率の算出に意欲的に取り組む。 【主】熱機関の製作の探究などに主体的に取り組む、熱効率を上げる方法を考えようとしている。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
	第 II 章 波動 第 1 節 波の性質 ①正弦波 ②波の伝わり方 探究 5 水面波の干渉	【知】位相が表すものを理解し、正弦波を式で表すことができる。 【知】重なりあった波の作図などを通して、定常波ができる条件を理解している。 【知】水面波の干渉の条件について、式を用いて理解する。 【知】水波投影装置を用いて、平面波の反射、屈折のようすを観察し、反射の法則、屈折の法則を定性的に調べることができる。 【知】波の回折は、すき間の大きさや波長によって違いが生じることを理解している。 【思】正弦波の波形と波の式を結びつけて考えることができる。 【思】y-x グラフ、y-t グラフから、振幅や周期、波長などの物理量を読み取ることができる。 【思】y-x グラフ、y-t グラフの関係と違いを理解し、一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。 【思】ホイヘンスの原理を用いて、平面波の反射や屈折を考え、説明することができる。 【思】平面波の回折のしくみを考え、大きく回折する条件について説明することができる。 【主】「物理基礎」で学習した内容をもとに、正弦波の式を意欲的に導出しようとしている。 【主】身のまわりの波に関する現象に関心をもち、物理学的な観点から自ら進んで考察しようとしている。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
9	第 2 節 音波 ①音の伝わり方 探究 6 クインケ管による音速の測定 ②ドップラー効果	【知】第 1 節で学習した反射の法則や屈折の法則、波の干渉条件などを、音波に適用して理解する。 【知】低周波発振器を利用して、音波が干渉するようすを調べることができる。 【知】音源や観測者が動く場合の音波の波長や振動数の変化について、式を用いて理解する。 【思】音が波であることを踏まえ、反射や屈折、回折などの音波の性質を考えることができる。 【思】音波の伝わる速さが音源の速度に関係しないことから、ドップラー効果によって変化する波長や振動数を導出することができる。 【主】音が伝わるようすに関心をもち、音波の反射・屈折・回折・干渉について考えようとする。 【主】小型の防犯ブザーをキャッチボールして、音の高さが変化することを積極的に確認しようとしている。 【主】身近な現象と結びつけてドップラー効果を理解し、波長や振動数の変化を物理学的にとらえようとする。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度

10	第3節 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉 探究7 ヤングの実験	【知】光が波の一種であり、波長の大きさなどによって分類されることを知る。 【知】光の速さを把握し、反射の法則、屈折の法則の式を理解する。 【知】光の分散、散乱、偏光など、波としての光の性質を理解する。 【知】凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡のそれぞれの性質を知る。 【知】レンズの式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、レンズの一般的な特徴を理解する。 【知】球面鏡の式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、球面鏡の一般的な特徴を理解する。 【知】ヤングの実験や回折格子による光の干渉など、さまざまな光の干渉条件について式を適用する。 【思】フィゾーの実験の原理を理解し、光速の導出方法を説明することができる。 【思】光が波であることを踏まえ、光の反射・屈折などの性質を考察できる。 【思】直方体のガラスと針を利用して、ガラスの屈折率を測定することができる。 【思】光の波長と屈折率の関係を理解し、光の分散、散乱などの性質を考察できる。 【思】凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡の基本的な性質を学習し、光の進み方、像のできる条件などを説明できる。 【思】ヤングの実験、回折格子による光の干渉を学習し、薄膜、くさび形空気層などによる光の干渉条件を導くことができる。 【思】レーザーポインタと二重スリットを用いた光の干渉に関する探究などを通して、レーザー光の波長と干渉縞の間隔との関係を考察できる。 【主】光について関心をもち、身のまわりの事象や現象と結びつけ、波としてどのような性質をもつかを理解しようとする。 【主】虹のできるしくみや、青空、夕陽の色の見え方について関心をもち、光と色の関係を考えようとする。 【主】レンズを通したものの見え方に興味をもち、物理学的にとらえようとしている。 【主】光の干渉を利用して、光の波長を求める方法について意欲的に考えようとする。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
	第Ⅲ章 電気と磁気 第1節 電場と電位 ①静電気力 ②電場 ③電位 探究8 等電位線と電気力線 ④コンデンサー	【知】静電気力に関するクーロンの法則を理解し、さまざまな条件で電場の強さを計算できる。 【知】電位を計算し、等電位面と電気力線の関係を理解する。 【知】静電誘導、誘電分極を踏まえ、電場中の導体、不導体における電場、電位のようすを理解する。 【知】アルミニウム箔とプラスチック製のコップを利用してコンデンサーを作製し、コンデンサーの原理を理解する。 【知】コンデンサーにおける基本的な公式を理解し、さまざまな条件における電気容量やたくわえられる電荷を求めることができる。 【知】静電エネルギーの式の導出過程を理解し、エネルギーを求めることができる。 【思】静電誘導、誘電分極のしくみを説明することができる。 【思】カラーパウダーとサラダ油を利用した、電気力線の観察実験を通し、電気力線の性質を考察する。 【思】電場と電気力線の関係を理解し、帯電体に入出入りする電気力線を定量的に考えることができる。 【思】直流電源装置と黒色画用紙を用いた探究を通して、得られた等電位線から電気力線のようすを図示することができる。 【思】帯電した金属板間の導体や不導体について、電場や電位のようすをグラフに表すことができる。 【思】コンデンサーにたくわえられる電気量と、極板の面積、極板間の距離との関係を導くことができる。 【思】コンデンサーの極板間の電場や電位差など、各量について、誘電体による変化を考察できる。 【主】「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、静電気力、電場、電気力線の性質について意欲的に考えようとする。 【主】電場や電位の関係、等電位面と電気力線の関係、静電誘導、誘電分極の現象などを自ら進んで理解しようとする。 【主】コンデンサーの製作に主体的に取り組み、コンデンサーの原理や、誘電体によって変化するコンデンサーの電気容量などについて、自ら進んで考えようとしている。 【主】電池のする仕事と静電エネルギーの関係について、意欲的に考える。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
11	第2節 電流 ①電流と抵抗 ②直流回路 探究9 電池の起電力と内部抵抗 ③半導体	【知】電子の運動をもとに、オームの法則やジュール熱などの式を導き、各物理量を計算できる。 【知】キルヒホッフの法則をもとに、ホイートストンブリッジや電位差計の回路のしくみを理解する。 【知】ホイートストンブリッジの原理を利用して、未知の電気抵抗を測定できる。 【知】非直線抵抗を含む回路での電流、電圧の関係をグラフから読み取り、理解する。 【知】キャリアの役割を踏まえ、ダイオードや太陽電池のはたらきを理解する。 【思】導体中における自由電子の運動に着目し、抵抗や抵抗率との関係を考察できる。 【思】キルヒホッフの法則を理解し、さまざまな回路での電流、電圧を考えることができる。 【思】すべり抵抗器と乾電池を用いた探究などを通して、電池の起電力と内部抵抗を測定できる。 【思】半導体でのキャリアの動きを考え、ダイオードや太陽電池での電流の流れのようすを説明できる。 【主】「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、電子の運動というミクロな視点で、オームの法則について意欲的に考えようとしている。 【主】電流計、電圧計などの各計器の内部抵抗について、その役割を理解しようとしている。 【主】各回路に対して、キルヒホッフの法則の適用方法を導こうとしている。 【主】身のまわりで使用されている半導体に関心をもち、ダイオードや太陽電池における、電子の運動を考えようとしている。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
12	第3節 電流と磁場 ①磁場 ②電流がつくる磁場	【知】磁極間にはたらく磁気力の大きさ、電流のまわりに生じる磁場の強さを計算できる。 【知】電流が磁場から受ける力の向きを、フレミングの左手の法則などを用いて考えることができる。 【知】磁場中で電流が受ける力の大きさを求めることができる。	小テスト レポート 課題

	③電流が磁場から受ける力 ④ローレンツ力	【知】磁束密度と磁場の関係を定量的に把握し、磁化の性質を理解する。 【知】電流どうしがおよぼしあう力の向きや大きさを求めることができる。 【知】荷電粒子にはたらくローレンツ力の大きさや向きを理解する。 【思】磁極や電流のまわりにできる磁場について、右ねじの法則をもとにして考えることができる。 【思】電気ブランコの観察において、電流が磁場から受ける力の向きを調べることができる。 【思】電流間で力が生じることを、右ねじの法則などを用いて理解する。 【思】ローレンツ力の性質をもとに、荷電粒子の運動を考えることができる。 【思】ローレンツ力の性質を把握することで、金属中の電子の運動をもとにホール効果について考察できる。 【主】電流が磁場から受ける力の向きや大きさ、磁束密度と磁場の関係を意欲的に理解しようとする。 【主】平行電流間がおよぼしあう力の大きさを自ら進んで導出しようとする。 【主】磁場中の荷電粒子の運動について意欲的に考察しようとする。 【主】ホール効果の現象を、電子の動きに着目して理解しようとする。	授業プリント 授業ノート 授業態度
	第4節 電磁誘導と交流 ①電磁誘導 ②自己誘導と相互誘導 ③交流 ④電磁波 探究10 ゲルマニウムラジオの製作	【知】磁場中を動く導体に生じる起電力や、導体を動かすのに要する力を計算することができる。 【知】電磁誘導のしくみを理解し、自己誘導、相互誘導での起電力の向きや大きさを導くことができる。 【知】交流が発生するしくみを理解し、抵抗、コイル、コンデンサーの交流の性質を定量的に理解する。 【知】電気振動のエネルギーの移り変わりについて、式で表すことができる。 【知】磁場と電場の関係を把握し、電磁波の発生と結びつけて理解する。 【思】コイルに棒磁石を近づけたり、遠ざけたりする実験の結果から、ファラデーの電磁誘導の法則を見出して理解する。 【思】コイルにたくわえられるエネルギーの式を導出することができる。 【思】コイルを貫く磁束の変化から、交流の発生を考えることができる。 【思】抵抗、コイルなどに生じる交流電圧、電流の関係を、キルヒホッフの法則を用いて考えることができる。 【思】電気振動において、固有振動数やエネルギーのやりとりを考察できる。 【主】電磁波の性質から、利用されている身近なものを考える。 【主】「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、実験に主体的に取り組み、電磁誘導の法則を理解しようとする。 【主】自己誘導や相互誘導の現象の学習に意欲的に取り組む。 【主】交流が発生するしくみに関心を持ち、抵抗、コイル、コンデンサーの特性を考えようとする。 【主】直列共振回路の性質や電気振動の現象を意欲的に理解しようとする。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
I	第IV章 原子 第1節 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 探究11 プランク定数の測定 ③X線 ④粒子の波動性	【知】光電効果の特徴やその実験過程を理解し、仕事関数や光電子の最大運動エネルギーを計算できる。 【知】X線の最短波長を計算し、ブラッグの反射条件の式を理解して、適用することができる。 【知】コンプトン効果において、入射X線と散乱X線の波長の差を示す式を導出できる。 【知】物質波の意味を理解し、その波長や運動量の関係式を理解する。 【知】トムソンやミリカンの実験について、電場や磁場の関係式を適用し、電子の運動を説明できる。 【知】光電効果における光の強さと光電子の数、振動数と運動エネルギーなどの関係を考察できる。 【知】X線の波動性や粒子性を示す実験を理解し、結論を導くまでの過程を式を用いて考えることができる。 【思】物質粒子の質量と波長などの関係式を用いて、さまざまな物質波の波長を考えることができる。 【主】光電効果の特徴について、その実験過程から意欲的に意味を理解しようとする。 【主】レントゲン写真などの身近なもの結びつけて、X線の性質を考えようとする。 【主】これまでに学習した法則をもとに、コンプトン効果でのX線光子、電子の運動を意欲的に考えようとする。 【主】光やX線がもつ粒子性を、電子のような粒子の波動性に結びつけて考えようとする。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
	第2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核と放射線 探究12 放射性物質とその半減期 ③核反応とエネルギー ④素粒子と宇宙	【知】ボーアの原子模型の特徴を理解し、水素原子の電子軌道や、エネルギー準位とスペクトルとの関係について理解する。 【知】分光器を用いて、さまざまな光源から発せられる光を観察し、光源によるスペクトルの違いを知る。 【知】質量欠損や結合エネルギー、核反応で出入りするエネルギーをそれぞれ計算で求めることができる。 【知】自然界における基本的な力の種類と性質について知る。 【思】ボーアの量子条件と物質波による考え方との関係を結びつけて考える。	

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

・授業や実験は基本的に物理講義室で行います(水曜日は3C教室)。休み時間中に移動すること。チャイム初めには着席。

令和7年度 理科 生物

1 科目について

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 科目の目標

単位数	4 単位	学科・学年	普通科・3 年次
教科書	高等学校生物(第一学習社)	副教材等	セミナー生物(第一学習社) スクエア最新図説生物(第一学習社)

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	【観点の到達目標】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
【イチカシ学カスタンダード】 理科の見方・考え方を働かせ、生物の進化についての観察、実験などを通して、生命の起源と細胞の進化、遺伝子の変化と進化の仕組み、生物の系統と進化について学び、それらに関する基礎的・基本的事項を身に付ける。	【イチカシ学カスタンダード】 生物の進化についての観察、実験などを通して、生命の起源と細胞の進化、遺伝子の変化と進化の仕組み、生物の系統と進化について学び、それらの観察・実験方法などを身に付け、思考力、判断力、表現力等を磨く。	【イチカシ学カスタンダード】 生物の各分野において、授業に集中して取り組み、テーマごとの課題解決を目指す。 観察、実験、レポート、ノート作成を通して、知識を整理する。 疑問に思ったことは質問するなど、演習を反復することで理解を深める。
【評価の方法】 定期考査 小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート	【評価の方法】 定期考査 小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度	【評価の方法】 小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 5	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と細胞の進化 2. 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 第2章 生物の系統と進化 1. 生物の系統 2. 人類の系統と進化	【知・技】 原始地球の環境における有機物の生成に関する実験にもとづいて、生命の起源に関する考えを理解する。DNA の塩基配列の変化によってアミノ酸配列が変化するしくみを理解する。人為分類と系統分類の違い、原生物、植物、菌類、動物の特徴を理解する。 植物・動物の系統関係を理解する。二名法による種の表し方を理解する。 【思・判・表】 交配実験の結果などの資料にもとづいて、連鎖している遺伝子の組み合わせは変化しうることを見いだして理解する。 進化のしくみに関するモデル実験の結果にもとづいて、遺伝子頻度が変化する要因には、主に遺伝的浮動と自然選択があることを見いだして理解する。 【主】 長期間の遺伝子の変化による生物の進化について考察し、生命の起源や生物分類に関心をもち、意欲的に学習しようとしている。	定期考査 小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
6	第3章 細胞	【知・技】	定期考査

7	と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 生命現象とタンパク質 第4章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 異化	生物を構成する主な物質は、水、タンパク質、脂質、炭水化物であることを理解する。タンパク質は、アミノ酸がペプチド結合によって多数つながり、一次構造、二次構造、三次構造、四次構造を形成することを理解する。・酵素の基質特異性を立体構造や補酵素と関連づけて理解する。代謝（同化と異化）におけるエネルギーの流れについて理解する。 【思・判・表】 カタラーゼの働きを確かめる実験を正しく実施し、タンパク質の立体構造は、機能と密接に関連していることを考察する。・酵素反応の阻害には、競争的阻害と非競争的阻害があることを理解する。緑葉に含まれる光合成色素を分離し、分離された色素の色と Rf 値から色素の種類を推測する。 【主】 生体物質であるタンパク質の性質を学び、同化や異化などの代謝に機能する酵素について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
9 1 0	第5章 遺伝情報とその発現 1. DNAの複製 2. 遺伝子の発現 第6章 遺伝子の発現調節と発生 1. 遺伝子の発現調節 2. 発生と遺伝子の発現 第7章 遺伝子を扱う技術とその応用	【知・技】 DNAの構造と複製、転写と翻訳による遺伝子の発現調節について理解する。 ウニ・ショウジョウバエ・カエルの受精や発生メカニズムについて理解する。 遺伝子の構造や発現を解析する方法、遺伝子の機能を解析する方法を理解する。 【思・判・表】 真核細胞において転写が開始されるしくみについて理解する。 選択的スプライシングによって、1種類の mRNA 前駆体から2種類以上の mRNA がつくられることを理解する。原核生物におけるラクトースオペロンの発現調節について理解する。 【主】 DNAの構造や機能について関心を持ち、受精や発生過程での特徴や遺伝子を扱う技術について意欲的に学習しようとしている。	定期考査 小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
1 1 2	第8章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容と反応 2. 動物の行動 第9章 植物の成長と環境応答 1. 植物と環境 2. 植物の一生と植物ホルモン	【知・技】 動物は受容器で刺激を受容し、中枢神経系を経て効果器に情報を伝えることで、刺激に対して反応していることを理解する。ニューロンの基本構造を学び、ヒトの神経系の構成について理解する。静止電位と活動電位が生じるしくみを、チャネルの働きとイオンの流れと関連づけて理解する。被子植物の配偶子形成と重複受精について学び、被子植物の胚発生の過程を理解する。 【思・判・表】 刺激が中枢に伝わる過程とその特徴について理解する。桿体細胞と錐体細胞の分布や、吸収する光の特徴を理解する。耳の構造と聴覚が生じるしくみを理解する。生得的行動と習得的行動の特徴を、神経回路の変化の有無の違いから考察する。 【主】 動物の反応と行動に関わる機構と植物の環境応答について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	定期考査 小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度
1 2 3	第10章 生態系のしくみと人間の関わり 1. 個体群と生物群集 2. 生態系の物質生産と消費 3. 生態系と人間生活	【知・技】 個体群と相互作用について理解する。・ニッチの概念を理解する。生態系における物質生産について理解する。生物多様性の3つのとらえ方を理解する。 【思・判・表】 層別刈取法によって生産構造を調べ、生産構造図を考察する。物質収支に関する資料にもとづいて、捕食-被食の関係に伴うエネルギーの流れを考察する。化学肥料の使用による植物プランクトン量の変化などの資料にもとづいて、化学肥料が生態系にどのような影響を与えるかを見いだして理解する。 【主】 生態系のしくみと人間の関わりについて関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	定期考査 小テスト レポート 課題 授業プリント 授業ノート 授業態度

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

理科は知れば知るほど楽しくなります。理科が好きではない人も、自分というものが何十兆個もの細胞からできていることや、太陽系を含む銀河系には1000億個以上の恒星があることを知るだけでも、少なからず感激すると思います。特に地球は人工的なサポートを必要としないで多くの生命が暮らす奇跡のようなメカニズムを持ち、それらは気の遠くなるような時間をかけて完成したことにも感動があると思います。日本周辺では震度1以上の地震が年間1000~2000回起こっていることなど、自然というものに、科学という知恵を加えることで、地球は今後どうなっているのかを想像するできます。週に4時間だけは、生物の授業を通して科学者になってみてほしいと思っています。

令和 7 年度 理科 生物

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次
教科書	高等学校 生物（第一学習社）	副教材等	スクエア最新図説生物（第一学習社） セミナー生物（第一学習社）

2 科目の目標

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	【観点の到達目標】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・生物の進化のしくみについて理解する。 ・生物の分類は種を基本単位として行われていることを理解する。 ・タンパク質の構造と働きについて理解する。 ・同化と異化について理解する。 ・DNA の複製と、遺伝子の発現について理解する。	【イチカシ学カスタンダード】 ・基本的な実験操作を習得し、実験を通して結果から考察できるようになる。 ・実験結果を表やグラフに表し、適切に処理できるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・生物の各分野において、授業に集中して取り組み、テーマごとの課題解決に取り組むことができる。 ・観察、実験、レポート、ノート作成を通して、知識を整理することができる。 ・疑問に思ったことは質問するなど、演習を反復することで自主的に理解を深める。
【評価の方法】 ・定期考査 ・小テスト ・レポート ・課題 ・授業プリント ・授業態度	【評価の方法】 ・定期考査 ・小テスト ・レポート ・課題 ・授業プリント ・授業態度	【評価の方法】 ・定期考査 ・小テスト ・レポート ・課題 ・授業プリント・授業態度 ・振り返りシートでの記述

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・主体的に学習に取り組む態度の3観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	第6章 遺伝子の発現調節と発生 第1節 遺伝子の発現調節	【知・技】調節タンパク質による遺伝子の発現調節について理解している。 真核生物における遺伝子の発現調節について理解している。 【思・判・表】遺伝子の発現調節に関する資料にもとづいて、状況に応じて必要な遺伝子の発現調節が行われていることを見いだして説明することができる。 【主】遺伝子の発現調節についての学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント
5	第6章 遺伝子の発現調節と発生 第2節 発生と遺伝子の発現	【知・技】動物の配偶子の形成過程を理解している。 ウニの受精の概要を理解している。 カエルの発生過程を理解している。 器官形成のしくみには、生物間で共通性がみられることを理解している。 【思・判・表】神経誘導のしくみを説明することができる。 器官形成には複数の遺伝子の発現調節が大きく関わっていることを説明することができる。 【主】動物の配偶子形成と受精の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 カエルの発生における遺伝子の発現調節の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 発生過程にみられる多様性と共通性の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント 中間考査
6	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 第1節 遺伝子を扱う技術	【知・技】クローニングの方法や、用いる酵素などの働きを理解している。 PCR法の原理や、用いる酵素などの働きを理解している。 電気泳動法の原理を理解している。 塩基配列解析の原理や、用いる酵素などの働きを理解している。 目的の遺伝子を特定の生物に導入することで、遺伝子の機能を解析できることを理解している。 【思・判・表】クローニングの方法やそのしくみについて説明することができる。 電気泳動法や塩基配列解析など、遺伝子の構造や発現の解析方法の原理について説明することができる。 遺伝子導入の原理や遺伝子の構造・発現の改変などによる解析方法の原理について説明することができる。 【主】遺伝子の単離と増幅の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 遺伝子の構造や発現を解析する方法の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 遺伝子の機能を解析する方法の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント
7	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 第2節 遺伝子を扱う技術の応用	【知・技】遺伝子組換えによって作出された生物が、農業や医療に応用されていることを理解している。 DNA型鑑定の原理を理解している。 遺伝子を扱う際の課題を理解している。 【思・判・表】遺伝子組換え技術が人間生活にもたらす影響について説明することができる。 DNA型鑑定の原理を説明することができる。 遺伝子を扱う技術の進歩によって、どのような課題が生じているか説明することができる。 【主】遺伝子を扱う技術の人間生活への応用やその課題の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント 期末考査
9	第8章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容と反応	【知・技】動物は受容器で刺激を受容し、中枢神経系を経て効果器に情報を伝えることで、刺激に対して反応していることを理解している。 ニューロンの構造について理解している。 ヒトの神経系の構成について理解している。 刺激が中枢に伝わる過程とその特徴について理解している。 眼の構造を理解している。 桿体細胞と錐体細胞の分布や、吸収する光の特徴を理解している。 耳の構造と聴覚が生じるしくみを理解している。 平衡覚が生じるしくみを理解している。 嗅覚が生じるしくみを理解している。 脳の構造と各領域の働きを理解している。 脊髄の構造について理解している。 骨格筋の構造を理解している。 【思・判・表】活動電位が生じるしくみを、チャネルの働きとイオンの流れと関連づけて説明することができる。 興奮の伝導のしくみを説明することができる。 ロドプシンの変化と明順応・暗順応について説明することができる。 筋収縮において、フィラメントが滑り込むしくみについて説明することができる。 【主】受容器の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするな	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント

		ど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 中枢神経系の構造と反応の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	
10	第8章 動物の反応と行動 第2節 動物の行動	【知・技】生得的行動と習得的行動の特徴を、神経回路の変化の有無の違いから理解している。 かき刺激によって特定の行動が引き起こされることを理解している。 【思・判・表】バッタの飛翔に関わる CPG のモデルをもとに、リズムカルな運動が生じるしくみを説明することができる。 【主】生得的行動の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 習得的行動と学習の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント 中間調査
11	第9章 植物の成長と環境応答 第1節 植物と環境	【知・技】植物ホルモンの特徴について理解している。 植物体内での物質輸送のしくみについて理解している。 【思・判・表】ダイコンの芽ばえがリンゴの果実から受ける影響を調べる実験にもとづいて、リンゴから放出される物質が、ダイコンの芽ばえの成長や反応に影響を与えることを見いだして説明することができる。 【主】植物の刺激の受容と情報の伝達の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント
12	第9章 植物の成長と環境応答 第2節 植物の一生と植物ホルモン	【知・技】被子植物の胚発生の過程を理解している。 種子形成の過程について理解している。 種子の休眠と発芽には植物ホルモンが関与することを理解している。 光発芽種子における発芽と光の関係について理解している。 【思・判・表】被子植物の配偶子形成と重複受精の過程について説明することができる。 種子の休眠と発芽にジベレリンとアブシシン酸がどのように関与するか説明することができる。 【主】被子植物の受精と胚発生の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 植物の環境応答と受容の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント 期末調査
1	第10章 生態のしくみと人間の関わり	【知・技】個体群と相互作用について理解している。 個体の分布様式、およびそれぞれがどのような生活に適しているのかを理解している。 生態系における物質生産を理解している。 生産構造図について理解している。 植物群集ごとに特徴的な生産構造を示すことを理解している。 生物多様性の3つのとらえ方を理解している。 生息地の分断や乱獲、気候変動、海洋汚染、外来生物の侵入などが、生物多様性を低下させることを理解している。 【思・判・表】多様な種が共存できるしくみについてニッチの分割や形質置換、攪乱などを例に挙げて説明することができる。 物質収支に関する資料にもとづいて、捕食－被食の関係に伴うエネルギーの流れについて説明することができる。 生態系に影響を与える人間活動と保全活動について積極的に調査し、調査結果を報告書などに適切にまとめることができる。 【主】多様な種が共存するしくみの学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 物質とエネルギーの移動の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 生物多様性の保全とその意義の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 発問評価 小テスト 課題プリント

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ①理科の見方・考え方を働かせて学習に取り組みましょう。
- ②プリントを管理するためのファイルを用意して下さい。
- ③課題プリントや問題集を反復して解いて、学習内容の定着をはかりましょう。
- ④実験では、事前の注意事項をよく聞き、指示に従い事故のないように十分注意してください。

令和7年度 理科 化学

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	普通科 3 年次
教科書	化学 704 「化学」 実教出版	副教材等	「アクセスノート化学」 実教出版

2 科目の目標

化学的な事物・現象に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行うことを通して, 化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 化学的な事物・現象を対象に, 探究の過程を通して, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。報告書を作成したり, 発表したりして, 科学的に探究する力を身に付けている。	【観点の到達目標】 化学的な事物・現象に対して, 主体的に関わり, それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする。また, 科学的に探究しようとする。
【イチカシ学カスタンダード】 ・元素記号 ・化学式 ・計算 ・実験のスキル	【イチカシ学カスタンダード】 ・ディスカッション ・グループワーク ・実験の考察	【イチカシ学カスタンダード】 ・調べ学習 ・発展問題への取り組み ・主体的に学ぶ姿勢
【評価の方法】 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査	【評価の方法】 ・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査	【評価の方法】 ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・定期考査

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の3観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	有機化合物の特徴と分類	【知・技能】有機化合物の特徴と分類、構造決定について理解している。 【思・判・表】有機化合物の構造決定の手順を理解し、実際に未知の化合物の構造を決定することができる。 【主】有機化合物の特徴と分類について探究しようとする。	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト
5	脂肪族炭化水素	【知・技能】炭化水素の構造や反応性、それぞれの関係について理解し、知識として身につけている。 【思・判・表】アルカン、アルケン、アルキンのそれぞれの性質が構造に関連していることを理解し、異性体についても論理的に考察することができる。 【主】アルカン、アルケン、アルキンについて、その構造と性質を意欲的に探究しようとする。	
6	酸素を含む脂肪族化合物	【知・技能】酸素を含む脂肪族化合物について、その性質や反応性が官能基によって特徴付けられることを理解している。また、実験によって確かめられる。 【思・判・表】酸素を含む脂肪族化合物について、それぞれの物質が持つ官能基によって共通の性質がもたらされることを理解し、その性質を実験的に確かめることができる。 【主】酸素を含む脂肪族化合物について、その構造や性質、反応性を意欲的に探究し、官能基ごとに整理しようとする。	
7	芳香族化合物	【知・技能】芳香族化合物について、その性質や反応性が官能基によって特徴付けられることを理解している。また、実験によって確かめられる。 【思・判・表】芳香族化合物について、それぞれの物質が持つ官能基によって共通の性質がもたらされることを理解し、その性質を実験的に確かめることができる。 【主】芳香族炭化水素について、その構造や性質、反応性を意欲的に探究しようとする。	
9	高分子化合物	【知・技能】高分子化合物の分類と特徴について理解している。 【思・判・表】高分子化合物の特徴を理解し、分類することができる。 【主】高分子化合物の分類と特徴について探究しようとする。	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト
10	天然高分子化合物	【知・技能】人間生活で利用されている天然高分子化合物について理解し、具体的な例を知識として身につけている。 【思・判・表】天然高分子化合物について、代表的な物質の構造とその性質、存在例を理解することができる。 【主】人間生活に利用されている天然高分子化合物について興味を持ち、その利用のされ方を積極的に探究しようとする。	
11	合成高分子化合物	【知・技能】人間生活で利用されている合成高分子化合物について理解し、具体的な例を知識として身につけている。 【思・判・表】合成高分子化合物について、代表的な物質の構造とその性質、利用例を理解することができる。また、単量体から高分子化合物の構造式を書くことができる。 【主】人間生活に利用されている合成高分子化合物について興味を持ち、その利用のされ方を積極的に探究しようとする。	
12	課題研究	【知・技能】化学の基礎知識を活用し、自ら実験計画を立てることができる。 【思・判・表】実験結果を考察し、発表することができる。 【主】自身の考察を共有し、またそこから新たな疑問解決のために調べ学習をすることができる。	

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・身近な物質や現象について普段から関心を持ち、授業で学習する事柄と結びつけて考える習慣を身につけること。
- ・ノートは、板書をそのまま写すだけでなく、自分なりに工夫し学習の助けにする。
- ・実験には意欲・関心を持って取り組み、実験結果や、そこから考察を自分自身で考えて、実験の意味を把握するようにつとめる。
- ・課題プリントや問題集を積極的に解いて、反復して学習内容の定着をはかる。
- ・実験では、事前の注意事項をよく聞き指示に従い事故のないように十分注意すること。
- ・実験は、班で協力して準備・実験・記録・データ処理・片付けを行えること。
- ・欠席した場合はノートやプリントを周囲の人から借りて自筆で写し、準備をすること。

令和7年度 理科 生物

1 科目について

単位数	4 単位	学科・学年	普通科 3 年 VW
教科書	高等学校生物(第一学習社)	副教材等	セミナー生物(第一学習社) スクエア最新図説生物(第一学習社)

2 科目の目標

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	【観点の到達目標】 自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
【イチカシ学カスタンダード】 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解する。 観察・実験に関する基本的な技能を身に付ける。	【イチカシ学カスタンダード】 観察・実験などを行い、科学的に考察する表現力を身に付ける。	【イチカシ学カスタンダード】 観察、実験、レポート、ノート作成を通して、知識を整理する。 演習を反復することで理解を深める。
【評価の方法】 定期考査、レポート 授業プリント 授業ノート 授業態度	【評価の方法】 定期考査、レポート 授業プリント 授業ノート 授業態度	【評価の方法】 レポート 授業プリント 授業ノート 授業態度

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	第1編『生物の進化と系統』 第1章:生物の進化 ①生命の起源と細胞の進化 第2編『生命現象と物質』 第3章:細胞と分子 ①生体物質と細胞	・生物進化の前に無機物から有機物ができ、有機体ができる化学進化があったことがわかる。【知】【主】 ・原核細胞と真核細胞が誕生し、生物の進化と地球環境の変化との関係を見いだす。【主】 ・細胞小器官や細胞の働きを分子レベルで調べようとする。【知】【主】 ・細胞の内部構造と構成する細胞小器官の構造体や細胞骨格などの特徴、生体膜について考えることができる。【思・判・表】【知】	レポート課題 授業プリント 授業ノート 授業態度 定期考査
5	②タンパク質の構造と性質 ③生命現象とタンパク質 第4章:代謝①代謝とエネルギー	・葉緑体の動きを確かめ、原形質流動について調べることができる。【思・判・表】【主】	

6	②炭酸同化③異化 第3編『遺伝情報の発現と発生』 第5章:遺伝情報とその発現 ①DNAの複製②遺伝子の発現 第6章:遺伝子の発現調節と発生 ①遺伝子の発現調節 第7章:遺伝子を扱う技術とその応用 ①遺伝子を扱う技術②遺伝子を扱う技術の応用 第1編『生物の進化と系統』 第1章:生物の進化①遺伝子とその変化	・生体物質の円滑な合成では、酵素が、触媒として作用し、輸送物質・情報物質としてのタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを考えることができる。【知】【主】 ・温度・pHによるカタラーゼの酵素作用の変化について調べることができる。【知】 ・呼吸によって有機物からエネルギーがつくられる仕組みや、発酵、解糖系やクエン酸回路および電子伝達系について考えることができる。【知】 ・光化学系Ⅱ、光化学系Ⅰ、カルビン・ベンソン回路、光合成細菌、化学合成細菌について考えることができる。【知】【主】 ・有機窒素化合物を合成する働きである窒素同化がわかる。【知】 ・DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳の仕組み、遺伝子発現の調節を学び、バイオテクノロジーの原理とその応用について調べようとする態度が育っている。【主】 ・遺伝子の変化と形質との関係を見いだす。【知】【主】	レポート課題 授業プリント 授業ノート 授業態度 定期考査
9 10 11 12	第1編『生物の進化と系統』 第1章:生物の進化 ②遺伝子の組み合わせの変化 第3編『遺伝情報の発現と発生』 第6章:遺伝子の発現と発生 ②発生と遺伝子の発現 第4編『生物の環境応答』 第8章:動物の反応と行動 ①刺激の受容と反応 ②動物の行動 第9章:植物の成長と環境応答 ①植物と環境 ②植物の一生と植物ホルモン 第5編『生態と環境』 第10章:生態系のしくみと人間の関わり①個体群と生物群集 ②生態系の物質生産と消費 ③生態系と人間生活 第1編『生物の進化と系統』 第1章:生物の進化 ③進化のしくみ	・減数分裂による遺伝子の分配と受精により遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに、遺伝子の連鎖と組換えについても調べようとする。【主】 ・優性形質や劣性形質による遺伝の法則、遺伝子の連鎖と組換えにより遺伝子の組み合わせが変わることを考えることができる。【思・判・表】 ・巨大な染色体をもつ、カの幼虫のだ腺細胞のだ腺染色体を観察することができる。【思・判・表】【主】 ・配偶子形成と受精、卵割から器官分化の始まりまでの過程について学び、細胞の分化と形態形成の仕組みを調べようとする。【知】【主】 ・ウニの受精のようすを観察することができる。【思・判・表】【主】 ・動物の細胞の分化と形態形成がわかる。【知】 ・視覚・聴覚を中心に刺激の受容のしくみと情報の流れがわかる。【知】【主】 ・生後の経験により行動が変化したり、行動を習得するしくみを考える。慣れ、条件づけ、試行錯誤、知能行動のしくみと違いがわかる。【知】【主】 ・植物が周りの環境からの刺激に応答するしくみを学び、その際に植物ホルモンや光受容体が関係することを理解する。【知】【主】 ・生物の生活に影響を及ぼしている環境と生物との関係について理解する。【主】 ・同種の個体や異種の個体が相互作用を及ぼし合っていることを理解する。【知】 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぶとともに、生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。【思・判・表】 ・進化がどのように裏づけられ、その仕組みがどのように説明されているかを学ぶ。【主】	レポート課題 授業プリント 授業ノート 授業態度 定期考査
1	第1編『生物の進化と系統』 第2章:生物の系統と進化 ①生物の系統 ②人類の系統と進化	・生物の分類の方法、系統を明らかにする方法、現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。【知】【主】 ・真核生物ドメインにおける系統関係について理解する。【主】 ・霊長類の祖先が樹上生活に適応してから人類に進化するまでに何が起こったのかわかる。【思・判・表】【主】	授業プリント 授業ノート 授業態度 小テスト

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・授業や実験は生物講義室で行います。休み時間中に移動すること。チャイム初めには着席。
- ・持ち物：教科書、ノート(授業プリントは点検・返却後、ノートに貼って管理する)、問題集、問題集の解答解説、図説
※タブレットは、授業で使用する場合は事前に連絡します。
- ・実験では、事前の注意事項をよく聞き、指示に従い事故のないように十分注意すること。

令和7年度 理科 基礎理科

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次
教科書	なし	副教材等	なし

2 科目の目標

身近なものを題材に科学的に探究し、日常にあふれる身近な事物・現象について基本的な概念や原理・法則についての理解を深める。また、科学技術の在り方やエネルギー問題について市民が意思決定をするために必要な科学的な知識、能力、態度を身につける。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 科学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。	【観点の到達目標】 実験・観察などを通して、科学的な考えを深めるとともに、表現できるようにする。	【観点の到達目標】 日常生活や社会との関連について興味を持ち、目的意識をもって実験・観察に取り組む。
【イチカシ学カスタンダード】 身近な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を説明できる。	【イチカシ学カスタンダード】 実験・観察の結果をもとに、自分の考えを表現することができる。	【イチカシ学カスタンダード】 積極的に実験・観察に取り組み、身近な事物・現象について科学的に考えようとする。
【評価の方法】 小テスト レポート 課題 発表 振り返りシート 授業態度	【評価の方法】 小テスト レポート 課題 発表 振り返りシート 授業態度	【評価の方法】 小テスト レポート 課題 発表 振り返りシート 授業態度

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	物理分野 ○ 物理量の扱い ①有効数字の扱い ②物理量の計算の方法	・有効数字の意味や基本的な表し方を理解する ・物理量の計算(有効数字を含めた計算)を理解する	小テスト レポート 課題 発表 振り返りシート 授業態度
5	○ 物体の運動とエネルギー ①速さと等速直線運動 ②落体の運動	・実験レポートの書き方、プレゼンテーションのつくり方、発表の仕方について理解する。 ・物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に実験を行い理解する ・物体が落下するときの運動について、物体の種類を問わず同じ加速度が生じていることを、実験を通して理解する	
7	○ さまざまな力とそのはたらき ①玩具の原理 ②玩具の作成	・昔ながらの玩具について調べ、実際に作成してどのような原理のものなのかを理解する ・原理をもとに、さらに質を高めるための工夫を試行錯誤する	
9	生物分野 ○ 微生物とその利用 ①日常生活と微生物 ②微生物とその利用	・カビの培養を通して、微生物がどのようなはたらきをするか理解する ・微生物が日常生活でどのように利用されているかを調べ、理解を深める	
10	化学分野 ○ 材料とその利用 ①物質の特性 ②プラスチック ③繊維	・身近な物質がどのような特徴を持っているかを理解する ・さまざまな試薬を利用し、物質を特定する ・プラスチックの特性や問題点などを理解する ・身近にある繊維の種類と、基本的な性質について実験・観察などを通して理解する	
12 ・ 1	課題研究 ○ 自由課題	・各実験グループでテーマを設定し、実験・観察に取り組む	

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・授業や実験は物理実験室で行います。休み時間中に移動すること。チャイム初めには着席。
- ・実験ノートとボールペンを各自用意すること。
- ・実験ノートとボールペン、タブレットを毎回持ってくること。
- ・実験では、事前の注意事項をよく聞き、指示に従い事故のないように十分注意すること。
- ・積極的に実験に取り組むこと。
- ・理科の見方・考え方を働かせて学習に取り組むこと。
- ・レポートやプレゼンテーション等の課題の提出期限を必ず守ること。

令和7年度 理科 理科研究(化学)

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	普通科 3 年次
教科書	化学 704 「化学」 実教出版	副教材等	「アクセスノート化学」 実教出版

2 科目の目標

化学的な事物・現象に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行うことを通して, 化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 化学的な事物・現象を対象に, 探究の過程を通して, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。報告書を作成したり, 発表したりして, 科学的に探究する力を身に付けている。	【観点の到達目標】 化学的な事物・現象に対して, 主体的に関わり, それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする。また, 科学的に探究しようとする。
【イチカシ学カスタンダード】 ・元素記号 ・化学式 ・計算 ・実験のスキル	【イチカシ学カスタンダード】 ・ディスカッション ・グループワーク ・実験の考察	【イチカシ学カスタンダード】 ・調べ学習 ・発展問題への取り組み ・主体的に学ぶ姿勢
【評価の方法】 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査	【評価の方法】 ・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査	【評価の方法】 ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・定期考査

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の3観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	周期表	【知・技能】非金属元素の単体, 化合物において, それぞれの物質の製法, 性質, 反応性について理解し, 知識を身につけている。 【思・判・表】それぞれの非金属元素の単体, 化合物において, その性質や反応を論理的に類推, 考察することができる。また, 実験を通して判断することができる。 【主】それぞれの非金属元素の単体, 化合物について関心を持ち, その製法や性質, 反応性について意欲的に探究しようとする。	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト
5	非金属元素	【知・技能】金属元素の単体, 化合物において, それぞれの物質の製法, 性質, 反応性について理解し, 知識を身につけている。 【思・判・表】それぞれの金属元素の単体, 化合物の性質や反応を論理的に類推, 考察することができる。また, 実験を通して判断することができる。 【主】それぞれの金属元素の単体, 化合物について関心を持ち, その製法や性質, 反応性について意欲的に探究しようとする。	
6	金属元素	【知・技能】有機化合物の特徴と分類, 構造決定について理解している。 【思・判・表】有機化合物の構造決定の手順を理解し, 実際に未知の化合物の構造を決定することができる。 【主】有機化合物の特徴と分類について探究しようとする。	
7	課題研究	【知・技能】化学の基礎知識を活用し, 自ら実験計画を立てることができる。 【思・判・表】実験結果を考察し, 発表することができる。 【主】自身の考察を共有し, またそこから新たな疑問解決のために調べ学習をすることができる。	
9	天然高分子化合物	【知・技能】人間生活で利用されている天然高分子化合物について理解し, 具体的な例を知識として身につけている。 【思・判・表】天然高分子化合物について, 代表的な物質の構造とその性質, 存在例を理解することができる。 【主】人間生活に利用されている天然高分子化合物について興味を持ち, その利用のされ方を積極的に探究しようとする。	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト
10	合成高分子化合物	【知・技能】人間生活で利用されている合成高分子化合物について理解し, 具体的な例を知識として身につけている。 【思・判・表】合成高分子化合物について, 代表的な物質の構造とその性質, 利用例を理解することができる。また, 単量体から高分子化合物の構造式を書くことができる。 【主】人間生活に利用されている合成高分子化合物について興味を持ち, その利用のされ方を積極的に探究しようとする。	
11	課題研究	【知・技能】化学の基礎知識を活用し, 自ら実験計画を立てることができる。 【思・判・表】実験結果を考察し, 発表することができる。 【主】自身の考察を共有し, またそこから新たな疑問解決のために調べ学習をすることができる。	
12			
1	課題研究	【知・技能】化学の基礎知識を活用し, 自ら実験計画を立てることができる。 【思・判・表】実験結果を考察し, 発表することができる。 【主】自身の考察を共有し, またそこから新たな疑問解決のために調べ学習をすることができる。	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・身近な物質や現象について普段から関心を持ち、授業で学習する事柄と結びつけて考える習慣を身につけること。
- ・ノートは、板書をそのまま写すだけでなく、自分なりに工夫し学習の助けにする。
- ・実験には意欲・関心を持って取り組み、実験結果や、そこから考察を自分自身で考えて、実験の意味を把握するようにつとめる。
- ・課題プリントや問題集を積極的に解いて、反復して学習内容の定着をはかる。
- ・実験では、事前の注意事項をよく聞き指示に従い事故のないように十分注意すること。
- ・実験は、班で協力して準備・実験・記録・データ処理・片付けを行えること。
- ・欠席した場合はノートやプリントを周囲の人から借りて自筆で写し、準備をすること。

令和 7 年度 理科 理科研究

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	普通科 3 年次
教科書	高等学校 物理（第一学習社）	副教材等	新課程版スタディノート物理（第一学習社）

2 科目の目標

物理的な事物・現象に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する知識・技能が身についている。	【観点の到達目標】 物理的な事物・現象を対象に, 探究の過程を通して, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。報告書を作成したり, 発表したりして, 科学的に探究する力を身に付けている。	【観点の到達目標】 物理的な事物・現象に対して, 主体的に関わり, それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする。また, 科学的に探究しようとする。
【イチカシ学カスタンダード】 四則演算・方程式の計算を正確にできる 物理の法則が知識として身についている 実験の基本的なスキルが身についている	【イチカシ学カスタンダード】 自分の意見を表現できる 実験データをもとに考察できる 発展的課題に取り組める	【イチカシ学カスタンダード】 調べ学習・発展問題へ積極的に取り組める
【評価の方法】 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト	【評価の方法】 ・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト	【評価の方法】 ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	物理基礎の復習・演習	・昨年度の知識の総復習と演習【知】	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト
5	第Ⅰ章 運動とエネルギー	・平面内の運動がベクトルで表されることを理解する。合成速度、相対速度、運動の分解について理解する。【知】【思】	
	第1節 平面運動と放物運動	・平面内で剛体にはたらく力と力のモーメント、つりあいについて、問題演習を通して理解する。【知】【思】	
	第2節 剛体のつりあい	・運動量と力積がベクトルで表される量であり、物体の運動量の変化が物体に働く力積に等しいことを理解する。【知】【思】	
	第3節 運動量の保存	・実験を通して、運動量保存の法則やはね帰し係数について理解する。【知】【主】	
6	第4節 円運動と単振動	・等速円運動の速度、周期、角速度、向心加速度及び向心力、慣性力について理解する。【知】【思】	
7	第5節 気体の性質と分子の運動	・ボイルの法則やシャルルの法則を含めた気体の状態方程式、気体分子の速さや平均の運動エネルギーと気体の圧力、絶対温度の関係について理解する。【知】【思】	
	第Ⅱ章 波動	・気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係について理解し、熱力学第1・第2法則について理解する。【知】【思】	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト
	第1節 波の性質	・波の伝わり方として、ホイヘンスの原理、水面波の反射・屈折及び屈折率について理解する。また、波の表し方として、波の式及び位相について理解する。【知】【思】	
	課題研究	・シミュレーションソフトを用いて、波の回折・干渉について理解する。【知】【主】	
		・物理の基礎知識を活用し、自ら実験計画を立てることができる。【知】	
		・実験結果を考察し、発表することができる。【思】	
		・自身の考察を共有し、またそこから新たな疑問解決のために調べ学習をすることができる。【主】	
9	第2節 音波	・実験などを通して、音の干渉、回折及び屈折について理解する。【主】	
10	第3節 光波	・ドップラー効果や音源が音速以上の速さで動いたときに起こる現象を理解する。【知】【思】	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト
11	第Ⅲ章 電気と磁気	・光の反射、屈折、分散、偏光、速さ、波長などについて、観察、実験を通して理解する。また、実験を通して、光の回折、干渉、光路長、反射による位相のずれについて理解する。【知】【主】	
12	第1節 電場と電位	・電荷が相互に及ぼし合う力や電場（電界）の表し方について理解する。【知】【思】	
	第2節 電流	・観察、実験を通して電荷が相互に及ぼし合う力、電気量の保存、電界の性質、電気力線及び電荷の移動と仕事の関係、電場と電位の関係、及び電位の基準点について理解する。【知】【主】	
	第3節 電流と磁場	・静電誘導、静電遮蔽（シールド）、誘電分極、コンデンサーの基本的性質や接続時の合成容量や、電気容量と誘電体の関係について理解する。【知】【思】	
	第4節 電磁誘導と交流	・キルヒホッフの法則、抵抗率の温度変化、電球の電流特性などについて理解する。また、コンデンサーを含む電気回路や、半導体の特性について理解する。【知】【思】	
		・直線電流のまわり、円形電流の中心、ソレノイドの内部にできる磁場やローレンツについて理解する。【知】【思】	
		・コイルを貫く磁束が変化するとき及び導線が磁束を横切るときに生じる誘	

	課題研究	導起電力、自己誘導、相互誘導、渦電流、交流発電機の仕組みなどについて理解する。【知】【思】 ・実験を通して、電磁波の基本的な性質、及び電波の利用について理解する。【主】 ・物理の基礎知識を活用し、自ら実験計画を立てることができる。【知】【思】 ・実験結果を考察し、発表することができる。【思】 ・自身の考察を共有し、またそこから新たな疑問解決のために調べ学習をすることができる。【主】	
I	課題研究	・物理の基礎知識を活用し、自ら実験計画を立てることができる。【知】【思】 ・実験結果を考察し、発表することができる。【思】 ・自身の考察を共有し、またそこから新たな疑問解決のために調べ学習をすることができる。【主】	・授業態度 ・発問評価 ・実験報告書 ・小テスト

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

別紙参照

令和 7 年度 保健体育科 生涯スポーツ

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	普通科体育コース2・3 年次
教科書		副教材等	Active Sports (大修館書店)

2 科目の目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。また、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 自己の能力を最大限に発揮し専門的な技や技能、戦術を習得する。	【観点の到達目標】 自己に適した目標や課題を設定して練習に取り組み、その課題を解決できるようにしている。	【観点の到達目標】 競技についての成り立ちや変遷などの歴史や現在のルール、技術の公正及び技能の高め方、技術分析、初心者への指導法、採点法や審判法、競技会の開催のしかたやその際の役割分担などについて科学的、社会的、文化的な側面からの教養を身につけている。
【イチカシ学カスタンダード】 技術や競争における作戦・技・技能や泳法の高め方、合理的な練習法や練習計画の立て方、体力の高め方、課題解決の方法、運動の観察や動作の分析のしかたなどを理解できる。	【イチカシ学カスタンダード】 自己の課題を解決するとともに生涯を通して、スポーツの振興発展にかかわることができるよう、これらの知識を活用して、課題の設定や情報の分析及び適切な選択、活動の評価、目標の修正や練習計画の組み立てなどができる。	【イチカシ学カスタンダード】 発達の段階や学習の段階に適した課題を設定したり、練習の進め方や場づくりの方法などを示したりすることについて、記録の向上、競争や攻防、演技や発表などに意欲をもって自主的に取り組もうとしている。また、体調や環境の変化に注意を払いながら運動を行うことについて、自己や仲間の健康を維持し、安全を確保している。
【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 ・学習カード 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 ・学習カード 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	【評価の方法】 ・行動観察 ・ワークシート分析 ・学習カード 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度の3観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 から 7	生涯スポーツ 【ゴルフ】 【バドミントン】 【卓球】 【その他種目】 ・ガイダンス ・基本練習	種目として、「ゴルフ」を取り上げ、種目の基本的な特性を理解する。 【知・技】バードゴルフ用のボールやプラスチック製のボールを利用して、ゴルフのスタンスやスイング等の動きを理解し、習得する。 【思・判・表】生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【主】バードゴルフに主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	スキルテスト ワークシート分析 行動観察
9 から 12	生涯スポーツ 【ゴルフ】 【バドミントン】 【卓球】 【その他種目】 ・個人技能 ・簡易ゲーム	種目として、「ゴルフ」を取り上げ、種目の基本的な特性を理解する。 【思・判・表】運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 【知・技】生涯スポーツの種目として、「ゴルフ」を取り上げ、種目の基本的な特性を理解する。バードゴルフ用のボールやプラスチック製のボールを利用して、ゴルフのスタンスやスイング等の動きを理解し、習得する。技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。 【主】運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	スキルテスト ワークシート分析 行動観察
1 から 3	生涯スポーツ 【ゴルフ】 【バドミントン】 【卓球】 【その他種目】 ・基礎練習 ・応用練習 ・簡易試合	種目として「バドミントン」「卓球」を取り上げ、競技の進め方や競技規則を正しく理解し、安全公正に試合を行うこと。 【知・技】技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。・ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 【思・判・表】生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。 【主】球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、合意形成に貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	スキルテスト ワークシート分析 行動観察

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

(アドバイス)

- ・運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められています。これまでの経験からくる運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで授業に臨むことから始めましょう。
- ・自分と仲間の課題を見つけようとする意欲が大切です。自分自身のことにとどまらず、仲間の気持ちや体の状態に目を向け、問題点や解決方法を見つける努力をしましょう。

(守ってほしい事項)

- ・服装は学校指定の体操服を着用し、こまめに洗濯し衛生面に気をつけること。また、爪や頭髮などの身体の安全面や衛生面に気をつけること。
- ・授業はチャイムと同時に始めます、活動場所への移動は休み時間のうちに完了すること。また、見学者は授業前に担当者へ申し出て指示を受けること。(見学者も体操服を着用すること)
- ・貴重品の管理をしっかり行うこと。

令和 7 年度 体育科 専攻実技

1 科目について

単位数	スポ科・2単位 普通科体育コ・1単位	学科・学年	スポーツ科学科 1～3 年次 普通科体育コース 2・3年次
教科書		副教材等	Active Sports（大修館書店）

2 科目の目標

球技の特性や測定競技の特性、また武道等の特性について、理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得できるようにするとともに、技能を発揮して競技をすることができる資質や能力を育てる。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 自己の能力を最大限に発揮し専門的な技や技能、戦術を習得する。	【観点の到達目標】 自己に適した目標や課題を設定して練習に取り組み、その課題を解決できるようにしている。	【観点の到達目標】 競技についての成り立ちや変遷などの歴史や現在のルール、技術の公正及び技能の高め方、技術分析、初心者への指導法、採点法や審判法、競技会の開催のしかたやその際の役割分担などについて科学的、社会的、文化的な側面からの教養を身につけている。
【イチカシ学カスタンダード】 技術や競争における作戦・技・技能や泳法の高め方、合理的な練習法や練習計画の立て方、体力の高め方、課題解決の方法、運動の観察や動作の分析のしかたなどを理解できる。	【イチカシ学カスタンダード】 自己の課題を解決するとともに生涯を通して、スポーツの振興発展にかかわることができるよう、これらの知識を活用して、課題の設定や情報の分析及び適切な選択、活動の評価、目標の修正や練習計画の組み立てなどができる。	【イチカシ学カスタンダード】 発達の段階や学習の段階に適した課題を設定したり、練習の進め方や場づくりの方法などを示したりすることについて、記録の向上、競争、演技や発表などに意欲をもって自主的に取り組もうとしている。また、体調や環境の変化に注意を払いながら運動を行うことについて、自己や仲間の健康を維持し、安全を確保している。
【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4月 ～ 7月	専攻実技 【野球】 【サッカー】 【バスケットボール】 【バレーボール】 【陸上競技】 (長距離) 【柔道】	【知・技】学習の意義や内容、評価の方法について理解する。 疲労の意味とコンディショニングの必要性を理解する。 【思・判・表】野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、陸上競技(長距離)、柔道、剣道の各種目より、各自が専攻している競技(種目)に取り組む。 【主】基礎体力及び柔軟性を高めること。・チームや各自の運動課題を確認し、互いに協力し合って、計画的、自主的に練習に取り組むこと。	スキルテスト ワークシート分析 行動観察
9月 ～ 12月	【剣道】 【その他の種目】 ・ガイダンス ・基本練習 ・応用練習	【知・技】各競技の進め方や競技規則を正しく理解する。 疲労の意味とコンディショニングの必要性を理解する。 【思・判・表】各競技における基礎技術を習得する。総合練習により、チーム及び各自の到達度を確認すること。総合練習により、チーム及び各自の到達度を確認する。 【主】チームや各自の運動課題を確認し、互いに協力し合って、計画的、自主的に練習に取り組むこと。高度な技術に挑戦し、習得を目指すこと。	スキルテスト ワークシート分析 行動観察
1月 ～ 3月	・総合練習 ・コンディショニング	【知・技】各競技の進め方や競技規則を正しく理解する。 基礎体力及び柔軟性を高めること。 【思・判・表】総合練習により、チーム及び各自の到達度を確認すること。 総合練習により、チーム及び各自の到達度を確認する。 【主】高度な技術に挑戦し、習得を目指すこと。 技術力向上に必要な基礎技術を理解し、不足している技術を各自でドリル化し、自主的に練習に取り組むこと。	スキルテスト ワークシート分析 行動観察

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

(アドバイス)

・運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められています。これまでの経験からくる運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで授業に臨むことから始めましょう。

・自分と仲間の課題を見つけようとする意欲が大切です。自分自身のことにとどまらず。仲間の気持ちや体の状態に目を向け、問題点や解決方法を見つける努力をしましょう。

(守ってほしい事項)

・服装は学校指定の体操服を着用し、こまめに洗濯し衛生面に気をつけること。また、爪や頭髮などの身体の安全面や衛生面に気をつけること。

・授業はチャイムと同時に始めます、活動場所への移動は休み時間のうちに完了すること。また、見学者は授業前に担当者へ申し出て指示を受けること。(見学者も体操服を着用すること)

・貴重品の管理をしっかりと行うこと。

令和 7 年度 保健体育 スポーツ概論(3 年スポーツコース)

1 科目について

単位数	1 単位	学科・学年	3 年次
教科書		副教材等	Active Sports（大修館書店）

2 科目の目標

スポーツについての総合的な理解を通して、その知識を運動の主体的、合理的、計画的な実践に活用できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。	【観点の到達目標】 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的にとらえることにより、適切な意思決定をおこない、選択すべき行動を適切に判断している。	【観点の到達目標】 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとしている。
【イチカシ学カスタンダード】 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的・応用的な事項を理解している。	【イチカシ学カスタンダード】 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の価値に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	【イチカシ学カスタンダード】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的・計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 など	【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 など	【評価の方法】 ・行動観察 ・ワークシート分析 など

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から基準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	運動障害とその予防	【知・技】 ・学習した内容に対して、正しく理解し、理解したことを発言したり、記述したりしている。	・発言・発表などの行動観察 ・定期考査
5		【思・判・表】 ・学習内容に対して、課題を見ついたり、整理したりするなどして、それらを説明している。	
6		【主】 ・学習内容に対して、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
7			

9 10 11 12	運動による障害とその予防"	【知・技】 ・学習した内容に対して、正しく理解し、理解したことを発言したり、記述したりしている。 【思・判・表】 ・学習内容に対して、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 【主】 ・学習内容に対して、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・ワークシートや保健ノート ・発言・発表などの行動観察
1 2 3	運動を安全に行うための理論"	【知・技】 ・学習した内容に対して、正しく理解し、理解したことを発言したり、記述したりしている。 【思・判・表】 ・学習内容に対して、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 【主】 ・学習内容に対して、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・発言・発表などの行動観察 ・ワークシートや保健ノート

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

(アドバイス)

授業で教科担当の「説明を聞いたり」「板書を書き留めたりする」だけでなく、積極的に 自分自身の生活を振り返り、健康の保持増進を図るための課題を見つけることが大切です。さらには、学習した内容をもとに、自分や集団の課題を解決する方法を見つけ出すことも求められています。教科書と学習ノート(プリント)を中心に学習を進めます。学習の流れに乗りおくれないう積極的に活動することが大切です。

(守ってほしい事項)

教科書や学習ノートは毎時間必ず準備してください。

授業チャイムと同時に始めますので、休み時間中に教科書及び学習ノートを準備しておき、チャイムと同時に着席を完了してください。

欠席した場合は、友人のノートを参考にするか担当者に申し出てノートの整理をしてください。

令和 7 年度 保健体育 スポーツⅡ

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	2・3年次
教科書		副教材等	Active Sports（大修館書店）

2 科目の目標

球技の特性についての理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得できるようにするとともに、技能を発揮してゲームをすることができる資質や能力を育てる。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 自己の能力を最大限に発揮し専門的な技や技能、戦術を習得する。競技についての成り立ちや変遷などの歴史や現在のルール、技術の公正及び技能の高め方、技術分析、初心者への指導法、採点法や審判法、競技会の開催のしかたやその際の役割分担などについて科学的、社会的、文化的な側面からの教養を身につけている。	【観点の到達目標】 生涯にわたってスポーツを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	【観点の到達目標】 生涯にわたってスポーツを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。
【イチカシ学カスタンダード】 技術や競争における作戦・技・技能や泳法の高め方、合理的な練習法や練習計画の立て方、体力の高め方、課題解決の方法、運動の観察や動作の分析のしかたなどを理解できる。生涯にわたって運動を豊かに実践することを目指すことについて、身に付けた動きを高めたり、新たに得意技を身に付けて、攻防や動きができる。また、記録や技に挑戦したり、簡易化されたルール制限を次第に正規に近づけるなどして試合をしたり、発表したりする動きができる。	【イチカシ学カスタンダード】 自己の課題を解決するとともに生涯を通して、スポーツの振興発展にかかわることができるよう、これらの知識を活用して、課題の設定や情報の分析及び適切な選択、活動の評価、目標の修正や練習計画の組み立てなどができる。	【イチカシ学カスタンダード】 発達の段階や学習の段階に適した課題を設定したり、練習の進め方や場づくりの方法などを示したりすることについて、記録の向上、競争、演技や発表などに意欲をもって自主的に取り組もうとしている。また、体調や環境の変化に注意を払いながら運動を行うことについて、自己や仲間の健康を維持し、安全を確保している。
【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 ・学習カード 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析 ・学習カード 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	【評価の方法】 ・行動観察 ・ワークシート分析 ・学習カード 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 月 から 3 月	サッカー	学習内容(1学期) ・ガイダンス ・基本練習 評価の観点 ・学習の意義や内容、評価の方法について理解する。【知・技】 ・サッカーのルールや用語を理解する。【知・技】 ・ボールの操作や安定した身体の使い方を身につけること。【知・技】 ・正しいフォームで行う知識を身につける。【思・判・表】 学習内容(2学期) ・応用動作 ・簡易ゲーム 評価の観点 ・基本動作をチームでの攻防の際に実践する。【知・技】 ・シュートパスやロングパスを使ったオープン攻撃や中央突破の攻撃、スリーバック型やフォーバック型での防御ができるようにする。【思・判・表】 学習内容(3学期) ・応用動作 ・試合形式 評価の観点 ・競技のすすめ方や、競技規則を正しく理解する。【知・技】 ・審判法を理解し、正しく試合を運営できる。【思・判・表】	スキルテスト ワークシート分析 行動観察 スキルテスト ワークシート分析 行動観察 スキルテスト ワークシート分析 行動観察
4 月 から 3 月	ソフトボール	学習内容(1学期) ・ガイダンス ・基本動作 評価の観点 ・学習の意義や内容、評価の方法について理解する。【知・技】 ・競技のルールや用語を理解する。【知・技】 ・グローブやバットの操作、安定した用具の使い方を身につけること。【知・技】 ・正しいフォームで行う知識を身につける【思・判・表】 学習内容(2学期) ・応用練習 ・簡易ゲーム 評価の観点 ・個人やチームの長を活かして作戦を立て、実践の場面を想定しながらの練習を行う。【思・判・表】 学習内容(3学期) ・応用動作 ・試合形式 評価の観点 ・競技のすすめ方や、競技規則を正しく理解する。【知・技】 ・審判法を理解し、試合を適切に運営すること。【思・判・表】	スキルテスト ワークシート分析 行動観察 スキルテスト ワークシート分析 行動観察 スキルテスト ワークシート分析 行動観察

[illegible]

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

(アドバイス)

・運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められています。これまでの経験からくる運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで授業に臨むことから始めましょう。

・自分と仲間の課題を見つけようとする意欲が大切です。自分自身のことにとどまらず、仲間の気持ちや体の状態に目を向け、問題点や解決方法を見つける努力をしましょう。

(守ってほしい事項)

・服装は学校指定の体操服を着用し、こまめに洗濯し衛生面に気をつけること。また、爪や頭髮などの身体の安全面や衛生面に気をつけること。

と。

- ・授業はチャイムと同時に始めます、活動場所への移動は休み時間のうちに完了すること。また、見学者は授業前に担当者へ申し出て指示を受けること。（見学者も体操服を着用すること）

- ・貴重品の管理をしっかりと行うこと。

令和 7 年度 保健体育科 3年体育

1 科目について

単位数	3単位	学科・学年	3 年次
教科書		副教材等	Active Sports（大修館書店）

2 科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 生涯にわたって運動を豊かに実践することを目指して、主に、身に付けた技能や動き等をより高めたり、新たに得意技を身に付けたりして、攻防や動きの様相を高めて、記録や技に挑戦したり、簡易化されたルール制限を次第に正規に近づけるなどして試合をしたり、発表したりできる。また、運動観察の方法、伝統的な考え方、交流や発表の仕方などに加え、各領域に応じて技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方の理解をもとに運動の技能を身に付けたり、一層その理解を深めたりすることができる。	【観点の到達目標】 自己の課題に応じた運動の取り組み方を発展的にし、多くの運動の中から、自らに適した領域を選択し、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要となる課題を解決することができる。	【観点の到達目標】 運動を継続することは、健康の保持増進に役立つとともに、人生を豊かにするといった運動を継続することの意義などを理解し、各領域において練習や試合、発表などに意欲を持って主体的に取り組める。学習への責任や参画への意欲といったものを土台とし、仲間やチームに対して、役割を積極的に引き受けたり、話し合いを通して合意形成に貢献しようとしたりするなどに主体的に取り組める。
【イチカシ学カスタンダード】 生涯にわたって運動を豊かに実践することを目指すことについて、身に付けた動きを高めたり、新たに得意技を身に付けて、攻防や動きができる。また、記録や技に挑戦したり、簡易化されたルール制限を次第に正規に近づけるなどして試合をしたり、発表したりする動きができる。運動の技能を身に付けることについて、経験に基づく知恵などの暗黙知も含め、一層その理解を深めたりするなど、知識と技能を関連させて言ったり書き出したりしている。	【イチカシ学カスタンダード】 選択した運動の中から、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することについて、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要な課題を見付けている。	【イチカシ学カスタンダード】 発達の段階や学習の段階に適した課題を設定したり、練習の進め方や場づくりの方法などを示したりすることについて、記録の向上、競争や攻防、演技や発表などに意欲をもって自主的に取り組もうとしている。また、体調や環境の変化に注意を払いながら運動を行うことについて、自己や仲間の健康を維持し、安全を確保している。
【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析	【評価の方法】 ・スキルテスト ・行動観察 ・ワークシート分析	【評価の方法】 ・行動観察 ・ワークシート分析 ・学習カード

・学習カード 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	・学習カード 十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C
--	--	--------------------------------------

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度の3観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	ガイダンス 体育理論 体づくり運動	【知・技】学習した内容に対して、正しく理解し、理解したことを発言したり、記述したりしている。(行動観察・ワークシート分析) 運動の特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身につけている。(行動観察・スキルテスト・ワークシート分析) 【思・判・表】学習内容に対して、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。(ワークシート分析) 【主】学習内容に対して、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。(行動観察)	(行動観察・ワークシート分析)
5 ～ 1	種目選択 (バスケボール・バレーボール・ソフトボール・サッカー・テニス・パドミントン・卓球)	【知・技】学習した内容に対して、正しく理解し、理解したことを発言したり、記述したりしている。(行動観察・ワークシート分析) 運動の特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身につけている。(行動観察・スキルテスト・ワークシート分析) 【思・判・表】学習内容に対して、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。(ワークシート分析) 【主】学習内容に対して、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。(行動観察)	(行動観察・ワークシート分析・スキルテスト)

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

・運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められています。これまでの経験からくる運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで授業に臨むことから始めましょう。

・自分と仲間の課題を見つけようとする意欲が大切です。自分自身のことにとどまらず。仲間の気持ちや体の状態に目を向け、問題点や解決方法を見つける努力をしましょう。

令和7年度 音楽科 音楽Ⅲ

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	普通科 3年次 一般音
教科書	Joy of Music (教育芸術社)	副教材等	自動伴奏装置

2 科目の目標

音楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽や音楽文化と創造的に関わる資質・能力の育成を目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的 背景などとの関わり及び音楽文化の 多様性について理解している。(知) ・創意工夫や表現上の効果を生かした 音楽表現をするために必要な技能を 身につけている。(技) ・音楽を形作っている要素及び音楽に 関する用語や記号などについて、音楽 における働きと関わらせて理解してい る。(知)	【観点の到達目標】 ・音楽に関する知識や技能を総合的に働かせな がら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 (思・判) ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を 知覚し、それらの働きを感受しながら、曲想や美 しさを表現している。(表)	【観点の到達目標】 ・主体的・協同的に音楽の諸 活動に取り組んでいる。 ・他者の音楽表現を捉え、調和 を意識している。
【イチカシ学カスタンダード】 ・音楽用語 ・歌唱の技能 ・演奏の技能 ・記譜、読譜の技能 など	【イチカシ学カスタンダード】 ・グループワーク ・ディスカッション ・学習プリント など	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学ぶ姿勢 ・他者の音楽性理解 ・協同的に取り組む姿勢 など
【評価の方法】 ・技能テスト ・学習プリント ・演奏発表	【評価の方法】 ・技能テスト ・学習プリント ・授業内での取り組み	【評価の方法】 ・授業内での姿勢、発言 ・プリント提出 ・学習課題

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
---	------	-------------------	------

4	音楽の要素 音楽と感情 鑑賞	音楽の要素と感情の関わりを考える。 交響詩「ローマの松」 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	学習プリント 授業内での様子
5	器楽演奏 創作	古典～ロマン派の曲を学ぶ。 ・楽曲の文化的・歴史的背景、作曲家による表現の特徴を理解して演奏する。 和音の音を使って旋律を作る。 ・和音の特徴や理解し、音楽を形作っている要素を理解する。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	学習プリント 授業内での様子 実技テスト
6	歌唱表現 器楽演奏 鑑賞	「You Raise Me Up」 「Annie Laurie」 ・楽曲にふさわしい表現の工夫や各パートの役割や音の重なり方について考え演奏する。 ピアノの詩人「ショパン」 ・作曲家の生涯と音楽について学ぶ。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	学習プリント 授業内での様子 実技テスト
7	器楽演奏	ピアノ演奏 ・曲の構成、曲想を把握し表現を工夫する。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	学習プリント 授業内での様子
9	歌唱表現 器楽演奏 創作	「We Are The Champions」 「WINDING ROAD」 「I Need To Be In Lone」 ・曲想と歌詞の内容との関わり、音色、リズム、旋律、強弱など、音楽を形づくっている要素と働きを知覚する。 ポップス音楽をつくろう ・音楽形態の理解し、音楽の要素を知覚する。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。	学習プリント 授業内での様子 実技テスト 演奏発表

		【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	
10	歌唱表現 器楽演奏 鑑賞	合唱曲①「若返りの水」 ・声部の重なりや、構造を理解する。 「日本のわらべうたつづり」 ・伝統音楽の特徴を理解して演奏する。 「禿山の一夜」 ・物語から生まれる音楽や、諸外国の音楽の特徴を捉え理解する。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	学習プリント 授業内での様子 実技テスト
11	歌唱表現 創作 器楽演奏	合唱曲②「光の通り道」 ・様々な表現形態、全体の調和を学ぶ。 ファンファーレをつくろう ・演奏形態の特徴を生かした表現方法を学ぶ。 つくったファンファーレを演奏 ・音素材を生かした演奏を行う。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	学習プリント 授業内での様子 実技テスト 演奏発表
12	表現	音楽に合わせた動き ・リズム、曲想などを理解し表現を工夫する。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	授業内での様子
1	歌唱表現	「ぼたるこい」 「宇宙戦艦ヤマト」 ・楽曲の表現内容を総合的に理解し、演奏形態の特徴と美しさの関わりを学び演奏する。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	学習プリント 授業内での様子 実技テスト
2	表現	コンサートを開こう ・様々なコンサートのテーマや演出を調べ、自分たちなりに組み立てる。 【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解し、音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚、感受しながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。	学習プリント 授業内での様子

		る。 【主】他者の音楽表現を捉え、調和を意識しながら主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。	
3			

担当者からのメッセージ（資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

・音楽表現がなんのためにあって、どのように価値あるものなのかを真剣に考えることが本当の芸術の価値に近づくための方法です。そのためには狭い音楽ジャンルに自分の興味を閉じ込めてしまうことなく、大きな視野に立って音楽の世界をとらえることが大切です。自分としては、違和感を感じる音楽演奏に接したときでも、それを簡単につまらないものと決めつけなくて、自分なりにその音楽の良さをとらえようと努力をして下さい。

・楽器、楽譜などは常に大切に扱ってください。道具を大切に扱うことが音楽を大切にする態度につながり、自分たちの授業を豊かなものにします。

・自分で解決できない疑問点、演奏の方法でわからないことなどは、積極的に質問することが大切です。

・自分の演奏ばかりに集中するのではなく、鑑賞で聞く曲や、教師・友人の演奏をしっかりと聴いて授業を受けてください。音を聴き取る自分の判断が、なによりも授業の助けとなるからです。その中にはたくさんの発見があるはずです。

・音楽のいろいろな表現方法を学習する授業です。授業の形は活動内容（歌唱・器楽・鑑賞・創作）に合わせて様々に変化します。（集団演奏、個人演奏、グループ演奏等）

・音楽表現はそこに人と人を結びつけるメッセージが込められているものです。そのメッセージを伝えるためには演奏の実技練習・発表は大変重要な活動となります。メッセージを受け取る側としての態度を養い、より豊かな内容を聴き取ることも1年間の学習の上で大きな目標となります。

単位数	2 単位	学科・学年・学級	3 学年 全組
教科書	書道Ⅲ (東京書籍)	副教材等	

学習の到達目標および評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ・書の表現の方法、形式、書表現の多様性を理解する。 ・書写能力を向上させ、書の伝統に基づいた効果的な表現のための基礎的な技能を身に付ける。 (よく見て正確に表現する)	【イチカシ学カスタンダード】 ・意図に基づいた表現について創造的に深く構想し工夫した作品作りを習得する。 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (自分の思いを表現する)	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
【評価材料等】 ・ 作品 ・ ワークシート など	【評価材料等】 ・ 作品 ・ ワークシート など	【評価材料等】 ・ ワークシート ・ 取り組みの様子

学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
4	漢字の書	・漢字の書の成立と変遷	・漢字の書体の特徴と変遷について理解する。	ワークシート 作品 観察
5		・古典に学ぼう ①九成宮醴泉銘 ②蘭亭序 ③曹全碑	・古典の臨書学習により、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・作品ごとの用筆と字形の特徴を理解し臨書する。 ・それぞれの表現の違いを理解し、その特徴を時代背景や人物を通して鑑賞する。 ・主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組む。	
6		・刻字作品を作ろう	・刻字の手順を理解し、構想を練り、制作する。 ・表現したいイメージを古典から見つけ、構成などの表現方法を工夫しながら制作する。 ・各自の作品について、制作の意図を発表し、鑑賞しあう。	
7				
9	漢字の書	・篆書 ・篆刻を楽しむ	・篆書の種類や成立過程を理解する。 ・篆刻の用具・用材や創作の手順について理解し、構想を練り、創作につなげる。	ワークシート 作品 観察
10		・創作をしよう ①半切作品	・創作の手順を理解し、作品の構想を練る。 ・表現したいイメージを古典から見つけ、構成などの表現方法を工夫しながら臨書する。	ワークシート 作品 観察
11		②書初め		
12		創作	・年始の書初めにふさわしい語句で作品を仕上げる。 ・表現したいイメージを古典から見つけ、構成などの表現方法を工夫しながら制作する。 ・各自の作品について、制作の意図を発表し、鑑賞しあう。	作品 観察

1	漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じりの書の名筆を鑑賞しよう ・創作しよう	・漢字仮名交じりの書を鑑賞し、感じたことを話し合い、自らの鑑賞力を深める。 ・創作の手順を理解し、作品の構成を練る。 ・構成などの表現方法を工夫しながら制作する。 ・各自の作品について制作の意図を発表し、鑑賞しあう。 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。	ワークシート 作品
2				
3				

担当者からのメッセージ (学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深め、書写能力の向上を図りましょう。
- ・書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けましょう。
- ・書のよさや美しさを感じ「何を表現したいか」を考え表現を工夫した作品を作りましょう。
- ・主体的に書の幅広い活動に取り組みましょう。
- ・書を愛好する気持ちで書の伝統と文化に親しみ継承しましょう。
- ・書を通して心豊かな生活や社会を創造していく気持ちを持ち続けてください。
- ・作品を丁寧に扱うように、道具の扱いや書道教室の使い方も丁寧にしましょう。
- ・片付けや教室内の整理整頓までしっかりと気を配り、美しい作品を作りましょう。

令和7年度 芸術科 絵画

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次
教科書	光村図書出版 美術Ⅰ 美術Ⅱ	副教材等	

2 科目の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。	【観点の到達目標】 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。	【観点の到達目標】 絵画表現の可能性を追求する態度を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ・表現形式の特性についての理解 ・専門的な技能を習得する力	【イチカシ学カスタンダード】 ・絵画表現における専門的な知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったりする力 ・作品などに対する見方や感じ方を深めたりする力	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学習に取り組む ・主体的な課題の発見・解決 ・主体的に多様な価値観と触れ合う
【評価の方法】 ・ワークシート ・作品	【評価の方法】 ・ワークシート ・作品	【評価の方法】 ・振り返りシートにおける記述 ・行動観察

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	オリエンテーション 美術はなぜ学ぶのか	【知・技】社会における美術の役割を理解している。 【思・判・表】社会における美術の役割を理解したうえで、授業でどのように取り組んでいくかや、美術を学ぶ意義を考え、自分の言葉で表すことができる。 【主】美術を学ぶ意義を、他者の意見を聞きながら多角的かつ主体的に考えようとしている。	・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察
5	デッサン、クロッキー	【知・技】表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けている。 【思・判・表】対象のイメージや空間を把握することができる。 【主】主体的に対象を見つめ考察を深めたり、表現材料などを研究し取り入れたりしながら表現を高めていこうとしている。	・作品 ・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察

6	デッサン、クロッキー	【知・技】表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けている。 【思・判・表】対象のイメージや空間を把握することができている。 【主】主体的に対象を見つめ考察を深めたり、表現材料などを研究し取り入れたりしながら表現を高めていこうとしている。	・作品 ・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察
7	鑑賞会	【思・判・表】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 【主】主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の意見や作者の表したいことについて考え、見方や感じ方を深めようとしている。	・作品 ・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察
9	表現方法演習 絵の具について	【知・技】混色をすることで、色や表現の幅が広がることを理解している。絵の具の特徴や使い方を理解し、様々な表現方法やモダンテクニック等を利用する技術を身につけている。 【思・判・表】自分の作りたい色や、主題に応じた表現方法はどのようにすればできるかを、考察しながら表現している。 【主】混色や絵の具の表現を主体的に広げようとしている。	・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察
10	アクリル画表現	【知・技】形や色、タッチなどが感情にもたらす効果、造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かに創造的に表している。 【思・判・表】条件を生かし、自己や他者などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、想像などから主題を生成し、それらに応じて表現方法を考え、表現の構想を練っている。 【主】主体的に自己や他者などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、想像などをもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。	・作品 ・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察
11	アクリル画表現	【知・技】形や色、タッチなどが感情にもたらす効果、造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かに創造的に表している。 【思・判・表】条件を生かし、自己や他者などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、想像などから主題を生成し、それらに応じて表現方法を考え、表現の構想を練っている。 【主】主体的に自己や他者などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、想像などをもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。	・作品 ・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察
12	鑑賞会	【思・判・表】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 【主】主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の意見や作者の表したいことについて考え、見方や感じ方を深めようとしている。	・作品 ・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察
1	絵画鑑賞	【知・技】形や色、タッチなどが感情にもたらす効果、造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【思・判・表】造形的な特徴やよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を大切にしながら、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えている。 【主】造形的な特徴やよさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めようとしている。	・ワークシート ・振り返りシート ・行動観察

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・指示をよく聞き、マナーを守り、安全な活動を心掛けてください。皆が気持ちよく授業に参加できるようにしましょう。
- ・課題は授業時間内での完成を目指し、締め切りに間に合うようにしましょう。作業が遅れている者は補講も実施しますが、怠惰が理由の場合の補講の参加は認めません。欠席が多くなってしまった場合は自分から相談をすること。
- ・提出物(ワークシート、作品等)は、締め切りを守り、確実に提出してください。未完成のものや期限を守らないものは大幅に減点します。
- ・美術は答えがたくさんある教科です。自分の答えを持つことはもちろん大切ですが、他者の答えも大切にしてください。様々な価値観を認められる心を育みましょう。

書表現

単位数	2 単位	学科・学年・学級	3 学年 全組
教科書	書道 I (東京書籍)	副教材等	

学習の到達目標および評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
【イチカシ学力スタンダード】 ・書の表現の方法、形式、書表現の多様性を理解する。 ・書写能力を向上させ、書の伝統に基づいた効果的な表現のための基礎的な技能を身に付ける。 (よく見て正確に表現する)	【イチカシ学力スタンダード】 ・意図に基づいた表現について創造的に深く構想し工夫した作品作りを習得する。 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (自分の思いを表現する)	【イチカシ学力スタンダード】 ・主体的に書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
【評価材料等】 ・作品 ・ワークシート など	【評価材料等】 ・作品 ・ワークシート など	【評価材料等】 ・ワークシート ・取り組みの様子

--	--	--

学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
4	書へのいざない 漢字仮名交じりの書	・用具・用材 ・姿勢・執筆法 ・調和よく書いてみよう	・用具・用材の種類や性能を学ぶ。 ・姿勢や執筆法の基本を理解する。 ・漢字と仮名の調和と用筆の基本について理解する。	ワークシート
5	漢字の書	・漢字の書の成立と変遷	・漢字の書体の特徴と変遷について理解する。	ワークシート 作品 観察
6		・古典に学ぼう ①九成宮醴泉銘 ②蘭亭序 ③曹全碑	・古典の臨書学習により、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・作品ごとの用筆と字形の特徴を理解し臨書する。 ・それぞれの表現の違いを理解し、その特徴を時代背景や人物を通して鑑賞する。 ・主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組む。	
7		・表札を作ろう	・刻字の手順を理解し、構想を練り、制作する。 ・表現したいイメージを古典から見つけ、構成などの表現方法を工夫しながら制作する。 ・各自の作品について、制作の意図を発表し、鑑賞しあう。	ワークシート 作品 観察

9	漢字の書	・篆書 ・篆刻を楽しむ	・篆書の種類や成立過程を理解する。 ・篆刻の用具・用材や創作の手順について理解し、構想を練り、創作につなげる。	ワークシート 作品 観察
10		・創作をしよう ①半切作品	・創作の手順を理解し、作品の構想を練る。 ・表現したいイメージを古典から見つけ、構成などの表現方法を工夫しながら臨書する。	ワークシート 作品 観察
11		②書初め		
12		創作	・年始の書初めにふさわしい語句で作品を仕上げる。 ・表現したいイメージを古典から見つけ、構成などの表現方法を工夫しながら制作する。 ・各自の作品について、制作の意図を発表し、鑑賞しあう。	作品 観察
1	漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じりの書の名筆を鑑賞しよう ・創作しよう	・漢字仮名交じりの書を鑑賞し、感じたことを話し合い、自らの鑑賞力を深める。 ・創作の手順を理解し、作品の構成を練る。 ・構成などの表現方法を工夫しながら制作する。 ・各自の作品について制作の意図を発表し、鑑賞しあう。 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。	ワークシート 作品
2				
3				

担当者からのメッセージ(学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深め、書写能力の向上を図りましょう。
- ・書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けましょう。
- ・書のよさや美しさを感じ「何を表現したいか」を考え表現を工夫した作品を作りましょう。
- ・主体的に書の幅広い活動に取り組みましょう。
- ・書を愛好する気持ちで書の伝統と文化に親しみ継承しましょう。
- ・書を通して心豊かな生活や社会を創造していく気持ちを持ち続けてください。
- ・作品を丁寧に扱うように、道具の扱いや書道教室の使い方も丁寧にしましょう。
- ・片付けや教室内の整理整頓までしっかりと気を配り、美しい作品を作りましょう。

令和7年度 音楽科 室内楽

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	普通科 3年次 室内楽
教科書		副教材等	室内楽曲

2 科目の目標

音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力の育成を目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解している。(知) ・創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。(技) ・音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。(知)	【観点の到達目標】 ・音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。(思・判) ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、曲想や美しさを表現しているか。(表)	【観点の到達目標】 ・主体的・協同的に音楽の諸活動に取り組んでいる。 ・他者の音楽表現を捉え、調和を意識している。
【イチカシ学カスタンダード】 ・音楽用語の理解 ・演奏の技能 ・読譜の技能 など	【イチカシ学カスタンダード】 ・アンサンブル ・オーケストラスタディー ・合奏力 など	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学ぶ姿勢 ・他者の音楽性理解 ・協同的に取り組む姿勢 など
【評価の方法】 ・技能テスト ・演奏発表	【評価の方法】 ・技能テスト ・授業内での取り組み	【評価の方法】 ・授業内での姿勢、発言 ・学習課題への取り組み

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
---	------	-------------------	------

4 5 6 7	企画運営 演奏会構成	コンサートの裏側を知り、企画する。 ・コンサートスタッフを知る。 ・コンサートを企画する。 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	学習プリント 授業内での様子
	企画構成	演奏会プログラムを構成する。 ・趣旨に合ったプログラムを構成する。 ・必要な楽譜の準備の仕方、著作権について知る。 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	授業内での様子 実技テスト
	器楽演奏 (室内楽・合奏)	アンサンブルに取り組む。 ・編成にあったアンサンブルを構成する。 ・編成に伴う移調やアレンジ方法を学ぶ。 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	学習プリント 授業内での様子 実技テスト
	演出構成	1学期から継続した楽曲 ・衣装の選定準備をする。 音楽に合わせた動き ・リズム、曲想などを理解し表現を工夫する。 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	授業内での様子 実技テスト 演奏発表
9	器楽演奏 (合奏)	1学期に教員が決定した楽曲 ・楽曲の時代を知る。 ・作曲者について知る。 ・楽曲の社会的背景について知る。 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	授業内での様子 実技テスト
10 11 12	器楽演奏 (室内楽)	1学期から継続した楽曲 ・衣装の選定準備 ・構成 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	授業内での様子 実技テスト 演奏発表
	企画運営 演奏会構成	コンサート事務に取り組む ・演出の組み立て ・チラシの作成発注 ・プログラムの作成、印刷 ・運営スタッフの準備 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴	授業内での様子

		き、自分なりに評価し、よさを味わっている。・ 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
1 2	器楽演奏 コンサート運営	コンサートリハーサル 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽で あらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴 き、自分なりに評価し、よさを味わっている。・ 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	授業内での様 子 コンサートでの 取り組み
3			

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

・コンサートがどのように組み立てられ、どのような人たちがかわっているかを知り、演出や構成について考えることが芸術の価値、真髄に近づくための方法です。そのためには狭い音楽ジャンルに自分の興味を閉じ込めてしまうことなく、大きな視野に立って音楽の世界をとらえることが大切です。違和感を感じる音楽演奏に接したときでも、それを簡単につまらないものと決めつけずに、自分なりにその音楽の良さをとらえようと努力をして下さい。

・自分で解決できない疑問点、演奏の方法でわからないことなどは、積極的に質問することが大切です。

・自分の演奏ばかりに集中するのではなく、鑑賞で聞く曲や、教師・友人の演奏をしっかりと聴いて授業を受けてください。音を聴き取る自分の判断が、なによりも授業の助けとなるからです。その中にはたくさんの発見があるはずです。

・音楽表現はそこに人と人を結びつけるメッセージが込められているものです。そのメッセージを伝えるためには演奏の実技練習・発表は大変重要な活動となります。メッセージを受け取る側としての態度を養い、より豊かな内容を聴き取ることも1年間の学習の上で大きな目標となります。

令和7年度 音楽科 ソルフェージュⅢ

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次
教科書	Joy of Music (教育芸術社) コールユーブンゲン (大阪開成館) 新曲視唱(音楽之友社)	副教材等	楽典(音楽之友社)

2 科目の目標

声楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力の育成を目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解している。(知) ・表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけている。(技) ・視唱及び聴音に関する知識や技能を身につけている。(知・技)	【観点の到達目標】 ・音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。(思・判) ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、曲想や美しさを表現しているか。(表)	【観点の到達目標】 ・主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組んでいる。 ・音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にしている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・視唱の技能 ・聴音の技能 ・合唱の技能 ・記譜、読譜の技能 など	【イチカシ学カスタンダード】 ・グループワーク ・ディスカッション など	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学ぶ姿勢
【評価の方法】 ・技能テスト	【評価の方法】 ・技能テスト ・授業内での取り組み	【評価の方法】

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
---	------	-------------------	------

4	・コールユーブンゲン ・新曲 ・斉唱 ・聴音	・No.48(ト長調) ・5度音程(No.1～10) ・365日の紙飛行機 ・旋律聴音でクラス分け ・和声聴音(三声開離) 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
5	・コールユーブンゲン ・新曲 ・斉唱→2部合唱 ・聴音	・No.49～59 ・5度音程(No.11～30) ・365日の紙飛行機 ・涙そうそう、遠くへ行きたい ・ハ長調、イ短調の旋律聴音 ・四声開離(大譜表) 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
6	・コールユーブンゲン ・新曲 ・斉唱→2部合唱 ・聴音	・新曲リズム 四分の四拍子 ・八分の六拍子、十六分音符 ・6度音程(No.1～20) ・遠くへ行きたい 時代 ・ヘ長調、ニ短調の旋律聴音 ・三声密集(高音部譜表) 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
7	・コールユーブンゲン ・新曲 ・斉唱→2部合唱 ・聴音	・No.60～62(転調) ・6度音程(No.21～30) ・島人ぬ宝 ・ト長調、ホ短調の旋律聴音 ・総合問題 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
9	・コールユーブンゲン ・新曲 ・混声合唱 ・男声合唱と女声合唱 ・聴音	・No.63～66(転調) ・3種の短音階(No.1～20) ・春よ、来い ・宇宙戦艦ヤマト ほたるこい ・四声密集(大譜表) 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
10	・コールユーブンゲン ・新曲 ・混声合唱 ・男声合唱と女声合唱 ・聴音	・No.67～70 ・3種の短音階(No.21～30) ・7度、8度音程(No.1～10) ・合唱曲の練習 ・宇宙戦艦ヤマト ほたるこい ・変ロ長調、ト短調、ニ長調、ロ短調の旋律聴音 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽で	

		あらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
11	・コールユーブンゲン ・新曲 ・混声合唱 ・男声合唱と女声合唱 ・聴音	・2学期の復習 ・7,8度音程 (No.11~30) ・合唱曲の練習 ・変ホ長調, ハ短調, イ長調の旋律聴音 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
12	・コールユーブンゲン ・新曲 ・混声合唱 ・男声合唱と女声合唱 ・聴音	・1,2学期の復習 ・借用和音を含む課題 ・合唱曲の練習 ・総合問題 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
1	・コールユーブンゲン ・新曲 ・混声合唱 ・男声合唱と女声合唱 ・聴音	・総復習 ・総復習 ・合唱曲の練習 ・総合問題 【知・技】・音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解し、表現意図を音楽であらわすために必要な技能を身につけようとしている。 【思・判・表】・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせながら他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
2			
3			

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

・音楽表現がなんのためにあって、どのように価値あるものなのかを真剣に考えることが本当の芸術の価値に近づくための方法です。そのためには狭い音楽ジャンルに自分の興味を閉じ込めてしまうことなく、大きな視野に立って音楽の世界をとらえることが大切です。自分としては、違和感を感じる音楽演奏に接したときでも、それを簡単につまらないものと決めつけないで、自分なりにその音楽の良さをとらえようと努力して下さい。

・楽器、楽譜などは常に大切に扱ってください。道具を大切に扱うことが音楽を大切にやる態度につながり、自分たちの授業を豊かなものにします。

・自分で解決できない疑問点、演奏の方法でわからないことなどは、積極的に質問することが大切です。

・自分の演奏ばかりに集中するのではなく、鑑賞で聞く曲や、教師・友人の演奏をしっかりと聴いて授業を受けてください。音を聴き取る自分の判断が、なによりも授業の助けとなるからです。その中にはたくさんの発見があるはずです。

・音楽のいろいろな表現方法を学習する授業です。授業の形は活動内容(歌唱・器楽・鑑賞・創作)に合わせて様々に変化します。(集団演奏、個人演奏、グループ演奏等)

・音楽表現はそこに人と人を結びつけるメッセージが込められているものです。そのメッセージを伝えるためには演奏の実技練習・発表は大変重要な活動となります。メッセージを受け取る側としての態度を養い、より豊かな内容を聴き取ることも1年間の学習の上で大きな目標となります

令和7年度 音楽科 音楽理論

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3年普通科・2学一般音
教科書	楽典(音楽之友社)	副教材等	

2 科目の目標

音楽理論の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力の育成を目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・楽典の内容を理解し、創造的に表現する技能を身に付けている。 ・楽譜に示された記号や標語の意味を把握し、それらが示している曲想を感じ取って表現する技能を身に付けている。 ・音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 ・楽典の内容をふまえて表現の工夫をしている。 ・音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を身に付けている	【観点の到達目標】 ・楽典に対して興味関心を高めている。 ・意欲的に楽典の問題に取り組むとともに、授業中の集中力の維持、積極性等の観点において的確に行動できている。 ・音楽に関する基礎的な理論について理解を深め、主体的に表現や鑑賞に生かそうとしている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・読譜・記譜の技能 ・調判定の技能 ・音程 ・音階 ・音楽用語 ・音楽記号 など	【イチカシ学カスタンダード】 ・コード演奏 ・調判定 など	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学ぶ姿勢 ・授業内での発言 など
【評価の方法】 ・单元テスト ・期末試験 ・学習プリント	【評価の方法】 ・单元テスト ・期末試験 ・授業内でのコード演奏 ・学習プリント	【評価の方法】 ・单元テスト ・期末試験 ・授業内での姿勢 ・学習プリント

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	五線の名称	五線の名称 楽譜を構成する上で必要な五線の名称について学ぶ。	・学習プリント ・単元テスト ・授業の取り組み ・期末試験
5	音名	音名 音楽に使われる音の高さにつけられた名称を、日本語のほか複数の多言語で学ぶ。	
6	音部記号	音部記号 さまざまな音部記号を理解する。	
7	変化記号・異名同音	変化記号・異名同音 変化記号・異名同音について理解する。	
	音符と拍	音符と拍 音符・休符の名称や五線への書き込み方、拍と拍子について理解する。	
	音程	音程 音と音のへだたりを表す単位や完全系の度数、長短系の度数を理解する。 【知・技】・楽典の内容を理解し、楽譜に示している曲想を感じ取って表現する技能を身に付けている。 【思・判・表】・音楽理論の内容をふまえ、様々な学習に活用し、表現している。 【主】・意欲的に授業へ取り組み、音楽に対して関心を高め、主体的に音楽を追求しようとしている。	
9	音階調	音階と調 長音階、短音階、全24調の仕組み、同主調、平行調、属調、下屬調について理解する。	・学習プリント ・単元テスト ・授業の取り組み ・期末試験
10		【知・技】・楽典の内容を理解し、楽譜に示している曲想を感じ取って表現する技能を身に付けている。	
11		【思・判・表】・音楽理論の内容をふまえ、様々な学習に活用し、表現している。	
12		【主】・意欲的に授業へ取り組み、音楽に対して関心を高め、主体的に音楽を追求しようとしている。	
1	和音・コード	和音・コード 4種類の三和音、セブンスコードについて理解し、演奏を行う。	・学習プリント ・単元テスト ・授業の取り組み ・期末試験
2		【知・技】・楽典の内容を理解し、楽譜に示している曲想を感じ取って表現する技能を身に付けている。	
3		【思・判・表】・音楽理論の内容をふまえ、様々な学習に活用し、表現している。 【主】・意欲的に授業へ取り組み、音楽に対して関心を高め、主体的に音楽を追求しようとしている。	

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・音楽の理論について学習する授業です。
- ・音楽表現がなんのためにあって、どのように価値あるものなのかを真剣に考えることが本当の芸術の価値に近づくための方法です。そのためには狭い音楽ジャンルに自分の興味を閉じこめてしまうことなく、大きな視野に立って音楽の世界をとらえることが大切です。自分としては、違和感を覚える音楽演奏に接したときでも、それを簡単につまらないものと決めつけないで、自分なりにその音楽の良さをとらえようと努力をして下さい。
- ・楽器、楽譜などは常に大切に扱って下さい。道具を大切に扱うことが音楽を大切に使う態度につながり、自分たちの授業を豊かなものにします。
- ・自分で解決できない疑問点、演奏の方法でわからないことなどは、積極的に質問することが大切です。
- ・音楽表現はその中に人と人を結びつけるメッセージが込められているものです。そのメッセージを伝えるための基礎的な知識を身に付けていきましょう。

令和7年度 音楽科 器楽演奏Ⅲ

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	全学科 3年次 一般音 自由選択 V、W、X
教科書	副教材のみ	副教材等	バイエル(全音楽譜出版) ソナチネ(全音楽譜出版)

2 科目の目標

器楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力の育成を目指す。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的 背景との関わり、及び音楽の多様性に ついて理解を深めるとともに、創意工 夫を生かした音楽表現をするために 技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 ・器楽演奏に関わる知識や技能を得たり生かし たりしながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫 している。 ・演奏上の課題に直面したときに、的確な解決方 法を見出す工夫がある。	【観点の到達目標】 ・主体的・協働的に音楽の諸 活動に取り組んでいる。 ・他者の演奏を聴き、音楽を評 価しながらよさや美しさを深く 味わっている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・音楽文化への理解 ・読譜の技能 ・演奏の技能 など	【イチカシ学カスタンダード】 ・音色 ・アゴーギグ ・構成 など	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学ぶ姿勢 ・他者の音楽表現への理解 など
【評価の方法】 ・個人レッスン ・実技試験	【評価の方法】 ・個人レッスン ・実技試験	【評価の方法】 ・進捗表 ・伴奏合わせ

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	器楽演奏 (ピアノ)	教材「バイエル」「ソナチネ」 ねらい: 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関り及びその関わりによって生み出さ れる表現上の効果を理解し、身につける。	・個人レッスン ・実技試験 ・進捗表
5		〈初心者〉 【知・技】・運指、音の配置を理解し、基礎的な奏法を身につけている。	
6		【思・判・表】・他者の演奏を聴き、自分なりに評価し、よさを味わっている。 【主】・実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。	
7		〈中級者〉 【知・技】・楽譜から作曲者の意図を理解し、楽器を通して自己表現をする力が身につけてい る。 【思・判・表】・曲の特徴を捉え、記譜されている音楽記号に忠実に表現している。 【主】実技試験に向け、主体的に音楽を追求しようとしている。 〈上級者〉 【知・技】・楽譜から作曲者の意図を理解し、楽器を通して自己表現をする力が身につけてい	

・楽譜を配付しますので、保管用にA4のポケットファイルを準備してください。

令和7年度 美術 クラフトデザイン シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	3年次
教科書	なし	副教材等	

学習の到達目標および評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・造形の要素の働きなどを基に素材の特徴を理解し、造形表現に生かしている。 ・意図に応じて材料や道具を生かし、手順や技法を創意工夫している。	・与えられた素材、自分の思い、生活を豊かにするなどからデザインを発想し、考え表現する。 ・古典作品と向き合いデザインに取り入れることも視野に入れる。	・新しい素材、道具などと真摯に向き合い自分の能力を最大限に生かし、また伸ばす。
【イチカシ学カスタンダード】 ・多様な素材、高度な道具を扱う。	【イチカシ学カスタンダード】 ・高度な技術も基礎的な技術の積み重ねであることを学び、自らの考えや発想を作品に反映することができる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・周りの人とのコミュニケーションをとり、お互い気持ちよく作業することができる。
【評価材料等】 ・デザイン、発想力。	【評価材料等】 ・素材の把握、新しい技術の習得。	【評価材料等】 ・作品完成までのプロセスを把握し、努力する。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
4	染色（手拭い）	手描き染めによる手拭い ・名画を選ぶ	・原色日本の美術、浮世絵、アールヌーボーのデザインなど過去の名作をアレンジして、手拭いをデザインする。	・過去の名品に触れ、味わうことができたか。
5		・手拭いに名画をレイアウト	・自分の選んだ名画を手拭いの大きさに落とし込んでいく。 ・いくつか組み合わせてもよい。	・絵画の比率と手拭いの比率を考えられたか。 ・美しくレイアウト出来たか。
6		・転写 ・線描	・パネルに晒しぬのをマスキングテープで貼る。 ・名画の原画をトレーシングペーパー紙に写し、用意してあるボール紙に貼り、その上に晒し布を伸ばしてマスキングテープで貼り、布ペン（極細）で描いていく。	・トレーシングペーパーで移すときの注意として、その線を元に名画をかいていくことをかながえられたか。 ・本番の描写は綺麗に適切に描けたか。
7		・彩色	・全て線描したら、布ペンで彩色していく。 ・混色、ぼかしなども、適切に指導しながら、難易度をあげ、友禅染をイメージさせながら染めていく。	彩色はきれいにできたか。 ・配色は適切に考えられたか。 ・ぼかし、混色はきれいにできたか。
8				
9	A ベルトとバツクル B シルバーリング	A か B を選んで制作 A デザイン B デザイン	A ・デザイン ・図面 ・鑢で削る B ・デザイン ・ロウ付け ・丸く叩く	AB ともに技法、手順を理解してデザインできたか ・A 鑢は適切に安全に使えたか ・B はロウ付け、叩きは適切に安全に作業できたか。

10			A・バックルの形が 出来たら耐水ペー パーで磨き上げる て B・指輪が丸くなっ たら鑢できれいな平 角にする ・デザインに応じ 鑢で形をつくって く	A・自分のデザインをいかし、 きれいに鑢で削れたか。左右対 称の形は綺麗にできたか。 B・指輪は綺麗に丸く削れたか
11			A・革を染めて、アン ティックダイ、トコノール で磨く。 ・自分のサイズに切り ベルトに仕立てる B・耐水ペーパーで 磨き上げてい ・研磨剤でみが く。	A・革の質感を生かして仕上げ られたか。仕立ては丁寧にでき たか。 B・指輪の傷は取りきれたか
12			A・バックルとベルト をカシメる。 B・指輪の内側も綺 麗に磨く	AもBも自分のデザインに忠実 にそしてこだわりをもって制 作できたか。
1	キーホルダー	革のキーホルダー	・革を裁断しネームプレートを貼る ・リングと革をカシメる。	・ネームプレートをきれいに つくれたか。 ・革の処理は綺麗にできたか
2				
3				

担当者からのメッセージ(学力をみにつけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守って欲しい事項など)
 工芸の中でも身近な素材(布、土、金属、木、革など)に触れ、感性を磨き、道具の使い方を学び、技術を高め、
 作品を作る喜びを体験する。

令和7年度 英語コミュニケーションⅢ

1 科目について

単位数	4 単位	学科・学年	普通科 3 年次
教科書	COMET English Communication II SUKEN SHUPPAN	副教材等	AB 組 : Factbook(advanced) C~H 組: Factbook(standard) 桐原書店

2 科目の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと・読むこと・話すこと〔やり取り〕・話すこと〔発表〕・書くことの5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いたり、書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能、論理性に注意して話して伝える技能、書いて伝える技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えていたり、書き手の意図や概要、要点を捉えている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったり、論理性に注意して書いて伝え合っている。	【観点の到達目標】 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしていたり、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしていたり、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・新しい語彙や文法を身に付け、教科書本文の基本的な英文の音読や読解ができるようになる。 ・本文についての英文を聞いて理解できるようにになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・既習単語や表現を使い、情報や気持ちを伝えることができる。 ・エッセイで30語程度の英文が書けるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・言語学習を通して、異文化を理解できるようになる。 ・ペアワークやグループワークを通して、主体的に学ぶ姿勢を身につける。
【評価の方法】 ・定期考査 ・単語テスト ・音読 ・ワークシート提出	【評価の方法】 ・定期考査 ・パフォーマンステスト ・エッセイライティング ・ペアワークへの取り組み	【評価の方法】 ・ノート提出 ・ワーク提出 ・ペアワークへの取り組み ・音読

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	Lesson 01 Festivals of the World	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（留学生の国の祭りの紹介）について 聞く／読むことを通じて 学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
5	Lesson 02 Biomimetics 【SDGs 9】	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（自然界にヒントを得た技術開発とその活用）について聞く／読むことを通じて学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み 定期考査
6	Lesson 03 The Anchoring Effect	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（アンカリング効果）について聞く／読むことを通じて学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
7	Lesson 04 Animal Welfare	【知・技】【思・判・表】【主体】本文に関連するテーマ（動物の健康や幸福を追求する取組）について必要な情報を聞く／読むことができ, 自分の意見を 書く／伝えあうことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み 定期考査
9	Lesson 05 Working Styles	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（高校生が将来の職業や働き方を考える）について, 聞く／読むことを通じて学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見を話すことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
10	Lesson 06 Bobby Gibb, First Woman Runner in the Boston Marathon	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（ボストンマラソン初の女性ランナー）について, 聞く／読むことを通じて学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み 定期考査
11	Lesson 07 Virtual Water	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（バーチャルウォーターと世界の水問題）について, 聞く／読むことを通じて学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
12	Lesson 08 Dresden's Decision	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（観光地のドレスデンが下した決断）について, 聞く／読むことを通じて学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み 定期考査
1	Lesson 09 Resilience	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（レジリエンスをどのように鍛えるか）について, 聞く／読むことを通じて学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
2	Lesson 10 Chocolate and Child Labor	【知・技】【思・判・表】【主体】本文の内容（チョコレート栽培と児童労働の問題）について, 聞く／読むことを通じて学び, 学習した語彙や言語材料（文法事項）を用いて, 自分の意見	音読テスト ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み

		を話す／書くことが できる。	
--	--	----------------	--

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス, 授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

普段の授業から「聞く」「話す」「読む」「書く」の4分野を総合的に評価していきます。授業への主体的な態度も評価の対象になりますので、失敗を恐れずに積極的に発声をしてください。また、英語は使えば使うほど上達していきます。授業中はもちろんのこと、授業外でも積極的に英語を使ってコミュニケーションをとってみましょう。

ICTも活用して家庭学習の際も積極的にトレーニングしていきましょう。

令和 7 年度 外国語科 論理・表現Ⅱ

1 科目について

単位数	4 単位	学科・学年	普通科 3年 B 組理系
教科書	NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅱ (東京書籍)	副教材等	

2 科目の目標

英語学習の特質を踏まえ、話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くことの3つの領域別の言語活動および複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通じて、発信能力の育成を強化する。とりわけ、スピーチやプレゼンテーション、複数の段落から成る文章を書くことなどの活動を通して、論理の構成や展開を工夫して話す、書く、伝える資質・能力を養う。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 情報や考え、気持ちなどを伝えるための表現の形・意味・用法を理解している。 学んだ知識を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えるための表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	【観点の到達目標】 日常的な話題や社会的な話題について、例文や辞書など一定の支援を活用しながら、まとまった長さで考えを書いたり述べたりする力を身につけている。 また、多様な語句や文を応用し、自己の考えを伝えるスピーチやプレゼンテーション、他者と協議するディベートやディスカッションに積極的に臨むことができている。	【観点の到達目標】 自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えるために、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。 その際、自分が必要とする語彙や表現を、辞書や検索エンジン等を使って手に入れる等、意欲的に表現しようとする姿勢がみられること。
【イチカシ学カスタンダード】 ・プレゼンテーションやスピーチの準備に必要な語彙、文法力を養い、自分で原稿を作成できるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・スライドやデータを活用しながら、2分間程度のプレゼンテーションができるようになる。 ・例文や辞書など一定の支援を活用しながら、まとまった長さ(100 語程度～)で文章が書けるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・プレゼンテーションやスピーチの準備として、ペアワークやグループワークを積極的に行い、主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ・自分のプレゼンテーションのテーマを工夫して伝えようとする姿勢を身につける。
【評価の方法】 ・単元テストおよび授業内プリント ・ワークシート提出	【評価の方法】 ・プレゼンテーション ・ペアワーク・グループワークへの取り組み	【評価の方法】 ・ペアワーク・グループワークへの取り組み ・ファイル提出 ・ワークシート提出 ・自己評価・リフレクション

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	Unit 1 Lesson 1 友達に報告する Unit 1 Lesson 2 日本での初登校	【知・技】日本への留学の報告や初登校についての会話を聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】友人同士の会話のやりとりを読んで, 必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめる。 【主】Make Your Own でのトピック(海外に行く目的や学校での清掃活動など)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。	ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み
5	Unit 1 Lesson 3 経験についてのスピーチ Unit 1 Lesson 4 ファンレター	【知・技】ボランティア経験や歌手へのファンレターについてのスピーチを聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】ボランティア経験やファンレターについて書かれた文章を読んで, 必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめ, プレゼンテーションとして output する。 【主】Make Your Own でのトピック(ボランティア経験やファンレター)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。	プレゼン ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み
6	Unit 1 Lesson 5 イベントに誘う Unit 1 Lesson 6 図書館で資料さがし	【知・技】教室や図書館での会話を聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】会話のやりとりを読んで, 必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめる。 【主】Make Your Own でのトピック(イベントへの誘いや図書館での活動)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。	ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み
7	Unit 1 Lesson 7 翻訳についてのスピーチ Unit 1 Lesson 8 通信販売で返品依頼	【知・技】翻訳についてのスピーチや返品依頼のメール本文を聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】翻訳についてのスピーチを読んで, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめ, プレゼンテーションとして output する。 【主】Make Your Own でのトピック(英訳短歌や俳句の紹介・英文問い合わせフォームの作成)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。	プレゼン ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み 学期末提出物
9	Unit 1 Lesson 9 タクシーに乗る Unit 1 Lesson 10 友達とディスカッション	【知・技】タクシーでの会話や教室内での友人とのディスカッションを聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】会話文やディスカッションを読んで, 必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめる。 【主】Make Your Own でのトピック(タクシーでのやり取り・模擬ディスカッション)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。	ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み
10	Unit 1 Lesson 11 比較結果のプレゼンテーション Unit 1 Lesson 12 就きたい職業	【知・技】比較結果や就きたい職業についてのプレゼンを聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】比較結果や就きたい職業についてのプレゼンを読んで, 論理の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめ, プレゼンテーションとして output する。 【主】Make Your Own でのトピック(比較結果・就きたい職業)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。	プレゼン ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み
11	Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート① Unit 2 Lesson 2 クラスでディベート②	【知・技】ディベートを聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】「谷中タワー」建設について, 肯定側・否定側に分かれてディベートをする場面において, 否定・肯定の立場を明確にし, 必要な情報を読み取り, 論理の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉える。 【主】肯定側・否定側に分かれてディベートに挑戦する。	ディベート ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み
12	Unit 2 Lesson 3 クラスでディベート③	【知・技】調査結果についてのプレゼンテーションを聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】調査結果についてのプレゼンを読んで, 論理の展開や書き手の意	プレゼン ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み

	Unit 2 Lesson 4 調査結果のプレゼンテーション	図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめ, プレゼンテーションとして output する。 【主】Make Your Own でのトピック(調査結果のプレゼンテーション)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。また, プレゼンテーションに必要なデータの収集に積極的に努める。	ークへの取り組み 学期末提出物
1	Unit 2 Lesson 5 社会問題についてのスピーチ Unit 2 Lesson 6 仮定して推論する	【知・技】スピーチを聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】スピーチを読んで, 論理の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめる。 【主】Make Your Own でのトピック(社会問題や仮定推論)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。	ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み
2	Unit 2 Lesson 7 比較して説明する	【知・技】比較結果についてのプレゼンを聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】比較結果についてのプレゼンを読んで, 論理の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめ, プレゼンテーションとして output する。 【主】Make Your Own でのトピック(比較結果のプレゼンテーション)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。また, 比較するものの選定, プレゼンテーションに必要なデータの収集に積極的に努める。	プレゼン ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み
3	Unit 2 Lesson 8 読み手を説得する	【知・技】スピーチを聞いて, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉える。 【思・判・表】スピーチを読んで, 論理の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, 自分の言葉でまとめ, プレゼンテーションとして output する。 【主】Make Your Own でのトピック(自分の主張)について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける。また, スピーチ(エッセイライティング)に必要なデータの収集に積極的に努める。	スピーチ ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み 学期末提出物

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス, 授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

論理表現Ⅱでは、「論理表現Ⅰ」で学んだ「英語で表現できる力」を更に伸ばすことを目標としていきます。英語での表現やコミュニケーションをとる際の、自発的に英語を活用していける姿勢はもちろん、モデル文や教科書のフレーズを応用しながら、プレゼンテーションやディベートにも挑戦し、より英語を自在に使えるように心がけていきましょう。

定期テストは実施しませんので、普段の授業でのペアワークや発表などの活動、課題英作文などの提出物で評価を行います。毎時間積極的に授業に取り組むようにしてください。

令和 7 年度 外国語科 論理・表現Ⅲ

1 科目について

単位数	4 単位	学科・学年	普通科 3年 A、B(文系)組
教科書	NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅲ (東京書籍)	副教材等	

2 科目の目標

「論理・表現Ⅰ、Ⅱ」の学習内容を踏まえ、話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くことの3つの領域別の言語活動および複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通じて、発信能力の育成を強化する。とりわけ、スピーチやプレゼンテーション、ディベートやグループディスカッション、複数の段落から成る文章を書くことなどの活動を通して、論理の構成や展開を工夫して話す、書く、伝える資質・能力を養う。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 情報や考え、気持ちなどを伝えるための表現の形・意味・用法を理解している。 学んだ知識を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えるための表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する高い技能を身につけている。 また、より良い発表のために複数のデータや資料を活用することができている。	【観点の到達目標】 日常的な話題や社会的な話題について、例文や辞書など支援をほとんど活用しなくても、まとまった長さで考えを書いたり述べたりする力を身につけている。 また、多様な語句や文を応用し、自己の考えを伝えるスピーチやプレゼンテーション、他者と協議するディベートやディスカッションに積極的に臨むことができている。	【観点の到達目標】 自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えるために、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。 その際、自分が必要とする語彙や表現を、例文や辞書などの支援に頼らなくとも、意欲的に表現しようとする姿勢がみられること。
【イチカシ学カスタンダード】 ・プレゼンテーションやスピーチの準備に必要な語彙、文法力を養い、自分で原稿を作成できるようになる。 ・複数のデータから発表のテーマに合った資料を引用、活用できるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・スライドや複数のデータを活用しながら、3～5分間程度のプレゼンテーションができるようになる。 ・例文や辞書など一定の支援を活用しながら、まとまった長さ(150 語程度～)で文章が書けるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・プレゼンテーションやスピーチの準備として、ペアトークやグループワークを積極的に行い、主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ・自分のプレゼンテーションのテーマを工夫して伝え、他者を説得することができるようになる。
【評価の方法】 ・単元テストおよび授業内プリント ・ワークシート提出	【評価の方法】 ・プレゼンテーション ・ペアトーク・グループワークへの取り組み	【評価の方法】 ・ペアトーク・グループワークへの取り組み ・ファイル提出 ・ワークシート提出 ・自己評価・リフレクション

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い, 総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	Lesson 1 食糧問題についてディスカッションする	【知・技】食糧問題についてのモデル・ディスカッションから, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉え, 必要なデータを収集する。 【思・判・表】友人同士の会話のやりとりを読んで, 必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, グループで協議しながら自分の言葉でまとめる。 【主】Make Your Own でのトピック (food waste) について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け, グループの意見をまとめる。	ワークシート 自己評価 ペア (グループ) ワークへの取り組み
5	Lesson 2 メールで近況を伝える	【知・技】英文のメール返信例から, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉え, 自分の発表に必要なデータを収集する。 【思・判・表】メールの文例を読んで, 必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, グループで協議しながら自分の言葉でまとめる。 【主】Make Your Own でのトピック (海外の友人へのメール) について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け, グループの意見をまとめる。	ワークシート 自己評価 ペア (グループ) ワークへの取り組み
6	Lesson 3 学校新聞でアドバイスをする	【知・技】英文の新聞記事の文例から, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉え, 自分の発表に必要なデータを収集する。 【思・判・表】記事の文例を読んで, 必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, グループで協議しながら自分の言葉でまとめる。 【主】Make Your Own でのトピック (現代の高校生に対するメッセージ) について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け, グループの意見をまとめる。	ワークシート 自己評価 ペア (グループ) ワークへの取り組み
7	Lesson 4 宇宙についてスピーチする	【知・技】宇宙についてのスピーチから, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉え, 自分の発表に必要なデータを収集する。 【思・判・表】様々な参考データから必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図, 概要, 要点, 詳細を捉え, グループで協議しながら自分の言葉でまとめる。その上で, 自分の考えをプレゼン形式で発表する。 【主】Make Your Own でのトピック (宇宙旅行) について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け, グループの意見をまとめる。	プレゼン ワークシート 自己評価 ペア (グループ) ワークへの取り組み 学期末提出物
9	Lesson 5 イベントなどを説明する。	【知・技】イベントについて紹介した記事から, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉え, 自分の発表に必要なデータを収集する。 【思・判・表】様々なイベントについてまとめた資料から必要な情報を読み取り, イベントの概要, 歴史, 要点, 詳細を捉え, グループで協議しながら自分の言葉でまとめる。その上で, 自分のテーマについてプレゼン形式で発表する。 【主】Make Your Own でのトピック (世界や日本の祭り) について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け, グループの意見をまとめる。	プレゼン ワークシート 自己評価 ペア (グループ) ワークへの取り組み
10	Lesson 6 理想の場所や時間を描写する。	【知・技】モデル文例 (理想の家についての描写) から, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉え, 自分の発表に必要なデータを収集する。 【思・判・表】様々な家の種類についてまとめた資料から必要な情報を読み取り, 概要, 要点, 詳細を捉え, グループで協議しながら自分の言葉でまとめる。その上で, 自分のテーマについてエッセイを書く。 【主】Make Your Own でのトピック (理想の家) について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け, グループの意見をまとめる。	エッセイライティング ワークシート 自己評価 ペア (グループ) ワークへの取り組み
11	Lesson 7 日本の観光をプレゼンテーションする	【知・技】日本の観光について紹介した記事から, 必要な情報を聞き取り, 概要や要点を捉え, 自分の発表に必要なデータを収集する。 【思・判・表】日本の観光名所についてまとめた資料から必要な情報を読み取り, 概要, 歴史, 要点, 詳細を捉え, グループで協議しながら自分の言葉でまとめ, グループプレゼン形式で発表する。 【主】Make Your Own でのトピック (日本の観光名所) について, 情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け, グループの意見をまとめる。	グループプレゼン ワークシート 自己評価 ペア (グループ) ワークへの取り組み

12	Lesson 8 趣味について書く	【知・技】プロのベシストが書いた記事から、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉え、自分の発表に必要なデータを収集する。 【思・判・表】様々な趣味についてまとめた資料から必要な情報を読み取り、概要、要点、詳細を捉え、グループで協議しながら自分の言葉でまとめる。その上で、友人の趣味についてプレゼン形式で発表する。 【主】Make Your Own でのトピック(趣味)について、情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、グループの意見をまとめる。	プレゼン ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み 学期末提出物
1	Lesson 9 物事を分析して評論する	【知・技】テレビコマーシャルについて書いた記事から、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉え、自分の発表に必要なデータを収集する。 【思・判・表】様々な社会問題についてまとめた資料から必要な情報を読み取り、概要、要点、詳細を捉え、グループで協議しながら自分の言葉でまとめる。その上で、自分のテーマについてエッセイを書く。 【主】Make Your Own でのトピック(pink tax, super solo trend 等)について、情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、グループの意見をまとめる。	エッセイライティング ワークシート 自己評価 ペア(グループ)ワークへの取り組み 学期末提出物

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

論理・表現Ⅲでは、「論理・表現Ⅰ,Ⅱ」で学んだ「英語で表現できる力」を更に伸ばすことを目標としていきます。英語での表現やコミュニケーションをとる際の、自発的に英語を活用していける姿勢はもちろん、モデル文や教科書のフレーズを引用するだけでなく、自分の中にある英語知識(=語彙力、ボキャブラリー)を基に、引き続きプレゼンテーションやディベートにも積極的に挑戦し、より英語を自在に使えるように心がけていきましょう。

定期テストは実施しませんので、普段の授業でのペアワークや発表などの活動、課題英作文などの提出物で評価を行います。毎時間積極的に授業に取り組むようにしてください。

令和7年度 外国語科 ディベートディスカッションⅡ シラバス

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次 普通科
教科書	COMET Ⅲ(数研出版)	副教材等	なし

2 科目の目標

社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、聞き手を説得することができるよう、論理的に一貫性のある議論をすることができる資質・能力を養う。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・情報や考え、気持ちなどを伝えるための表現の形・意味・用法を理解している。 ・学んだ知識を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えるための表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを論理的に表現する技能を身につけている。	【観点の到達目標】 ・ディベートやディスカッションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に、かつ論理的に表現したり伝えあっている。	【観点の到達目標】 自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えるために、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。その際、自分が必要とする語彙や表現を、辞書や検索エンジン等を使って手に入れる等、意欲的に表現しようとする姿勢がみられること。
【イチカシ学カスタンダード】 ・プレゼンテーションやスピーチの準備に必要な語彙、文法力を養い、自分で原稿を作成できるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・スライドやデータを活用しながら、2分間程度のプレゼンテーションができるようになる。 ・例文や辞書など一定の支援を活用しながら、まとまった長さ(100 語程度～)で文章が書けるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・プレゼンテーションやスピーチの準備として、ペアワークやグループワークを積極的に行い、主体的に学ぶ姿勢を身につける。 ・自分のプレゼンテーションのテーマを工夫して伝えようとする姿勢を身につける。
【評価の方法】 ・プレゼンテーション ・ペアワーク・グループワークへの取り組み ・ワークシート提出	【評価の方法】 ・プレゼンテーション ・ペアワーク・グループワークへの取り組み ・ワークシート提出	【評価の方法】 ・ワークシート提出 ・ペアワークへの取り組み ・自己評価・リフレクション

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 ・ 5	Project 1 Teach Me Something!	【知・技】誰かに自分の興味のあるものを伝えるための方法を理解する。 【思・判・表】自分の興味のあることについて適切な表現で書く。 【主】自分の興味のあることについてスライドを用いてクラス内で発表する。	ワークシート ペアワーク・グループワークへの取り組み プレゼンテーション
6 ・ 7	Project 2 Ichikashi Tour	【知・技】校内の情報を伝えるための方法を理解する。 【思・判・表】校内の情報について適切な表現で原稿を書き、伝える。 【主】校内の情報について映像を用いて発表する。	ワークシート ペアワーク・グループワークへの取り組み プレゼンテーション
9 ・ 10	Project 3 Someone Who Inspires Me	【知・技】影響を受けた人物について伝えるための方法を理解する。 【思・判・表】影響を受けた人物について適切な表現で書く。 【主】影響を受けた人物についてスライドを用いてクラス内で発表する。	ワークシート ペアワーク・グループワークへの取り組み プレゼンテーション
11 ・ 12	Project 4 News Report	【知・技】自分の関心があるニュースを伝えるための方法を理解する。 【思・判・表】自分の関心があるニュースについて適切な表現で原稿を書き、伝える。 【主】自分の関心があるニュースについてスライドを用いてクラス内で発表する。	ワークシート ペアワーク・グループワークへの取り組み プレゼンテーション
1	Project 5 Research paper	【知・技】誰かに自分の興味のあるものを伝えるための方法を理解する。 【思・判・表】自分の興味のあることについて図表を用いてまとめる。 【主】自分の興味のあることについてスライドを用いてクラス内で発表する。	ワークシート ペアワーク・グループワークへの取り組み プレゼンテーション

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

文法の知識や活用力を伸ばし、論理的に英語で表現できる力をつけることを目標としていきます。書くことや話すことだけでなく、4技能(読む、書く、聞く、話す)の全てを伸ばせるように取り組んでいきます。英語での表現やディベート、ディスカッションをとる際には、自発的に英語を活用していけるように心がけていきましょう。

実技テストや普段の授業でのペアワークや発表などの活動、課題英作文などの評価配分が高くなる科目ですので、毎時間積極的に授業に取り組むようにしてください。

令和 7 年度 外国語科 エッセイライティング

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次
教科書	MAINSTREAM English Expression I (増進堂)	副教材等	なし

2 科目の目標

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数のパラグラフから成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。	【観点の到達目標】 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、複数のパラグラフから成る文章で論理的に詳しく書いて伝えている。	【観点の到達目標】 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・新しい語彙や文法を身につけ、基本的な英文が書けるようになる。 ・エッセイの書き方を理解し、ルールに則った英文を書けるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・エッセイで 100 語程度の英文が書けるようになる。 ・自分の書いたエッセイをもとに、パートナーと 3 分間会話し続けられるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 ・言語学習を通して、異文化を理解できるようになる。 ・ペアワークやグループワークを通して、主体的に学ぶ姿勢を身につける。
【評価の方法】 ・ワークシート提出	【評価の方法】 ・ワークシート提出 ・ペアワークへの取り組み	【評価の方法】 ・ワークシート提出 ・ペアワークへの取り組み ・自己評価・リフレクション

4 3 観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	Lesson 1 トピックを決める	【知・技】トピックを決めるための方法を理解する。 【思・判・表】エッセイを書く際に、ブレインストーミングを使ってトピックを書き出す。 【主】トピックの決め方について、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み

5	Lesson 2 アウトラインを決める	【知・技】アウトラインの決め方を理解する。 【思・判・表】エッセイを書く際に、ブレインストーミングの内容をもとにエッセイのアウトラインを決定する。 【主】アウトラインの決め方について、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
6	Lesson 3 レトリックとは何か	【知・技】レトリックについて理解する。 【思・判・表】エッセイを書く際に、レトリックを活用して自分の意見・主張を強める。 【主】レトリックについて、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
7	Lesson 4 イントロ パラグラフ	【知・技】イントロ・パラグラフの役割を理解する。 【思・判・表】エッセイを書く際に、イントロ・パラグラフから書き出す。 【主】イントロ・パラグラフについて、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
9	Lesson 5 ボディ パラグラフ	【知・技】ボディ・パラグラフの役割を理解する。 【思・判・表】エッセイを書く際に、自分の意見を強めるためのボディ・パラグラフを書く。 【主】ボディ・パラグラフについて、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
10	Lesson 6 コンクルーディング パラグラフ	【知・技】コンクルーディング・パラグラフの役割を理解する。 【思・判・表】エッセイを書き終える際に、コンクルーディング・パラグラフで締める。 【主】コンクルーディング・パラグラフについて、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
11	Lesson 7 つなぎ語を使う	【知・技】つなぎ語の種類・役割を理解する。 【思・判・表】エッセイを書く際に、つなぎ語を使って論理的に文章を展開する。 【主】つなぎ語について、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
12	Lesson 8 FANBOYS を 使う	【知・技】FANBOYS の種類・役割を理解する。 【思・判・表】エッセイを書く際に、FANBOYS を使って論理的に文章を展開する。 【主】FANBOYS について、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み
1	Lesson 9 パンクチュエーションの使い方	【知・技】パンクチュエーションの種類・役割を理解する。 【思・判・表】エッセイを書く際に、パンクチュエーションを使って論理的に文章を展開する。 【主】パンクチュエーションについて、情報や考えなどを詳しく話してお互いの意見を交換し合う。	ワークシート 自己評価 ペアワークへの取り組み

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

授業では主に「書く」ことを中心に授業を展開していきますが、他の「聞く」「話す」「読む」の合わせて4分野を総合的に評価していきます。英語検定2級レベルの英語量(80～100語)を書けるように、日頃の授業で訓練をしていきます。授業への主体的な態度も評価の対象になりますので、失敗を恐れずに積極的に発言をしてください。

令和7年度 外国語科 英語理解シラバス

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次
教科書	副教材のみ	副教材等	・肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本(角川書店) ・共通テストリスニング実践30 min(Emile)

2 科目の目標

1. 読解に必要な英文法を体系的に学び、それらを軸として文章を正確に読み取る技能を習得する。
2. 文章の内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉え、書き手の意図を把握し、内容を解釈する力を養う。
3. リスニングのトレーニングを通じて共通テストをはじめ、英検などの外部試験にも通用する力を養う。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
様々な文法や表現、またその用法の理解を基に、英文の概要を読み取り、筆者の意図を把握する際の基本的な構成や基礎的な表現を理解している。	【観点の到達目標】 様々な分野について書かれ英文を読んで、概要を捉えている。	【観点の到達目標】 様々な分野について書かれ英文を読んで、概要を捉えようとしている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・新しい語彙や文法を身につけ本文の英文の読解ができるようになる。	【イチカシ学カスタンダード】 既習文法や語彙を使って本文の英文の概要を捉え、情報を読み取る。 問題演習を通して、詳細な情報を捉える。	【イチカシ学カスタンダード】 ・言語学習を通して、諸問題に関心を持つ。 ・ペアワークやグループワークを通して、主体的に学ぶ姿勢を身につける。
【評価の方法】 定期考査 単元テスト等 課題の取り組み状況	【評価の方法】 問題演習の取り組み状況 定期考査	【評価の方法】 課題の取り組み状況 ペア/グループワークの取り組み状況

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度の3観点から基準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	R:テーマ01~03 L:Day1~4	【知・技】SVを意識して文が読める。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。得た文法知識を活用して読める。 【主】SVなどの文構造に関心を持ち、自ら使おうとする。	言語活動の取り組み状況の観察
5	R:テーマ04~06 L:Day5~8	【知・技】句や節に関する理解を深める。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。得た文法知識を活用して読める。 【主】句や節に関する文法の関心を持ち、自ら使おうとする。	言語活動の取り組み状況の観察
6	R:テーマ07~09 L:Day9~12	【知・技】節、不定詞、動名詞のかたまりを意識して文が読める。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。得た文法知識	言語活動の取り組み状況の

		識を活用して読める。 【主】不定詞や動名詞を伴う文構造に関心を持ち、自ら使おうとする。	観察
7	R:テーマ10~14 L:Day13~15	【知・技】that, it, asの役割を意識して文が読める。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。得た文法知識を活用して読める。 【主】様々な that 等を伴う文の構造に関心を持ち、自ら使おうとする。	言語活動の取り組み状況の観察
	期末考査		
9	R:テーマ15~19 L:Day16~19	【知・技】強調構文を意識して文が読める。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。得た文法知識を活用して読める。 【主】強調の表現に関心を持ち、自ら使おうとする。	言語活動の取り組み状況の観察
10	R:テーマ20~24 L:問題演習	【知・技】比較や関係詞を意識して文が読める。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。得た文法知識を活用して読める。 【主】比較などの文構造に関心を持ち、自ら使おうとする。	言語活動の取り組み状況の観察
11	R:テーマ25~29 L:問題演習	【知・技】文型を意識して文が読める。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。得た文法知識を活用して読める。 【主】4, 5文型などの文構造に関心を持ち、自ら使おうとする。	言語活動の取り組み状況の観察
12	R:テーマ30~33 L:問題演習	【知・技】文型を意識して文が読める。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。得た文法知識を活用して読める。 【主】「与える形」、「つなぐ系」など、様々な文構造に関心を持ち、自ら使おうとする。	言語活動の取り組み状況の観察
	期末考査		
1	入試直前調整 問題演習	【知・技】入試問題等の Reading、Listening ができる。 【思・判・表】様々な分野の長文を読み内容を理解する。これまでに得た文法知識を活用して読める。 【主】それぞれの目標に向けたトレーニングを継続している。	言語活動の取り組み状況の観察

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

英検や一般受験だけではなくさらにその先の将来を見据え、英語のトレーニングに励みましょう。「何かを教えてもらえる」という受け身の姿勢ではなく、自分から進んで学ぶ学習習慣を身に着けるためのきっかけにしてほしいと思います。

令和7年度 外国語科 中国語 I

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次
教科書	標準 高校中国語(白帝社)	副教材等	なし

2 科目の目標

中国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、異文化に対する関心を深め、尊重する態度を育てる。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 中国文化についての知識や、新出単語・文法を身に着け、短文がつかれるようになる。 ピンイン・声調を正確に発音できる力	【観点の到達目標】 数字や基礎的な文法を理解し、自分の身の周りのことについて話したり、述べたりする力を身に着ける。	【観点の到達目標】 中国語や中国文化に対する理解を深め、主体的に追及・解決しようとする態度を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ・新出単語や文法の確実な習得 ・ピンイン・声調を正確に発音できる力	【イチカシ学カスタンダード】 ・既習単語や表現を使い、情報や気持ちを伝える力 ・10語程度の作文を書く力	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学習に取り組む。 ・主体的な課題の発見・解決 ・自らの学び方も学ぶ
【評価の方法】 ・定期考査 ・発音テスト	【評価の方法】 ・作文 ・ペアトーク	【評価の方法】 ・宿題 ・振り返りシートにおける記述

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識技能及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3観点から基準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	発音① あいさつ 声調・基本母音	【知・技】 基本母音と声調を理解し、正しく発音できる。 【思・判・表】 状況に応じた簡単な挨拶を使い分け、表現できる。 【主】 中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート
5	発音② 二重母音・三重母音	【知・技】 二重母音・三重母音を理解し、正しく発音できる。 【思・判・表】 2文字以上の単語を正しく発音し、声調・ピンインを聞き分けられる。 【主】 中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート
6	発音③ 子音と母音の組み合わせ 第1・2課 「あいさつ」	【知・技】 子音と母音の組み合わせを理解し、単語を正しく発音できる。 【思・判・表】 状況に応じた簡単な挨拶を使い分け、表現できる。 【主】 中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート

7	第3課 自己紹介	【知・技】自己紹介の表現を覚え、自分のことを紹介できる。 【思・判・表】自己紹介をし合い、聞いたことを他の人に伝える文が書ける。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート ・定期考査
9	第4・5課 「是」を使った文 副詞・反復疑問文	【知・技】「是」の使い方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート
10	第6・7課 疑問詞 指示代名詞	【知・技】疑問詞・指示代名詞の使い方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート
11	第8・9課 動詞述語文 形容詞述語文	【知・技】動詞述語文・形容詞述語文の使い方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート
12	第10課 「有」を使った文 数の数え方	【知・技】1～99までの数字や「有」の使い方を覚え、自分や身の周りのことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート ・定期考査
1	第11課 「一」の変調 「在」を使った文	【知・技】「一」の変調のしくみと「在」の使い方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・発音テスト ・振り返りシート

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- 中国語マスターへの道は、正しい発音と文法を身に着けること。そして何より、「中国文化や中国語が好き!!という気持ち」を持って、自分から積極的に授業に参加・発表しましょう!語学は、使っていくうちに身につけていきます。失敗を恐れず、習ったことをどんどん使って、中国語や中国文化を楽しんでください。
- 授業では、林先生は発音を中心に、河野は文法を中心に教えます。持ち物は、教科書・ファイル・chromebook・「やる気」です。毎時間忘れず、必ず持ってきてきましょう。授業後の振り返りシートは、「自分が考えたこと、次はどんなことを頑張りたいか、そのために何を頑張るか」を書き、自分の課題を見つけ、解決する力を評価します。

令和7年度 外国語科 中国語Ⅱ

1 科目について

単位数	2単位	学科・学年	3年次
教科書	対話・短文で学ぶ アップデート中国語	副教材等	なし

2 科目の目標

中国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、異文化に対する関心を深め、尊重する態度を育てる。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 中国文化についての知識や、新出単語・文法を身に着け、短文がつかれるようになる。 ピンイン・声調を正確に発音できる力	【観点の到達目標】 中国語Ⅰの既習事項と合わせて、新出の文法を理解し、自分の身の周りのことについて話したり、述べたりする力を身に着ける。	【観点の到達目標】 中国語や中国文化に対する理解を深め、主体的に追及・解決しようとする態度を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 ・新出単語や文法の確実な習得 ・ピンイン・声調を正確に発音できる力	【イチカシ学カスタンダード】 ・既習単語や表現を使い、情報や気持ちを伝える力 ・10～15語程度の作文を書く力	【イチカシ学カスタンダード】 ・主体的に学習に取り組む。 ・主体的な課題の発見・解決 ・自らの学び方も学ぶ
【評価の方法】 ・定期考査 ・発音テスト	【評価の方法】 ・作文 ・ペアトーク	【評価の方法】 ・宿題 ・振り返りシートにおける記述

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識技能及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3観点から基準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	第12・13課	助数詞、「多少」を使った文 【知・技】 助数詞、「多少」の使い方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】 学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】 中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・振り返りシート ・暗唱
5	第14・15課	「几」を使った文と時間、完了を表す文、日付と曜日の復習 【知・技】 「几」を使った文と時間、完了を表す文の作り方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】 学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】 中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・振り返りシート ・暗唱
6	第16・17課	時間、1日の行動を表す文、「喜欢」を表す文 【知・技】 時間、1日の行動を表す文、「喜欢」を使った文の作り方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】 学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】 中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・振り返りシート ・暗唱

7	第18課①	「怎么」、「给」を使った文 【知・技】「怎么」、「给」を使った文の作り方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・暗唱 ・振り返りシート ・定期考査
9	第18②・19課	連動文、「了」「过」を使った過去や完了を表す文 【知・技】連動文、「了」「过」を使った過去や完了を表す文の作り方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・暗唱 ・振り返りシート
10	第20・21課	「能」、「可以」、「会」を使った文、形容詞述語文 【知・技】「能・可以・会」の使い方、形容詞述語文の作り方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・暗唱 ・振り返りシート
11	第22・23課	「要」、「跟」を使った文、「着」、「正在」を使った文 【知・技】「要」「跟」、「着・正在」の使い方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・暗唱 ・振り返りシート
12	第24課	「在」を使った進行を表す文 【知・技】「在」を使った進行を表す文の作り方を覚え、自分のことを伝える文が書ける。 【思・判・表】学んだ文法を使って、他の人に質問し、自分のことも伝えることができる。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・暗唱 ・振り返りシート ・定期考査
1	1年間のまとめ	【知・技】既習内容を踏まえ、中国語検定準4級・4級の問題を解くことができる。 【思・判・表】学習した文法を使って、自分のことを紹介する文が書ける。 【主】中国文化・中国語のしくみについて、主体的に追及しようとしている。	・振り返りシート ・定期考査

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- 昨年度に引き続き、皆さんと中国語の学習ができて嬉しいです。中国語マスターへの道は、正しい発音と文法を身につけること。そして何より、「中国文化や中国語が好き!!」という気持ちを持って、自分から積極的に授業に参加・発表しましょう!語学は、使っていくうちに身につけていきます。失敗を恐れず、習ったことをどんどん使って、中国語や中国文化を楽しんでください。
- 授業では、林先生は発音を中心に、河野は文法を中心に教えます。持ち物は、教科書・ファイル・chromebook・「やる気」です。毎時間忘れず、必ず持ってきてましょう。授業後の振り返りシートは、「自分が考えたこと、次はどんなことを頑張りたいか、そのために何を頑張るか」を書き、自分の課題を見つけ、解決する力を評価します。

令和7年度 家庭科 家庭科研究

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次 A,C 体、D～I スポーツ科学科
教科書	未来へつなぐ 家庭基礎 365 (教育図書)	副教材等	生活ハンドブック (第一学習社)

2 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	【観点の到達目標】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	【観点の到達目標】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
【イチカシ学カスタンダード】 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎を理解し、それらに係る技能が身につく。	【イチカシ学カスタンダード】 グループワークについて さまざまなグループワークを経験し、課題解決に向けて最適な手法を選択できる力を養う。	【イチカシ学カスタンダード】 授業に集中して取り組み、テーマごとの課題解決を目指す。 実習、ワークシートを通して、知識を整理する。 疑問に思ったことは質問するなど反復することで理解を深める。
【評価の方法】 ・定期考査 ・ワークシート ・作品 など	【評価の方法】 ・定期考査 ・ワークシート ・作品 ・グループワーク ・実習 など	【評価の方法】 ・宿題 ・ワークシート ・作品 ・定期考査 ・実習 ・グループワーク など

4 3観点を組み合わせた評価の方法

知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の 3 観点から規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4	単元名 B 編 第2章 衣生活と健康	【知・技】・被服の機能について理解している。 ・衣服が健康に与える影響について理解している。 【思・判・表】・衣生活に関する学習を通して、自身の着装について考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ・被服の社会的機能について、新聞、書籍、インターネットなどを通して資料を収集したり、調査したりしてまとめることができる。 【主】・自身の衣生活の分析を通して、衣服に関心を持ち、現代の衣生活に関心を持とうとしている。 ・衣服で個性を表現しようとしている。 ・衣服の機能や安全性、環境への配慮などの知識を生かして、自分の衣生活を改善しようとしている。	ワークシート 実習

5	B 編 第2章 衣生活と健康	【知・技】・三原組織や編物の構造を理解している。 ・平面構成と立体構成の特徴を理解している。 ・被服の入手,洗濯,保管などの被服管理について理解し,管理できる技術を習得している。 【思・判・表】・衣服の原料から廃棄(再利用)までの流れを調べ,まとめることができる。 【主】・社会的慣習に適応しながらも自己実現する着装の工夫をし,着用の目的に応じて健康的な衣服選択と着装をしようとしている。 ・被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。	ワークシート グループワーク 実習
6	B 編 第1章 食生活と健康	【知・技】・食中毒や食物アレルギーについて理解し,健康・安全を考えた調理をすることができる。 【思・判・表】・食品の表示を理解し,購入時の判断材料とすることができる。 ・調理の安全や衛生について具体的に考えている。 【主】・食の安全・衛生について関心を持ち,現代の食生活における課題について目を向けている。	ワークシート 実習 グループワーク
7	B 編 第1章 食生活と健康	【知・技】・食中毒や食物アレルギーについて理解し,健康・安全を考えた調理をすることができる。 【思・判・表】・食品の表示を理解し,購入時の判断材料とすることができる。 【主】・食の安全・衛生について関心を持ち,現代の食生活における課題について目を向けている。	ワークシート 実習 定期考査
9	B 編 第2章 衣生活と健康	【知・技】・布の縫い方など,基礎的な技術を身に付けている。 ・資源の有効利用の観点から,購入,活用,手入れ,再利用,廃棄まで考えた被服計画の必要性について理解している。 ・資源の有効利用まで考えた衣服の購入,再利用,廃棄までの衣服計画をたてることができる。 【思・判・表】・自分の衣生活について,人と比較して意見を言うことができる。 【主】・被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。 ・私たちの衣生活に関する文化や背景について理解し,自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	ワークシート グループワーク 実習 宿題
10	A 編 第3章 子どもの生活と 保育	【知・技】・子どもの心身の特徴や発達,遊びの意義を理解している。 ・子どもの生活の概要を理解している。 ・少子化,育児不安,児童虐待,子どもの貧困など,現代の子どもを取り巻く環境の変化と課題について考え,新聞・書籍・インターネットを活用したり,地域の関連機関へ調査に出向いたりして,資料を収集して調査することができる。 【思・判・表】・子どもの心身の特徴や発達,遊びの意義を捉え,子どもにとってよい環境について考え,意見をまとめたり,発表したりすることができる。 【主】・自分が将来,保育に関わる存在であることを理解し,自分ごととして学習に取り組んでいる。	ワークシート グループワーク 実習
11	B 編 第1章 食生活と健康	【知・技】・栄養素の特徴と,それを多く含む食品について理解している。 ・料理の作り方を理解し,基礎的な技術を身に付け,効率よく調理することができる。 【思・判・表】・食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを活用し,自身や家族の献立を考え,作成することができる。 【主】・栄養素や食品の知識を生かして,自分や家族の食生活を改善しようとしている。	ワークシート グループワーク 実習
12	B 編 第1章 食生活と健康	【知・技】・料理の作り方を理解し,基礎的な技術を身に付け,効率よく調理することができる。 【思・判・表】・自給率の低下や外食・中食への依存など現在の食生活の問題について深く考えている。 【主】・食生活の多様化や食環境の変化について知り,食生活と環境について科学的に考えようとしている。	ワークシート 実習 定期考査
1	B 編 第3章 住生活と住環境	【知・技】・住居の平面図を読みとることができる。 【思・判・表】・動線を考えて平面図を作成し,まとめたり発表したりすることができる。 【主】・将来の住まい方について考えようとしている。	ワークシート グループワーク 実習
2	B 編 第3章 住生活と住環境	【知・技】・安全で快適な住生活を送るための知識を身に付け,環境にも配慮した住生活について理解している。 【思・判・表】・防犯,防火,耐震などの安全性が高く,日照,採光,換気,遮音などに配慮して健康的に住むことができる住居について考えることができる。 【主】・住居の安全性や防災の知識を生かして,家庭生活において具体的な行動に移すことができる。	ワークシート グループワーク 実習
3	B 編 第3章 住生活と住環境	【知・技】・住生活の設計に必要な情報を収集・整理し,計画をたてることができる。 【思・判・表】・住居のバリアフリーやユニバーサルデザインについてまとめたり発表したりすることができる。 【主】・住居の持続可能性について自分ごととして考えようとしている。	ワークシート グループワーク 実習 定期考査

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス,授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

学習の中で習得した知識や技術を日常生活の中に活かすことで,より主体的な高校生活が送れることを期待します。
また,1年間の学習を通して,自らの生活の中で課題を発見し,改善していく力を身につけてほしいと思います。

令和 7 年度 情報科 IT 活用

1 科目について

単位数	2 単位	学科・学年	3 年次
教科書	情報 I step Forward! (東京書籍)	副教材等	日本語ワープロ検定試験3・4級模擬問題集 情報処理技能検定試験表計算 模擬問題集 3・4級編 (日本情報処理検定協会)

2 科目の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。

3 観点の到達目標および評価の観点・方法

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
【観点の到達目標】 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している	【観点の到達目標】 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	【観点の到達目標】 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
【イチカシ学カスタンダード】 ・ワード、エクセルの基礎的な活用方法の習得	【イチカシ学カスタンダード】 ・ワード、エクセルを用いてデータや文章を表現する。	【イチカシ学カスタンダード】 ・情報機器に主体的に触れる ・主体的な課題の発見・解決 ・自らの学び方を学ぶ
【評価の方法】 ・授業での課題作成 ・考査	【評価の方法】 ・授業での課題作成 ・考査	【評価の方法】 ・授業での課題作成に伴う振り返り

4 3観点を組み合わせた評価の方法

特に、知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, に注力しながら 3 観点の規準に従い、総合的に評価する。

5 学習の計画

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
4 5 6 7	・情報活用の基礎 (日本語ワープロの使い 方の習得)	【知・技】フォントやデザインの違いや有用性を理解している。 【思・判・表】各デザインやフォント・図形等にはどのような特徴があるのか、また、それらをどのように活用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】目的に応じたフォントやデザイン等の利活用の方法について、主体的に追究しようとしている。	・授業での課題作成 ・考査 ・授業での課題作成に伴う振り返り
9 10 11 12	・データ処理の基礎 (表計算ソフトの使 い方の習得)	【知・技】グラフやデザインの違いや有用性を理解している。 【思・判・表】各グラフやフォント・図形等にはどのような特徴があるのか、また、それらをどのように活用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】目的に応じたグラフやデザイン等の利活用の方法について、主体的に追究しようとしている。	・授業での課題作成 ・考査 ・授業での課題作成に伴う振り返り
1	・文書デザインの基礎	【知・技】アニメーションやデザインの違いや有用性を理解している。 【思・判・表】アニメーションやフォント・図形等にはどのような特徴があるのか、また、それらをどのように活用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】目的に応じたアニメーションやデザイン等の利活用の方法について、主体的に追究しようとしている。	・授業での課題作成 ・考査 ・授業での課題作成に伴う振り返り

担当者からのメッセージ(資質能力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・「IT活用」は、主にワープロソフトと表計算ソフトを使用し、情報を主体的に活用できる力を身につけることを目指しています。これからの社会で本当に必要な力をつけるため、積極的に授業に参加してください。
- ・内容を単に覚えるということではなく、実際に体験し、考え、行動する力を付けていくことが大切です。実社会に役立つ実践的な力を身につけられるように頑張りましょう。
- ・PC教室での授業になります。移動がありますが、授業はチャイムと同時に開始しますので、テキスト等を準備し、着席を完了してください。
- ・授業中は説明を確実に聞いてください。特にコンピュータなどの情報機器の操作については、手順通りに行わないと結果として他の人に迷惑をかけてしまう場合がありますので十分注意してください。
- ・提出物は確実に提出してください。